

No. 10221



襄維納屈士口述

石川彝筆記

基督教
叔目神子論
完

明治廿二年五月
米國聖教書類會社出版



自序

基督神子論ハ原來築地神學校ノ生徒ヲ教諭センガ爲
ニ著ス所ナルヲ以テ之ヲ生徒ニ授クルニ方テハ本論
ノ詳細ヲ口授シタリ、蓋シ神子論ヲ明細ニ詳悉セント
スレハ固ヨリ小冊子ノ能ク盡ス所ニ非ス、此書ノ如キ
ハ僅ニ本論ノ主意ト順序トヲ掲ケタルノミ、若シ之ヲ
細論セントスレハ此十章ヲ布衍シテ十卷ト爲スモ尙
未タ多シトセス、讀者宜シク此意ヲ體認セラル此書簡
短ナリト雖モ固ヨリ難所ヲ除テ簡諒ノミヲ教ルノ意
ニ非ス、近頃神學士ノ最モ難論スル所ヲ論究セント欲

スルナリ、故ニ若シ之ヲ布行シテ十卷ト爲シ十分ニ之
ヲ論スルニ其結局ハ別事ト爲ル可キニ非ス、本論ノ諸
事ヲ詳細ニ調査スル所ノ神學士ハ漸ク一致シテ、此ニ
載スル所ノ道理ニ由リ基督ハ神子ナリト云フ、予ハ固
ヨリ此一巻ヲ以テ十分ニ基督教ノ證據論ヲ立ント欲
スルニ非ス、反テ此他ニ基督教ノ爲ニ確乎タル證據甚
タ多シトスル者ナリ、予此ニ唯一事ヲ取テ之ヲ主意ト
シテ論シタルノミナリト雖也、此一事ハ基督教ノ爲ニ
最大要事ナルヲ以テ之ヲ信スレハ則チ他事ニ就テハ
多シ疑フ所ナカラントス、讀者諸君幸ニ此書ニ因テ基

督教ハ條理ナク道理ニ合ハサル者ニ非ストシ、基督ハ
實ニ神ノ愛子ナリト信仰スルノ心ヲ起シ、又既ニ基督
ヲ信仰スル者ハ之ニ因テ益々其信仰ノ基礎ヲ知悉シ
賜ハ、則チ本書ノ目的ヲ達シタルニ庶幾カラン、

明治十九年五月十一日於東京一致神學校

裏維、納屈士識

基督神子論目錄

緒言

頁一

第一章 論旨

同十七

第二章 神學前論

同二十八

第三章 道德前論拯救ノ要用

同五十一

第四章 基督教ノ結果

同八十三

第五章 神ニ就テ基督ノ教義

同百十三

第六章 基督完全無類ノ質

同百三十九

第七章 奇蹟

同百七十一

第八章 基督ノ知人及ヒ基督親徵ノ證據

同二百七

第九章 豫言ノ證據

同二百三十四

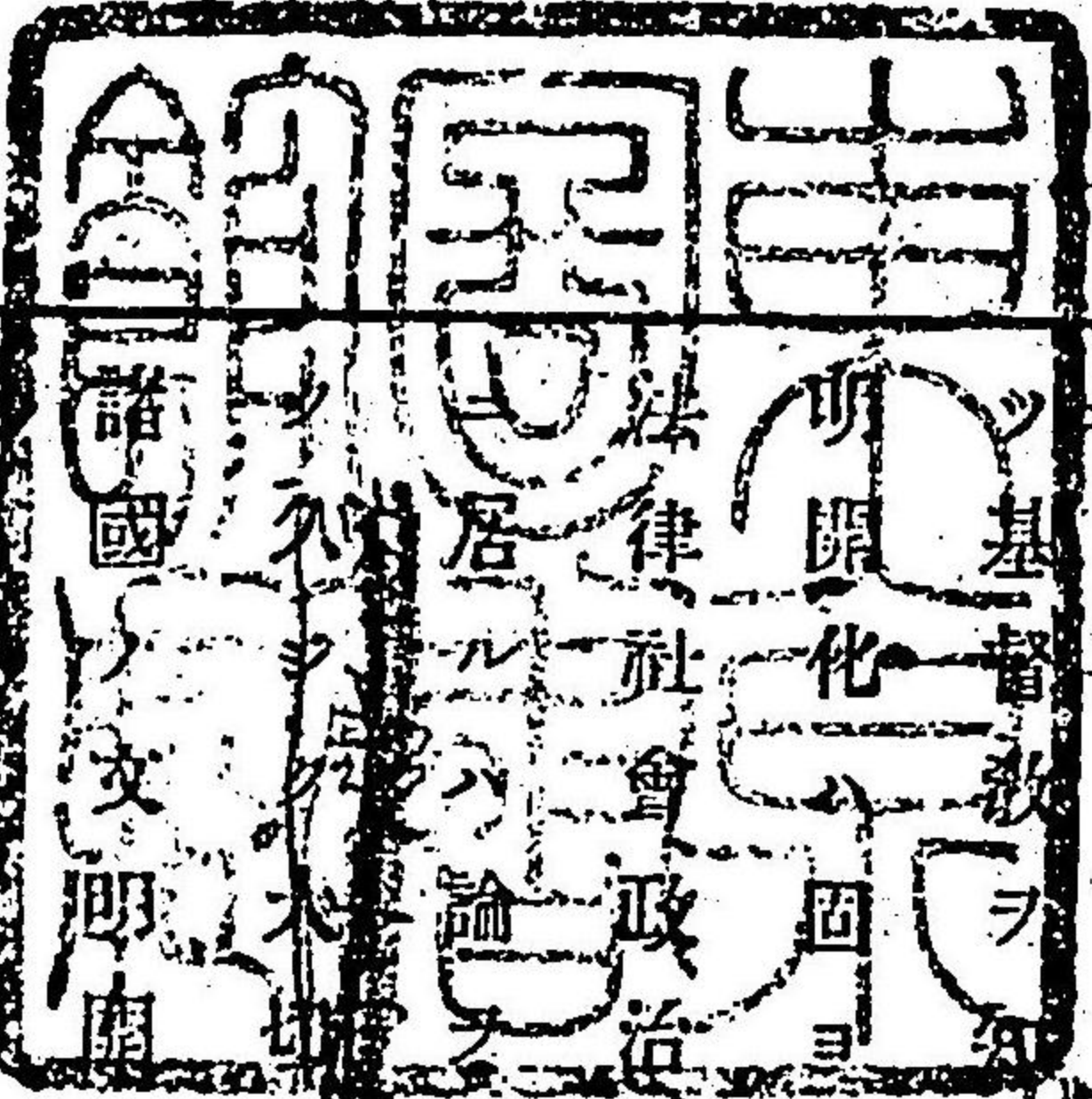
第十章 異端論者ノ攻撃ニ答フ

同二百六十五

基督神子論目錄畢

緒言

凡ソ西洋諸國ノ文明開化ヲ調査セント欲スル者ハ必ス先
 ツ基督教ヲ知ル可カラス、何トナレハ西洋諸國ノ文
 明開化ハ固ヨリ基督教ニ密接連続者ナリ、學藝、道德、
 法律、社會、政治、技術、教育、救恤ハ基督教ノ關係、及ヒ勢力多キ
 居ルハ論ス俟タス、又歐羅巴ノ歴史ニ於テモ、基督教ノ如
 キ諸國ノ文明開化ヨリ基督教ノ勢力ヲ取ルコアラバ、其文明
 開化ハ全ク變化ス可キナリ、若シ果シテ其勢力ヲ除カハ西
 洋ノ開化ハ善ナラン乎、將タ惡ナラン乎、茲ニ之ヲ論ゼズ、只
 西洋ノ事情ヲ調査スルノ志アル者ハ、必ス基督教ヲ知ラサ



ル可カラサルナリ、而モ之ヲ知ルハ無益ノ學問ニ非ス、若シ基督敎ヲ信ゼザルモ、其他百般ノ事情ヲ調査スルカ爲ニ、必ス之ヲ知ラサル可カラス、加之ナラス、基督敎ハ只西洋ノミニ大事ナル者ト爲スコカラス、基督敎ハ方今大ニ弘マリ、萬國ニ於テ大切ナル事實ト爲レリ、是啻ニ傳道師、宣教師ノ作用ニ因ルノミナラス、西洋ノ貿易ニ由リ學術ニ由テ、信徒漸ク多キヲ加フル者ナリ、方今字内ノ大勢ヲ察スレハ、基督敎ハ啻ニ歐米諸國ノ敎ニ非ス、亞非利加、澳太刺利二洲ノ如キ土耳其、暹羅、印度、支那ノ如キモ、亦基督敎ノ信徒甚ダ多シトス、近世傳道ノ情況ヲ觀ルニ、今後一百年ヲ經過セハ、四方皆基督敎ヲ奉ゼザル者ナキニ至ラントス、基督敎斯ノ如ク天

下ニ重要ナル者ト爲リシハ抑々何ノ故ソヤ、今左ニ一二ノ統計表ヲ掲ケテ、以テ近年基督敎倍々増加ノ便覽ニ供セントス、

第一表 基督敎信徒ノ統計、

紀元一百年	五十萬人
同 五百年	百五十萬人
同 一千年	五千萬人
同 一千五百年	一億人
同 一千八百年	二億人
同 一千八百八十年	四億一千萬人

此表ニ由レハ第十八世期ノ終リ、即チ紀元一千八百年ニ於

テ、基督教信徒ハ二億ニ至リ、其以後第十九世期ニ於テハ八十年間ニシテ、又二億一千万ヲ増加シタリ、是此八十年間ノ増加ハ前ノ一千八百年間ノ増加ヨリモ更ニ多キヲ加ヘタルヲ觀ル可シ、

第二表 基督教國治下ノ民口統計、

一千五百年 一億人

一千八百七十六年 六億八千五百萬人

第三表 外國傳道資金新教ノ分ノ

一千八百年 金貨二十五萬圓

一千八百八十年 同 八百一萬六千四百四十八圓

第四表 聖書翻譯ノ國語、

一千八百年 五十國語
一千八百八十年 二百五十國語

第五表 米洲聯邦聖餐ヲ守ル信者ノ統計、

但小兒ヲ算入セス、

一千八百年 三十六萬四千八百七十八人

一千八百八十年 三十六萬四千八百七十八人

一千八百八十年 一千六萬五千九百六十三人

民口五人ニ付一人ノ割

轉萬國ノ情態ヲ惟ミルニ方今ノ世界ハ所謂ル基督教國政府ノ手ニ落チタル者ナリ、又目今進歩スル所ノ諸國ハ悉ク基督教國ト見ヘタリ、又今文明開化ノ尤大ナル諸國ハ大概

皆所謂ル基督教國ナリ、其一證ヲ舉グレバ大日本帝國ハ今
維新ノ勢力ニ由テ、駿々乎トシテ進歩ノ道ニ就カントス、而
シテ其前途ノ嚮導トシテ頼ム所ノ者ハ、亦基督教國ノ文明
開化ナリ、然レバ則チ日本人ハ必ズ基督教ヲ知ラザル可カ
ラザルハ論ヲ俟タス、然リト雖モ之ヲ調査スル者、初メテ基
督教ヲ視ル時ハ所謂ル基督教國ノ社會ニ於テモ、衆人悉ク
基督教ヲ受テ之ヲ信仰スル者ニ非ザルヲ知テ、而後ニ之ヲ
調ブ可キナリ、基督教國ニ於テハ殊ニ其教義ニ就テ尤モ議
論多シトス、他國ニ於テハ反テ是ノ如ク議論シタルコトナシ、
凡ソ學士タル者ハ文學、理學、法學、其他何學ニ拘ラス、醫學士
ニ至ルマテ各其専門學科ノ外ニ、皆基督教ヲ研究スル者ナ

リ、或ハ其中ニ不信ナル學士ナキニ非ス、又基督教ヲ攻撃ス
ル者アルモ亦明カナリ、而モ之カ爲ニ基督教ハ己ニ死シタ
リ、生命ナキ者ナリト謂フ可カラス、却テ其議論アルハ即チ
基督教ニ勢力アリ、生命アルヲ顯明スル者ナリ、例ヘハ日本
ニ於テ學士ハ佛法ノ眞偽ヲ措テ問ハザルガ如シ、又博ク世
界ヲ顧ミレハ佛教、波羅門教、回教ニ就テハ基督教ノ如ク議
論多カラス、何トナレハ是等ノ諸教ハ神ヨリ出タル眞道ニ
非ストスルノ説ヲ立ツルモ、畢竟徒勞ニ屬スルヲ知レバナ
リ、是ニ由テ之ヲ觀レハ、學士ノ議論ナキハ則チ其教ノ既ニ
死滅ニ屬シタルノ休徵ナリ、凡ソ現時ニ生活スル所ノ大事
ヲ論ズルハ人情ノ常ナリ、然レハ則チ不信ナル學士ノ基督

八
教ヲ論駁スルヲ觀レハ、何故ニ此學士ハ此ノ如ク基督教ヲ
憎ミテ之ヲ滅サント欲スル乎、必ス之ヲ察セザル可カラス、
夫基督教ハ日本人ノ説ノ如ク、婦人女子若シクハ無智無識
ノ者ニ教フルノ道~~キ~~、反テ學者ハ殊ニ之ヲ精細ニ調ベ
ザル可カラス、當今基督教ノ情況ヲ察スルニ、西洋諸國ニ於
テ種々ノ善事アルハ論ヲ俟ズト雖~~正~~、又惡弊ノ今ニ存スル
者亦尠カラズ、例ヘバ所謂ル基督教國政府ナル者、必スシモ
常ニ正義ト謂フ可カラス、彼國政府ハ善ニモ強ク、又惡ニモ
強キ者ト見ヘタリ、西洋ノ社會ヲ聖書ニ照シテ之ヲ觀レハ
西洋ノ文明開化ハ未タ聖書ノ真理ニ至ク合ヒタリト謂フ
可~~レ~~能ハス、加之ナラス基督教ニ就テモ亦意味ノ異ナル者ア

九
リ、其教義ニ區別アリ、以テ宗派ヲ分テリ、故ニ基督教ニ續テ
種々ノ學問アリ、議論アリ、神學アリ、道德論アリ、而モ其中ニ
頗ル大切ナル主意モ亦之アルヲ以テ、基督教ヲ調査スル者
ハ、西洋ニ於テ今ニ惡、不義、爭鬪、議論ノ遺存スル者ハ、何故ナ
ル乎、而シテ基督教ノ主意ハ抑モ何者ナル乎、又此主意ハ果
シテ眞乎、僞乎、是等ノ事ヲ調査スルヲ以テ尤モ大事ト爲ス
可シ、此他ニ珍奇ノ事、重大ノ事モ夥多アリト雖~~正~~、先ツ基督
教ノ心ハ眞乎、僞乎、之ヲ調査シ得レハ則テ其餘ハ與シ易キ
ノミ、是故ニ本書ニ於テハ聊カ此一大要事ヲ論セントスル
ナリ、
抑々基督教ハ眞乎僞乎、此調査ニ就テハ少シク徵證ノ法方

ヲ思考セサル可カラス、而シテ其證據ハ固ヨリ數理學ノ證據ノ如キ者ニ非ス、若シ夫數理ノ證據ノ如キハ、既ニ其論題ヲ解スレハ、輒チ諸人ノ普ク認知スル所ナリ、而モ尙之ヲ疑フ者ハ道理ヲ解セザル人ニ非サレハ則チ狂人ナリ、又即今眼前ニ在ル者ノ加ク、直接ニ手ニ觸レ目ニ見ヘ耳ニ聞ユル所ノ證據ニ非ス、又基督敎ハ狹小ノ者ニ非サルヲ以テ、狹小ノ徵證ニ由リ僅少ノ議論ヲ以テ、其可否ヲ判斷ス可キ者ニ非ス、必スヤ其證據ヲ聞テ後ニ尙之ヲ疑フ可カラスト云フコトヲ得サル者ナリ、能ク其證據ヲ調査シテ而シテ後ニ或ハ信者トナリ、或ハ不信者トナル者アリ、而モ之カ爲ニ此調査ヲ以テ無益ト爲ス可カラス、何トナレハ世間重要ノ事物モ

大約皆是ノ如シ、理學、歴史、法律、政治、等ノ諸學科ニ於テモ、亦皆疑惑スルコト能ハサル、證據ニ由テ立ツ者ニ非ス、是等ノ諸學科ニ就テモ亦議論紛々タリト雖モ、然モ尙之カ爲ニ是等ノ諸學科ヲ以テ無用ノ者ト爲ス可カラス、却テ此證ト彼證トヲ對照シ、此說ト彼說トヲ比較シテ、而テ後ニ果シテ真理ノ何レニ在ルヲ知ル可キナリ、是等ノ諸學科ニ於テモ、尙未タ其理ヲ究メサルコトアリ、或ハ煩雜ニシテ解シ難キコトアリト雖モ、之カ爲ニ其學科ヲ廢棄ス可キニ非ス、况ヤ之ヲ駁撃スル者ト雖モ、其難事アリ其證據ナキヲ以テ、之カ爲ニ其學科ヲ廢棄スルコト能ハス、反テ舊說ニ勝ル所ノ明說ヲ立サル可カラス、蓋シ是等ノ實說ヲ調査セザル可カラザルハ、人

性ノ然ラシムル所ナルニ惟因ルナリ、若シ我説ニ就テ或ハ
難問アリ、了解ス可カラサルコアリト雖也、之カ爲ニ自説ヲ
放棄スルノ理ナカル可シ、凡ソ信仰スル所ナク思慮スル所
ナキハ、最モ人ノ満足セサル所ナリ、是ニ於テ平、日本ノ昔時
ニ於テ學士ノ佛説ヲ駁撃スルヤ、嘗ニ其難事ヲ質疑シ、道理
ニ合ハサル事實ヲ發露スルノミナラス、又頻ニ儒道ノ勝ル
所ヲ稱揚シタリ、又進化論ニ於テモ了解シ難キ所アリ、證據
ノ不充分ナル所アリ、又未ダ究理セサル所多シト雖也、而モ
當時ノ學士ハ大概其論旨ヲ承認シタル者ノ如シ、何トナレ
ハ前ニ述ルカ如ク、學問ノ爲ニ之ヨリ大切ナル明説ナク、有
益ナル確論ナキヲ以テナリ、仮令進化論ニ難事アリト雖也

他ニ異説ヲ爲ス者ニハ、之ヨリ更ニ一層ノ難事多キヲ以テ
進化論ヲ棄テ異説ニ移ル者ハ、難ヲ去テ易ニ就クノ路ニ非
ス、反テ有説ヲ離レテ無説ニ陥リ、愈々困難ノ路ニ就ク者ナ
リ、凡ソ有説ヲ去テ無説ニ就クハ、難路ヲ遁ル、ノ道ニ非ス、
反テ難事ノ存スル者益々多ク進歩少キ者ナリ、若シ進化論
ヲ攻撃セント欲スル者ハ、嘗ニ其道理ニ合ハズ證據ナキヲ
顯ハスノミナラズ、必ス又進化論ニ勝ル所ノ明論ナカル可
カラス、若シ然ラサル者ハ眞ニ駁撃ノ力アル者ニ非ス、宗教
ニ於テモ亦是ノ如シ、人智未ダ天地ノ太極ヲ知ラス、萬物ノ
道理ヲ究メス、隨テ人ノ義務ノ如キモ、未ダ之ヲ詳悉シタル
者ニ非ス、仮令其説アル者ト雖也、未ダ詳ナラサル者亦甚ダ

多シトス、而モ其難事ヲ發露シテ宗教ヲ滅ス可能ハス、若シ宗教ヲ信セサル者ト雖、正難問ヲ掲ゲ質疑ヲ出シテ以テ、不信ノ理由ト爲シ、是ニ由テ宗教ヲ通レントスルハ、未ダ其意ヲ得ザル者ナリ、若シ夫基督教ヲ駁撃スル者ハ、必ズ之ニ勝ル所ノ組織ヲ立ザル可カラス、若シ然ラザル者ハ斷シテ基督教ヲ滅ス可能ハザル者ナリ、故ニ本論ノ讀者ハ宜シク其心ヲ以テ調査シ給フベシ、若シ此論中ニ難事アリ數理ノ如キ明證ヲ得ザル正之ヨリモ勝レタル明法アル乎、之ヨリモ明白ナル道理アル乎、之ヨリモ多數ノ確證アル乎、先ツ之ヲ其自説ニ反省セザル可カラズ、而シテ若シ基督教ヲ信仰セズトセバ、其不信仰ノ理由ニ就テハ、自カラ苦難スル所アラ

ザル乎、狐疑スル所アラザル乎、必ズ之ヲ千思萬考セザル可カラザルナリ、
因ニ曰フ、頃日刊行スル所ノ雜誌ヲ閱スルニ本論ニ關スル所ノ好比喩アリ、曰クヘルベルトス、ペンセル、及ビフレドリッキ、ハルリツン二氏ハ共ニ基督教ヲ攻撃スル學士ナリ、二氏同シク基督教ニ代ヘントスル所ノ別種ノ組織ヲ立テ論說スル者ナリ、然ルニハルリツンハスペンセルヲ駁シテ、先生ガ基督教ヲ撃ツ所ノ兵器ハ則チ先生ノ組織ヲ撃ツ所ノ利兵ナリト云ヒ、又スペンセルハハルリツンニ謂テ曰ク請フ君カ自説ヲ反省セヨ、是ノ如ク兒戲ニ類スル者果シテ何處ニ在リヤト、兩人互ニ駁論スル所己ニ

十六
斯ノ如シ實ニ基督教ノ難事ヲ避ケントシテ、反テ自ラ難
ニ陷ル者ナリ、前文既ニ論スル所ニ由テ、イングリサーノ
誤説ノ如キハ已ニ分明ナリ、其説僅ニ基督教ヲ譏謗シ、或
ハ其難處ヲ摘發シテ以テ之ヲ滅スノ法ヲ得タリト爲ス、
己ニ取ルニ足ラサル者ナルヲ以テ今之ニ答フルノ要ナ
シトス、

基督神子論

米國宣教師 襄、維、納、屈、士、口、述

東京 歷山石川彝筆記

○第一章 論旨

基督教、即チ英語ニ所謂ル「クリストアニテイ」ハ實ニ廣大ナ
ル意味アル言ナリ、其例西洋諸國ノ文明ナル者ヲ指シテ「ク
リストアン」國ト云ヒ、其開化シタル事物ヲ指シテ「クリスト
アン」事物ト云フ、是等ノ意味ヲ考フルニ皆基督ニ由テ勢力
ヲ得タルヲ謂フノ意ニ外ナラス、漸ク細密ニ其意ヲ察スレ
ハ其中ニ組織神學アリ、組織道學アリ、其異類頗ル多シトス、
乃チ基督ヲ以テ稱スル者甚々多シト雖、是等ノ學術道德


ニ關スル者ヲ以テ基督教ト爲ス可キニ非ス、又只一派ノ教
義ヲ以テ基督教ト謂フ可キニ非ス、又一時一世ニ於テ行ハ
レタル宗教ヲ以テ基督教ト謂フ能ハサルナリ、是皆基督
教ニ關係アリ、或ハ之ニ奇異ノ大事アル者多シト雖也、是ヲ
以テ基督教ノ主意ナリト爲ス可カラス、而モ基督教ヲ以テ
他教ニ比較シ、或ハ各宗派ヲ互ニ比較スレハ、則チ以テ基督
教ノ特別ナル主意ヲ解スルコトヲ得ヘキナリ、能ク其主意ヲ
知テ之ヲ信スル者ハ實ニ基督教ノ信徒ト謂フ可キノミ、例
ヘハ基督教中ニ造物者ナル者アリ、唯一ノ獨神ナリト云フ
ト雖也、此一ノ信仰アルカ爲ニ、未タ以テ基督教ニ進入シタ
ル者ト爲ス可カラス、何トナレハ基督教ニ非サルモ、猶太教

新學ノ
之文云フ

ノ如キ、回教ノ如キ、プレトノ哲學ノ如キ、亦皆造物者ヲ認ム
ルノ教ナリ、基督教ノ道德論モ實ニ勝レタル者ナリト雖也、
他ニ道德ノ教ナキニ非サルカ故ニ、道德ヲ以テ基督教ノ主
意ナリト云フコト能ハス、故ニ眞神ヲ認メ道德ヲ尊テ之ヲ信
仰スル也、未タ以テ基督教徒ト爲ス可カラス、若シ基督教ノ
心實ヲ觀察セント欲スレバ、其最モ大切ナル者ハ則チ基督
是ナリ、基督ノ教ヲ謂フニ非ス、又他ノ教ヲ謂フニ非ス、即チ
基督其者ヲ謂フナリ、蓋シ基督ハ教義若シクハ學術ニ由テ
立ツ者ニ非ス、即チ其獨一ナル耶穌基督自身ニ由テ立ツ者
ナリ、是レ基督教ハ儒佛二道ト異ナル所以ナリ、孔子ノ如キ
ハ實ニ之ヲ信仰スルニ當ラサル者ナリ、夫孔子ハ聖人ナリ、

能ク道義ヲ立テ或ハ太古ノ道德ヲ復申シ、其言ヒ傳フル所
ハ眞ノ儒者ノ言ナリ、釋氏モ亦之ニ同シク、所謂ル佛道ヲ教
フル者ニシテ、組織ヲ立テ其教義ヲ顯ハシタリト雖モ、涅槃
ニ入テ後ニハ其信徒ニモ關係ナキ者ト思惟シタル者ナリ、
然レハ則チ佛法ヲ認可シテ之ヲ守レハ、又釋氏ヲ信仰スル
ニ當ラザル者ナリ、基督教ハ則チ之ニ異ナリ、道德ニ非ス教
義ニ非ス、又組織ニ非ス、主耶穌基督ハ則チ其主意ナリ、基督
教ニモ固ヨリ道德アリ組織アリ神學アリト雖モ、是皆其枝
葉ナリ、故ニ之ヲ守リ之ヲ認ムレモ、未ダ以テ足レリトスル
コト能ハス、只十分ニ基督ヲ信仰スレハ、則チ是等ハ皆自カラ
其中ニ在ル者ト見ヘタリ、又若シ我身ノ經歷ヲ省ミレハ言

行善ナルニ非ス、感覺宜シキニ非ス、是レ基督教ヲ信仰スル
者ノ最モ大事トスル所ナリ、是故ニ若シ耶穌基督アルニ非
サレハ、所謂ル基督教ナル者アルコトナシ、又我ニ信仰アルニ
非サレハ、基督アリト雖モ、我ハ未ダ基督教ニ入りタル者ニ
非ス、故ニ基督教ハ只當時ノ流行ナリト思ヒ、世説ニ雷同シ、
或ハ只基督教ノ道德ヲ勝レタル者ナリト思ヒ、或ハ文明開
化ノ原因ナリト思ヒ、或ハ國家ノ利益ナリト思フ者ノ如キ
ハ未ダ以テ基督教ニ進ミタル者ト爲ス可カラス、又或ハ基
督教ハ他教ヨリモ寧口勝レル者ナルヲ以テ基督教ハ眞ノ
宗教ナリト云フコト能ハス、反テ基督ハ眞實ノ者ナルヤ否ヤ、
之ヲ論定シテ以テ基督教ノ眞偽ヲ判別スルコトヲ得ヘキナ



リ、若シ基督ハ眞實ナリト云ハ、則チ基督ハ果シテ何者ナルヤ之ヲ考ヘザル可カラズ、聖書ノ原本ヲ閱シテ基督ハ神ヨリ出タル無始無終ノ愛子ナルヲ知ル可シ、基督ハ只聖人ニ非ス、只像言者ニ非ス、只神ヨリ出タル者ニモ非ス、尙且人ニシテ其人性ト共ニ神性ヲ有ツ者ナリ、又一個ノ猶太人ナリト雖モ、知ラサル所ナク能ハサル所ナク、究ナキ神ノ愛子ナルヲ見ル可キナリ、夫神ノ愛子ニシテ天ヨリ降り、人類ヲ救ハンカ爲ニ人ト爲リ、三十三年間、世ニ在リテ十字架ニ釘ラレ、死シテ葬ラレ三日ニシテ復起シ、再ヒ天國ニ昇テ究ナク神ノ右方ニ存スル者ナリ、是即チ基督教ノ主意ナリ、其證ニハ使徒行傳、贈達諸書、默示錄ノ原書ヲ讀ムニ、皆基督ノ門

徒初テ基督教ヲ弘ムル時ニ方テ、只能ク此一事ヲ宣傳シタリ、即チ拿撒列ノ耶穌ハ神ノ愛子ナリト、唯此一ノ教義ニ由テ基督教ハ猶太教ヨリ分離シタリ、猶太人希臘人羅馬人ハ之ヲ聞テ初メ信仰セズト雖モ、是ヨリ羅馬帝國ハ漸ク基督教ニ入りタリ、然モ當初ノ門徒ハ其證人ナリト記シタリ、何トナレハ其教義ハ只此事實ニ證據ヲ立タルノミナレハナリ、又是ヨリ以來一千八百年間、基督教ハ總テ此事實ヲ基本トシテ立ツ者ナリ、新教ト羅馬教ト希臘教トヲ論セズ、皆之ヲ信仰スル者ナリ、又歴史ヲ按スルモ亦是ノ如ク基督教ノ大體ハ只此一事ニ由ル者ナリ、又古今ノ哲學者ハ基督教ヲ視テ反對論ヲ立テ基督ヲ信仰セスト雖モ、而モ其論ズル所ヲ

見ルニ基督教ハ誤謬ナリト雖モ、尙不易ノ真理ヲ存スル者
 曰ヘリ、然リト雖モ是等ノ説ハ勢力ナクシテ持久セ
 ザル者ナリ、又近世有名ノ學士ストラウス氏ハ細カニ之ヲ
 論シテ曰ク、我輩基督教ヲ信セサル者ハ則チ基督教徒ニ非ス
 ト自ラ之ヲ明言シタリ、然レハ則チ基督教ヲ信セサル者ハ固
 ヨリ基督教徒ニ非サルハ明亮ナリ、故ニ若シ基督教ヲ調査
 セント欲スル者ハ先ヅ基督教ハ神ノ愛子ナルヤ否ヤヲ調べ
 ザル可カラス、人或ハ曰ハントス、基督教ヲ信スルヲ甚タ難シ、
 造物者ノ神ヲ信シテ、基督教ハ絶倫ノ聖人ナリト信スレモ、基
 督ハ神ノ愛子ナリトハ甚タ信シ難キヲナリ、古人或ハ神々
 ル者モ時ニ人トナル者ト信シタリ、而モ古人ノ所謂ル神ナ

ル者ハ僅ニ人ニ勝レテ、智力アル者タルニ過ギス、今人少シ
 ク思慮アル者ハ神ト稱スル者ハ、天地萬物ノ本原ニシテ、始
 ナク、終ナク、限ナク、能ハサル所ナク、知ラサル所ナク、在サ、
 ル所ナキ神ヲ云フナリ、神ノ本質是ノ如キ者ニシテ、耶穌基
 督ハ其真ノ愛子ナリト云フハ甚タ難事ナリト曰フ、其レ實
 ニ然リ、若シ十分ナル確證ナケレハ、固ヨリ之ヲ信ズルヲ能
 ハサル可シ、然レモ只信シ難シトシテ、其證據ヲ調査セザル
 ハ之ヲ真ノ智ト謂フ可カラス、是ニ於テ信シ難シト云ヒ、或
 テ人意ニ成リタル無稽ノ説ナレハ、固ヨリ解シ易カル可シ
 ト雖モ、天地萬物ノ目的、人類ノ目的タル神ヨリ受タル示現

ナレバ其解シ難キハ固ヨリナリ、人智ノ不完全ナル何事ヲ考ヘテモ解シ難キヲ信シ難キヲ甚タ多カル可シ、近時ノ哲學物理學ノ如キモ亦甚タ解シ難キ道理ニ基ヅキテ立ツ者ナリ、例ヘハ進化論ノ如キモ亦甚タ解シ難キ者多シトス、而モ其說ヲ認メザルニ非ス、若シ其證據アルニ於テハ必ス之ヲ認ム可キ者ナラン、基督敎ト雖モ亦固ヨリ信シ難キコアラシ、而モ其證據アルニ於テハ宜シク之ヲ信仰スベキナリ、故ニ少シク思慮アル者ハ必ス細密ニ之ヲ調査セザル可カラス、若シ證據ナキニ於テハ之ヲ信セザルモ亦可ナラン、又若シ證據アルニ於テハ之ヲ信ズルモ亦道理ナリ、初メ基督敎ノ羅馬帝國ヲ導キタルハ證據ニ由ル者ナリ、今又萬國ヲ

導クニ證據ヲ以テスルハ則チ基督敎ノ目途ナリ、然リト雖モ本書ハ其證據ヲ舉テ漏サミラントスルニ非ス、只其重要ナル者ヲ掲テ以テ之ヲ徵證セント欲スルノミ
 因ニ曰フ今ノ佛教ニハ南無阿彌陀佛ト稱フル教アリ、然レハ則チ阿彌陀ヲ信仰セザル可カラサル者ノ如シト雖モ、而モ佛法ノ本原ニ出タル者ニ非ス、釋迦ノ教ニハ反對スル者ナリ

○第二章 神學前論

本書ニ於テハ神ノ存在ト性質トヲ論ズルノ意ニ非ラザルハ固ヨリナリ、若シ是等ノ事ヲ論ゼントスレバ議論冗長ニ涉リ、時日ヲ費スコト亦尠カラザルヲ以テ、此ニ之ヲ論ズルヲ能ハス、又若シ之ヲ論ゼント欲スレバ、別書ニ於テ之ヲ詳論スルノ優レルニ如カズ、細カニ之ヲ知ラント欲スル者ハ別ニ有神論、神性論、等ノ諸書ヲ見ル可シ、然リト雖モ神ノ存在ト其性質トハ本論ニ於テ頗ル大切ナルヲ以テ茲ニ少シク神學ノ事ヲ論ゼザルヲ得ズ、凡ソ無神論者ハ固ヨリ基督教ヲ信仰スルコト能ハザル者ナリ、若シ無神論ヲ是認スル者ハ基督ヲ以テ神ヨリ出ル者ト説クモ、之ヲ信スルコト能ハザル

ハ明カナリ、而シテ此等ノ人ニ對シテ之ヲ論ズルハ固ヨリ無益ナリ、然モ近年ニ至テハ無神論者ハ甚ダ稀ナリ、學者中或ハ自カラ無神論者ト稱スル者モ亦甚タ少シトス、其理ハ固ヨリ明亮ナリ、夫無神論ノ爲ニハ萬有皆滅ノ説ヲ立ツルノ證據ヲ要スルナリ、嘗ニ有神論ノ證據ヲ以テ不十分ナリトスルノミナラス、又無神論ノ證據ヲ以テ十分ナリト爲サ、ル可カラス、天地萬物ハ只實質ナル器械ニシテ、此器械ヲ作り之ヲ用フル者ナシトスル論ナリ○第一、此論ハ普ク人ノ信仰スル所ニ反對スル者ナリ、古今何國ヲ問ハズ、人ハ萬有萬物ノ上ニ秀テ智アル者ト識認シタリ、人ノ有智ヲ信仰スルノ力ハ萬物質アルヲ信仰スルノ力ト殆ド同度ナリ、

然ルニ此ノ如ク普通ニ信仰スル所ヲ撃テ、之ニ代フルニ自
 巳ノ信仰スル所ノ無神論ヲ立テント欲スル者ナリ、然レハ
 則チ只有神論ノ證據不足不十分ナルコノミヲ明示スルモ
 未タ以テ足レリトス可カラス、有神論ノ證據不十分ナルニ
 比スレハ、寧ロ無神論ハ道理ニ合ヒ學識ニ適フ者ナリト爲
 ス所以ノ證據ヲ確定セザル可カラス、而モ今日ニ至ルマテ
 未タ是ノ如ク明確ナル定説ナク、而シテ普ク人ノ信仰スル
 所ヲ毀タント欲スレハ、必ス別ニ確乎不拔ノ正論ナカル可
 カラサル者ノ如シ、○第二、無神論ヲ立ツル者ハ只某國ノ宗
 教ハ謬妄ナリト教フルモ未タ十分ナラス、今其一例ヲ舉レ
 バ希臘羅馬ノ神ハ事實ニ非スト云フノミナレハ、則チ希臘

羅馬ノ古神論ノ一派ヲ滅ボスノミ、然リト雖モ若シ無神論
 ヲ立ツルニ至テハ宗教一切ノ原因タル考案ヲ滅ス者ナリ、
 ○第三、無神論、即チ神ヲ無視スル所ノ説ヲ立テントスル者
 ハ奇絶ノ證據ヲ要スル者ナリ、凡ソ難論多シト雖モ、萬有皆
 滅ノ如ク困難ナル者ハ有ラサルナリ、蓋シ其論理ハ必ス確
 乎不拔ニシテ完全具備シタル者ニ有ラサル可カラス、若シ
 其論中ニ一誤アレバ、則チ其一誤ニ由テ該論ハ全ク消滅ニ
 歸スルコトアル可シ、夫哲學ハ普ク天地萬物ヲ知ラサル可カ
 ラサル者ナリ、宙ニ萬物ヲ知ラサル可ラサルノミナラス、又
 其實質ヲ知ラサル可カラス、其性理ヲ知ラサル可カラス、其
 存在ヲ知ラサル可カラス、一切天地ノ諸處ヲ知ラサル可カ

ラス、若シ一處モ知ラサル所アレハ、則チ神ハ其知ラザル處ニ在スモ亦未タ知ル可カラス、若シ知ラサル物アラハ其知ラサル者ハ即チ神ナルモ亦未タ知ラサル可カラス、天地萬物ノ幽遠ナル道理モ亦知ル可カラス、又其道理ノ本原、準則、勢力、目的ヲモ知ラサル可カラス、又其前後ノ事ヲモ悉ク知ラサル可カラス、是ノ如ク天地萬物ヲ悉皆調査シ了ルマテ神在スニ非スト云フコ能ハス、只知ラサル所ナキ者ノミ神ナシト云フコヲ得ヘキナリ、而シテ知ラサル所ナキ者ハ即チ神ナリ、人ニ至テハ理ニ於テ決シテ無神論ヲ立ツルコ能ハサル者ナリ、無神論ノ難事ハ是ノ如ク多端ナリ、故ニ好デ無神論ヲ爲ス者ハ當時甚タ少シトス、

又別ニ一種ノ不信仰アリ事實論ト云フ、是レ只現象ノミヲ論スル者ナリ、此論旨ハ天地萬物ノ蘊奧ハ之ヲ知ルコ能ハス、有神無神ハ到底無益ノ議論ノミ、共ニ論スルニ足ラストスル者ナリ、此論ニ由レハ神ハ全ク精神ノ感覺外ニ在ル者トシ、學士タル者ハ只確乎タル事實ノ證據アルモノヲ考フルコソ宜シカラント云フ者ニシテ、即チ目ニ見ヘ耳ニ聽ヘ手ニ觸ル、所ノ確證ノミヲ取テ考ヲ爲ス者ナリ哲學ハ愚ナル者ニシテ徒ニ學者ノ思想ヲ費ス者ト思惟シ、虛理ヲ考究スルハ眞實ナル學問ノ妨害ナリト云ヒ、其證據ヲ舉ケ哲學者ニ對シテ明說ヲ出シ、因テ哲學ヲ廢棄シ只物體實質ノ學ノミヲ講シ、且ツ嚴ニ確實ノ證據ナクシテ說ヲ爲スガ如

キハ大ニ其嫌忌スル所ト爲シタリ、是論旨ヲ觀テ之ヲ當然ノ理ナリト爲ス者多カラシ、凡ソ議論ニハ確平タル證據ナカル可カラス、十分ナル證據アルニ非サレハ何事ヲモ論ズ可カラスト云フモ、或ハ道理ニ合フ者タルモ未タ知ル可カラス、且ツ物質學ハ近年大ニ進歩スルヲ以テ、哲學ヲ棄テ之ヲ學フヲ善トスル者アルモ亦知ル可カラス、然リト雖モ今一層細密ニ之ヲ考フレハ其謬妄タルヲ明ナリトス、
第一、人ノ精神ハ只現象ノミヲ以テ満足スル者ニ非ス、古來學問ノ歴史ニ由テ之ヲ察スルニ、凡ソ人ノ精神ハ自然止ヲ得ズシテ萬事ノ原因ヲ探求スル者ナリ、此精神ハ萬物ノ大原因ヲ求メ得テ而テ後ニ止ム者ナリ、若シ其現象ヨリ實

因ニ至リ、結果ヨリ原因ニ至ルマテ、萬事萬物ヲ調査スルハ人ノ常性ナリ、是レ人ノ精神ニ於テ自然ノ活動ナレバ哲學ヲ棄ルト云フ議論ハ無益ニ屬スル者ナリ、此證據ハ事實論ニ於テモ亦哲學ノ說ヲ含メル者ナリ、然レハ則チ哲學ヲ棄ルト云フ者モ亦未タ哲學ヲ離レザル者ナリ、既ニ哲學ハ能ク考究シタル道理アリ、組織アル者ナリ、然ルヲ未タ道理ヲ究メズ組織ヲ立ザル哲學ヲ以テ、道理アリ組織アル哲學ニ換フル者ナリ、
第二、又物理學ヲ考フルニ、是亦哲學ニ因テ立ツ者ナリ、夫レ物理學ハ哲學ニ所謂ル物質ノ事實ニ因テ立ツ者ナリ、哲學ヲ嫌忌スル者ト雖モ、物理學士ハ皆哲學ノ說ヲ爲サ、ル

可カラズ、近世ノ物理學ハ只確乎タル證據ト現象ニ因テ立
 ツ者ナリト思惟スル者ハ、未タ物理學ヲ知ラサル者ナリ、物
 理學ニ所謂極微分子ノ説ト、星霧説ト、光線波動ノ説ト、勢
 カノ相倫及保存等ノ説ハ皆只或ル哲學ノ道理ニ因テ立ッ
 者ナリ、而モ其基本タル哲學ハ物理學ノ證據ノ外ニシテ、少
 シモ物理學ニ因テ調査スルヲ能ハサル者ニシテ其困難ナ
 ルヲ中古ノ哲學ト相同シク、事實ノ上ニ立テル説ニ非ス、只
 精神ノ思考ノミナリ、是ニ由テ物理學ノ進歩ヲ察スルモ亦
 大概哲學ヨリ出タル者ナリ若シ哲學ナカリセハ物理學モ
 進歩スルヲ能ハザル者ナリ、
 第三 事實論ハ神學ヲ攻撃スル者ナリト雖モ、亦眞理ヲ學

問ヲ擊ツ者ナリ、神學ヲ擊ツト等シク其賞揚スル所ノ物理
 學モ亦共ニ攻撃スル者ナリ、人タル者ハ是ノ如キ淺薄ノ説
 ニ安ズルヲ能ハザル者ナリ、又近世ト古昔トヲ比ブレハ彼
 論者ノ議論ハ漸ク危弱ナル者ノ如シ、
 ヘルベルト、スペンセル氏ハ此事實論ヲ駁撃スル者ニシテ、
 必ス大原因ヲ知ラサレバ其他ノ事物ヲモ亦知ルヲ能ハス
 トスル者ナリ、此事ニ於テハ稍々事實論ニ違フ者ナリ、スベ
 ンセル氏ノ説ハ宜シク一讀スヘキ者ナリ、其説或ハ前ノ事
 實論ニ於テ既ニ認知スル所アリ、現象ニハ必ス完全ナル者
 ナカル可カラストスル者ナリ、例ハハ河上ニ浮ベル泡ヲ論
 シテ大原因タル河ニ拘ラスシテ、泡ノミヲ論ズルハ甚々笑

フ可キ者ナリ、人ヲ論シテ其原因ニ拘ラスシテ、人ノミヲ論スルモ亦之ニ同シ、故ニ真理ノ學問ノ爲ニハ必ス此完全無限ナル大原因ヲ考ヘザル可カラズ、而モ此大原因ナル者ハ人智ノ得テ知ル可キニ非サルヲ以テ、是レ果シテ神ナルヤ否ヤヲ明言ス可カラズ、又「ペルソナ」ト謂フ可キニ非ストス、何トナレハ「ペルソナ」ナル者ハ自己ヲ識ル者ナリ、若シ已ヲ知ル者ハ又已ニ對スル所ノ他ヲモ亦知ラザル可カラズ、故ニ「ペルソナ」ハ即チ人ニ似タル者ナリトス、然リト雖モ人ハ固ヨリ有限ノ者ナリ、而シテ無限ノ者モ亦之ニ似タリト云フ能ハズ、且ツ其知ル可カラサル者ハ智アリト云フ能ハス、何トナレハ既ニ智覺アリトセハ、其智ニ由テ知ル者アリ、

又知ラル、者ナカル可カラズ、而モ無限ノ者ニハ是ノ如キ區別アリト云フ可ラズ、吾人ノ物ヲ知ルコト雖シト雖モ物ノ關係ヲ知ルコト明カナリ、而モ無限完全ナル者ハ全ク關係ナキ者ナルヲ以テ知ル可カラサル者ト云ヘリ、此論ニ於テハ「スペンセル」氏ハ事實論ニ似タリ然モ又之ニ異ナル所アリ、即チ此知ル可カラサル者ヲ以テ勢ト爲セリ、勢トハ果シテ何物ナリヤト問フニ、例ヘハ物ニ手ヲ觸レテ之ヲ動サントスレハ、即チ其抵抗力ヲ覺リ己ノ感覺ニ由テ其勢アルヲ知ル可シ、然リト雖モ此勢ナル者ハ吾人カ感スル所ノ勢ト稍々異ナル所アルカ如シ、何トナレハ此知ル可カラサル勢ハ無始無終ニシテ際限ナク、又増減ナキ者ナリ、又萬物ノ原

因ニシテ天地萬物皆之ヨリ出ル者ナリ、吾人ノ認識ヲ考レ
 ハ是亦此勢ヨリ出ル者、或ハ即チ其勢ナリトス、スペンセル
 氏ハ此知ル可カラサル勢ニ就テ次ノ七事ヲ教ヘタリ、一ニ
 曰ク事實、二ニ曰ク勢力、三ニ曰ク我所感ト異ナレトモ又所感
 ノ勢ニ由テ之ヲ知ル、四ニ曰ク無始無終、五ニ曰ク無限、六ニ
 曰ク無増減、七ニ曰ク天地萬物之ヨリ出ツ即チ天地萬物ノ
 大原因ナリト、

スペンセル氏ハ是ノ如ク大原因ノ七大事ヲ知リナカラ、何
 ヲ以テ其大原因ヲ知ル可カラサル者トスル乎、全ク知ル可
 カラサル者ニ非スシテ、是ヨリ種々ノ事ヲ知ル者ナリ、然レ
 ハ即チスペンセル氏ハ有神論ニ反對シ、テ説ヲ立ルト雖モ

其説ハ則チ之カ爲ニ地ニ落チタリ、其論スル所ニ由テ只有
 限ノ物ヲ知ルト云フト雖モ、其實ハ則チ否ラズ、反テ其説ニ
 由テ無限ノ者ヲ知ル可キナリ、且其智ナル者ハ知ル者ト知
 ラル、者ヲ要スト云ヘリ、然レハ則チ勢モ其動ク者ト動カ
 サル、者トヲ要スル者ノ如シ、又無限ノ者ニ智アラザル可
 シト云ハ、有限ノ者ニモ亦智アラサル可シト云フ可キナ
 リ、彼無限ノ勢ヲ知ルカ如ク我ハ無限ノ智ヲ知リ得ルナリ、
 勢ハ尤關係ヲ要スル者ニシテ關係ナキ勢ハ尤モ解シ難キ
 者ナリ、且神ハ「ベルソナ」ナリト云フト雖モ是レ固ヨリ人ノ
 經驗ヨリ出ル所ナリ、勢モ亦之ニ同シク彼スペンセル氏ノ
 説ニ由レハ人ノ經驗ニ出ル所ナリ、然レハ則チ此説ハ有神

論ニ反對スルト同シク、又其自説ニ反對スル者ナリ、若シ彼説ニシテ善ナレハ、有神論モ善ナリト謂ハサル可ラス、是レスベ^ンセル氏ノミニ非ラス、凡ソ有神論ヲ駁撃スル所ノ説ハ常ニ是ノ如シ、深ク之ヲ考フレハ有神論ヲ討ツ者ハ之ヲ討ツカ如ク亦自説ヲモ討ツ者ナリ、有神論ニハ難所アリト教ヘタレ^レ、自然ニモ亦同シ難所アルノミナラス、其他ニモ亦難所甚タ多シ、例ヘハスベ^ンセル氏ハ只勢ノミヲ大事トシテ善智愛等ヲ無限ナリトセサルヲ以テ其道德ノ基礎ナキヲ知ル可シ、又人ノ智ト「ベルツナ」ト及ヒ天地萬物ノ目的トヲ説明セサルヲ明カナリ、近世ノ學問ヲ察ルニ有神論ヲ駁スルノ道理ハ絶テ無キ者ノ如シ、然レハ則チ有神論ハ古

來確實ニシテ、今日ニ至テモ尙明白確實ナル論ト見ヘタリ、スベ^ンセル氏ノ説ヲ考フルニ、今二人ノ證人アリ、兩人共ニスベ^ンセル氏ノ門弟ニシテ基督教ヲ駁撃スル學者ナリ、フレデレキ、ハリスン氏ハスベ^ンセル氏ノ近頃ノ説ヲ考テ曰ク方今ノ説ハ神學ニ似タル者ニシテ本ノ説ニ反對スル者ナリト、又米國ノ最モ有名ナル進化論士ジ^ン、フ^イスク先生曰ク、近頃ハ進化論ヲ以テ有神論ヲ立ツル者アリ、唯物論ハ證據ナクシテ道理ニ合ハサル説ナリト、有神論者ハ只證據ノミヲ以テ其論ヲ立ツ可カラス、前ニ既ニ論シタルカ如ク人類ノ上ニハ更ニ貴重ニシテ天地萬物ノ主宰タル有智者アリトハ、人ノ普ク信ズル所ナリ、土地ニ由テハ或ハ笑フ可キ

説ヲ亦混淆シタルモアリ、大ナル誤謬モアリト雖、有神ノ
 説ニ就テハ疑惑少シトス、故ニ有神論者ハ是等ノ信仰ヲ立
 ルカ爲ニ非ス、既ニ有神ノ信仰ハ道理ニ合フ者ト爲シテ之
 ヲ顯明セザル可カラス、凡ソ結果ニアル者ハ必ス亦其原因
 ニナカル可カラス、是レ我輩カ議論ノ基礎ナリ、スペンセル
 氏モ天地萬物ニ顯ハレタル勢アルカ故ニ、其原因ニモ亦必
 ス此勢アラント論シタルカ如ク、我輩モ天地萬物ニ顯ハレ
 タル智ヲ見テ、其原因ニモ亦智アリト論スルナリ、サクラチ
 一ス能ク此理ヲ論シリヨリ以來、今日ニ至ルマテ之ヲ認可
 シタル學士甚々多シトス、而シテ之ニ對シテ十分ニ駁撃ノ
 カアル議論ナキヲ以テ、其理論ハ今尙同前ノ勢力アリ茲ニ

其一例ヲ舉レハ、密爾氏ノ死後ニ出版シタル著書中ニモ亦
 此理論ヲ認メタリ、米國ニ有名ナル植物學士グレイ氏モ亦
 言ヘルコアリ、曰ク進化論モ亦能ク此理論ニ合ヘル者ナリ
 ト、此他有名ナル學士ニシテ神智ハ實ニ天地萬物ニ顯ハレ
 タリト認メタル者頗ル多シトス、然リト雖、此等ノ事ト神
 性トノ如キハ茲ニ之ヲ細論スルノ意ニ非ス、神ノ存在、及ヒ
 其性質ヲ論シタル者甚々多シ、各其書ニ就テ之ヲ見ル可シ、
 是ニ由テ之ヲ觀レハ神タル者ハ只勢ノ如キ者ニ非ス、天理
 ノ如キ者ニ非ス、神モ亦人ノ如ク一個ノ「ベルツナ」ナリ、夫「ペ
 ルツナ」トハ自知ノ能アル者ナリ、近年ノ哲學ト雖、能ク此
 説ヲ論破シタル者ナキカ如シ、若シ各人一個ノ「ベルツナ」ナ

リトセバ完全ナル「ベルツナ」ハ獨リ神ノミナルコヲ知ル可シ、現ニ世ニ顯ハレタル百般ノ勢ヲ察レバ、其大原因タル完全ノ勢モ亦之アリト見ヘタリ、既ニ天地萬物ノ中ニ智ヲ顯ハシタレハ、其大原因モ亦完全ノ智アリト見ヘタリ、人ハ自知ノ「ベルツナ」ニシテ、神ハ完全無限ナル自知ノ「ベルツナ」ナリ、然レハ即チ又之ヨリ一大事ヲ生ズ可シ、即チ人ハ能ハサル所アル者ニシテ、神ハ能ハサル所ナキ者ナリ、人ノ所爲ハ拙劣不完全ナリト雖、神ノ所爲ハ完全無缺ニシテ、萬事ニ一モ過誤ナキ者ナリ、人ノ爲シ得ル所ノ者ハ決シテ神ノ能ハサル所ニ非ス、然ルニ又一説アリ、曰ク人ノ能スル所ハ大概神ノ能ハサル

所ノ如シ、何トナレハ人ハ自由自在ニシテ、我望ノ隨ニ自然ノ道理ヲ支配シ、之ヲ隨意ニ使用シ得ル者ナリ、例ヘハ藥石ヲ以テ病ヲ醫シ、蒸氣ヲ以テ汽車ヲ動カシ、電氣ヲ以テ電信ヲ通ズルカ如ク、我望ノ隨ニ直接ニ之ヲ使用スルコヲ得タリト、神ハ人ノ如ク諸業ヲ爲シ能ハサル者ナラン乎、此完全ナル「ベルツナ」ニシテ神意ノ隨ニ自然ノ道理ヲ支配シテ、直接ニ諸業ヲ爲スコト能ハサル者ナラン乎、神ハ固ヨリ此自然ノ道理ヲ創立シ給フ者ナリ、然レモ所謂ル自然ノ道理ナル者ハ、到底人力ニ由テ行ハル、者ニ非ス、必ス常ニ神ノ支配ト其勢力ニ由ル者ナリ、況ヤ神ハ直接ニ諸業ヲ爲シ給フ者ナリ、此神業ハ即チ奇蹟ノ義ナリ、又奇蹟ハ自然ノ道理ニ背

ク者ト云フ可カラス、神直接ニ爲シ給フ所ノ事業ヲ指シテ
 奇蹟ト云フナリ、神奇蹟ヲ爲シ給フニ、人間ノ所謂ル自然ノ
 道理ヲ支配シテ之ヲ爲シ給フ乎、否是レ吾人ノ知ル所ニ非
 ス、而シテ奇蹟ノ有ル可キナシト云フハ、絶テ理由ナキノ言
 ト見ヘタリ
 茲ニ尙一事ノ考フ可キ者アリ、神固ヨリ猥ニ奇蹟ヲ行ヒ給
 フ可キノ理由ナシ、蓋シ必要ノ目的アレハ、則チ奇蹟ヲ爲シ
 給フコアルナラン、只不可思議ノ事アルヲ聞テ以テ神ノ奇
 蹟ト爲ス可カラス、若シ貴重ニシテ正義ナル神慮ヲ覺リテ、
 而シテ後ニ之ヲ實ニ神爲ノ奇蹟ト爲ス可キナリ、不義ニシ
 テ無替ナル事ノ爲ニ神奇蹟ヲ行ヒ給フコナキハ論ヲ俟タ

スシテ明ナリ、

基督教ヲ案ズルニ、神ノ愛子ハ天ヲ棄テ人ト爲リ給フハ、實
 ニ尤大ナル奇蹟ト見ヘタリ、而モ其目的ハ果シテ何ニアリ
 ヤヲ考ヘザル可カラス、是レ固ヨリ人類ヲ救済シ給フ所ノ
 神ノ木質ヲ顯シ給フノ奇蹟ナリ、天地萬物ハ悉ク神ノ智ト
 能トヲ顯ハス可シ、人ノ本心ニハ神ノ義ヲ顯ハシタリ、特ニ
 主耶穌基督ハ神ノ義ト愛トヲ顯ハシ給ヘリ、初メ人ハ神ノ
 像ニ造ラレタリト雖モ、罪ニ陷テ其像ヲ傷リタル者ナリ、爾
 來能ク神ノ本質ヲ知ルコナク、神ヲ拜マズシテ他ノ諸物ヲ
 拜ミ、罪ヲ犯シテ漸次益々惡トナルノ狀勢ナリ、故ニ神ハ主
 耶穌基督ニ由テ、再ビ其榮光ト其性質トヲ顯ハシ給ヘリ、是

ニ於テ復人ニ其像ヲ造リテ、罪ト艱難ヨリ人ヲ救ヒ給ハン
カ爲ニ、御愛子ヲ世ニ降シ給ヘルナリ、是レ此大奇蹟ノ爲ニ
十分ナル道理ニシテ、全智ニ合ヘル者ト謂フ可キナリ、
本論ニ於テハ則チ只此奇蹟アルノ證據アリヤ、否ヤ、之ヲ考
ヘサル可カラス、又人タル者ハ此ノ如キ拯救ヲ要スル乎、若
シ果シテ之ヲ要スル者タラハ、則チ此ノ如キ拯救アル乎、是
レ只一千八百年以前ノ事ニ非ス、古來ノ歴史ヲ閱スルノミ
ニ非ス、目今基督ハ世間ニ於テ神ノ本質ヲ顯ハシ給フ乎、今
ノ罪人ニモ此拯救ヲ施シ給フアル乎、否ヤ、是レ吾人ノ將
ニ調査セントスル所ナリ、

○第三章 道德前論拯救ノ要用

神學士カハルゲンノ説ニ曰ク、罪ノ懺ハ拯救ノ初ナリト、宜ナ
ル哉、罪ヲ知ラサル者ハ拯救ノ要用ヲ知ラス、基督ハ眞ニ神
ノ愛子ニシテ、即チ全世界ノ救主タルヲ知ルヘキノ理ナシ、
或ハ基督ヲ以テ實ニ神子ナリト爲スニ、拯救ノ要用ヲ知ラ
サレハ更ニ勢力ナキ者ナリ、基督ハ神ノ愛子タルヲ論スル
ノ前ニ於テモ、亦必ス拯救ハ人ノ要用タルノ考案ナカル可
カラス、
凡ソ現世ノ情況ヲ熟考スル者ニシテ、拯救ヲ不用ト爲ス者
殆ド稀ナリ、如何ナル論者ト雖モ、現世ハ完全幸福ニシテ、何
モ要用ナキ者ト云フコト能ハス、現世ノ困苦、艱難、心痛ハ古來

眞ニ神ノ愛子ナリ
幾ノ奇蹟ニ
テモ

萬國ノ聖賢、詩人、歴史家ノ共ニ言フ所ナリ、例ヘハ佛法ノ本原ヲ觀ルニ、釋迦ノ考案ニ於テ生命ハ悉ク惡ナル者ナリ、天竺國民衆生ノ艱難疾病等ノ事ヲ視レハ、其中ニ快樂富榮ノ者ナキニ非スト雖モ、是レ僅ニ短日月ノ者ト思惟シテ、以テ彼ノ如キ説ヲ立タル者ナリ、此他諸國ノ聖人モ亦之ニ同シク、人心ハ現世ノ繁盛ニ満足セス、所謂ル快樂ハ暫時ニシテ、禍害ハ概テ人生ノ成果ナリト論ジタル者多カラン、人生、貧苦アリ、疾病アリ、兵亂アリ、虐政アリ、恐懼アリ、心痛アリ、損失アリ、死亡アリ、是レ皆人生ト共ニ在ル者ナリ、又現世ノ富榮ハ十分ニ之ヲ得ルモ、人心之ヲ以テ満足スル者ハ世間未ダ之アラサルナリ、歴史ハ世間爭亂ノ記念アリ、或ハ是等ノ苦

難ヲ以テ大事ト爲サズ、反テ人生ノ快樂幸福ヲ以テ尤大ト爲スノ論者ナキニ非スト雖モ、是等ハ深ク人生ノ情勢ヲ考ヘタル者ニアラサル可シ、世ニ快樂アリ幸福アルハ固ヨリナリト雖モ、而モ現世ヲ以テ幸福ナリト云フコト能ハス、時ニ學士或ハ太古ノ金世ヲ稱揚スル者アリ、或ハ後ニ金世トナラント論ズル者アリト雖モ、現今既ニ金世ナリト言フ者アルヲ聞カス、孔子ハ常ニ當時ノ惡弊ヲ慨嘆シタル者ナリ、現時世間ノ爭鬪ヲ考フレハ、其本原ハ則チ人心ニ在ルナリ、例ヘハ我周圍ノ萬象ハ皆善ナリト雖モ、人心ハ常ニ平穩ナル者ニ非ス、是等ノ罪ノ人心ニ普キハ經驗ニ由テ知ル所ナリ、歴史モ亦是等ノ事ヲ載スル者ナリ、世ニ賢哲ト稱セラル、

者ト雖也、亦自カラ其罪ヲ明言シタリ、セ子カ曰ク我輩ハ惡人ニシテ惡人ノ中ニ住メリト、オビ―曰ク我ハ義ト善トヲ見テ尙惡ニ從フ者ナリト、タシタス曰ク罪ナクシテ生レタル者一人モアルコトナシト、スペンセル氏ノ說ハ人ヲ以テ聖キ者ナリト爲スハ實ニ笑フ可キ說トシ、ミルノ說ニ人性ハ甚タ惡ナリト其死後ニ出版シタル稿遺ニ見ヘタリ、又政事家等ノ如キモ人性ヲ以テ惡ト爲ス者ノ如シ、又世人ノ通言ト古諺トヲ聞クニ、人間ノ行爲惡ニシテ罪人多シト爲ス者多キニ居レリト、又何人ヲ問ハス細カニ我心事ト行爲トヲ願ミレハ、自カラ罪ナシト云フコト能ハサル者多カラシ、世間ノ宗教ヲ考フルニ是ヲ人生ニ拯救ヲ要スルノ證據ト爲セ

リ、哲學ニ於テモ宗教ニ於テモ、凡ソ人ノ望ム所ハ常ニ拯救ニ在ルカ如シ、皆各異ノ物ニ由テ各異ノ說ヲ立テ、以テ拯救ヲ得ルト爲ス者ナリ、然リト雖也哲學、若シクハ異端ノ宗教ニ由テ拯救アリヤ否ヤ、茲ニ先ヅ哲學ヲ論セン、基督教ヲ信シ、其啓示ニ由テ哲學ヲ立テ、天地萬物ヲ考フレハ、亦以テ組織ヲ成スコトヲ得ヘシト雖也、若シ此啓示ニ由ラスシテ、單ニ哲學ノミニ惟因ラントスレハ、大ニ利益アラサル者ト見ヘタリ、相互ニ反對ノ說ヲ爲スコト多クシテ、之ヲ十全ト爲ス者恐クハアラサル可シ、或ハ一人巧ニ組織ヲ立ル者アリト雖也、次ニ又人アリ之ヲ論破スル者アリ、人ノ靈魂、生命、來世、有神、道德ニ就テハ皆確

乎タル答ナキ者ノ如シ、是等ノ事ニ就テブレトハ哲學士中ニ大勢力アリシ人ト雖也、嘗テ嘆ジテ曰ク「嗚呼若シ神ヨリ來ル者アラハ必ス能ク之ヲ知ラシト」是ノ如キ學士ノ道德ヲ考フルモ、殊勝ナル規則ト義務トハ甚タ多シト雖也、人ヲシテ之ヲ守ラシムルノ勢力ハ未タ嘗テ之アラサルナリ、蓋シ學問ノミヲ以テ、人ヲ德ニ導クヲ能ハサルナラン、且夫哲學ト道德學ニ於テハ、匹夫匹婦ニ至ルマテ悉ク拯救スルノ目途ナキ者ナリ、只有限ノ學士ヲ助ク可キノミ、是ニ由テ之ヲ觀レハ、哲學士ト雖也大智識アル者ハ、哲學道德ヲ以テ世ヲ救濟ス可キ者ト爲ス者ニ非ス、

又異端ノ宗教ヲ論センニ、之ヲ以テ悉ク邪宗惡教ト爲スニ

非ス、哲學ノ如ク其中ニモ亦必ス幾分ノ眞理アリ、全ク過誤迷妄ニ非サル可シ、然リト雖也異端ノ宗教ハ世ノ拯救ナリト云フコトヲ得サルナリ、例ヘバ、古昔ノ羅馬希臘ノ偶像教ヲ考フルニ、其中ニモ亦實ニ勝レタル哲學ノ道理ナキニ非ス然モ亦之ニ混淆シタル大過誤アリタルカ故ニ、以テ人ヲ聖カラシムルノ理由ナシトス、其寺院ニ接續シテ妓樓アリ、或ハ神拜ノ爲ニ大酒ヲ飲ムカ如キ遊蕩ノ事アリ、而シテ其宗教ハ人心ヲ改良スルノ勢力ナク、反テ其宗教ハ自カラ漸ク衰ヘテ惡弊ヲ生シタル者ナリ、

又近世ノ四大教ヲ考フルニ、亦皆實ニ人ノ拯救トナラザル者ト見ヘタリ、

第一 回教 回教ハ本來猶太教ト基督教トヨリ生シタル
 教義ナリ、初メ第七世紀ノ始ニ方テ摩哈麥ナル者アリ亞刺
 比ニ居レリ、亞刺比人ハ舊來偶像ヲ拜スル者多キニ居リレ
 ト雖モ、又地方ニ由テ猶太教徒、及ビ基督教徒アリ、摩哈麥ハ
 素ヨリ像教人ナリト雖モ、亦嘗テ猶太、基督ノ二教ニ就テ聊
 カ聞ク所アリ、未ダ此二教ヲ熟知シタルニ非レモ、只一事ヲ
 以テ緊要ノ教義ト爲シタル者アリ、即チ唯一眞神ノ教義是
 ナリ、是ヨリ摩哈麥ハ此教義ヲ演傳シテ摩西及ビ基督ハ神
 僕ニシテ又豫言者ナリト言ヒ、而シテ其身モ亦同ジク神僕
 ニシテ豫言者ナリト自稱シタリ、後漸ク其信徒ヲ得ルニ至
 リ、時アリテ暴動亂逆ヲ起シテ終ニ盛大ノ教ト爲レリ、摩哈

麥ハ自カラ鉞刀ヲ振テ戰鬪シ之ガ說ヲ爲シテ曰ク像教徒
 ヲ戮殺スルハ我信徒ノ職務ナリト、又其敵ヲ殺シ婦女ヲ奪
 テ其兵ノ妾ト爲スノ法アリ、又其軍陣ニ戰没シタル信徒ハ
 直ニ天堂ニ登リ饗應ヲ受ケ美女ヲ得ル者ト爲シタリ、故ニ
 其教ヲ信ズル兵士ハ死ヲ恐レサルヲ以テ頗ル慄悍ナリシ
 ト云フ、摩哈麥ハ是ノ如キ教ヲ以テ神授ノ道ト爲シ、又基督
 教徒及ビ猶太人ハ之ヲ殺サズシテ其信徒ノ奴隸ト爲ス可
 シト命ジタリ、故ニ回教ハ夙ニ強大ナリシト雖モ、今其教ヲ
 奉ズル國ヲ視レバ甚ダ懸レム可キ者アリ、其婦女ハ皆奴隸
 ニシテ更ニ夥多ノ奴隸アリ、基督教徒及ビ猶太人モ亦其政
 府ノ治下ニ居ル者アリ、其權利ナキヲ殆ト奴隸ニ異ナラズ、

其政府ハ甚タ貪欲ニシテ不公平ヲ極メ、其裁判ニハ只其信徒ノ證據ノミヲ受理スルコト爲セリ、土耳其ハ國羅巴洲中ニ在リト雖モ不開化ノ第一ニシテ甚タ困難ナル國ナリ、但其神ニ就テ教フル所ニ於テ僅ニ一ノ真教アリ、即チ其教義ニ神ハ無限全能ノ者ニシテ能ハザル所ナク知ラザル所ナク天地萬物ノ造主ト爲スト是ナリ、然リト雖モ基督ヲ信ゼズ神ノ愛ト惠ト義トノ如キハ約子之ヲ知ラズ、神トハ支那人ノ所謂ル天命ノ如キ邈然タル者ト思惟シタリ、又其道德ヲ觀レバ讎敵ヲ愛ス可キノ律法ヲ知ラズ、異端ノ者ハ之ヲ殺シ或ハ之ヲ奴隸ト爲サシムルノ教アリ、且ツ摩哈麥ハ妻ヲ娶ル者十一人妾モ亦之アリ、而シ其道德上ニ於テ之ヲ惡ト

爲サズ、凡ソ婦女ハ奴隸ト一般ナル者ト爲スカ故ニ更ニ之ヲ意トセズ、男子ハ常ニ自由自在ニシテ其婦ヲ離別スルノ權アリ、而シテ回教ノ道德中ニモ固ヨリ又善事ナキニ非ズト雖モ、既ニ其大倫ヲ紊ルノ誤謬アルコト大約斯ノ如シ、又來世ノ事ニ就テモ其教義ニ記載スル所甚タ多シ、就中其善ナル者ヲ舉レバ來世ニ於テハ終ニ公平ノ審判アリト言フコト是ナリ、又其惡ナル者ヲ舉レバ其信徒ハ來世ニ於テ盛ニ饗應ヲ受ケ多ク美女ヲ得ルト言フコト是ナリ、抑モ回教ハ古今同等ニシテ更ニ進歩ナキ教ナリ、摩哈麥起テヨリ以來今日ニ至ルマデ、道德ニ於テモ教義ニ於テモ、又開化ノ度ニ於テモ更ニ進歩シタル所ナシ、回教ニ於テハ僅ニ一部ノ回教書

即チ可爾ヲ以テ無二ノ聖書ト爲シ、彼國ノ學士ト稱スル者ト雖也亦該一書ヲ讀ムニ過キズ、是故ニ回教ハ以テ野蠻人若クハ像教徒ヲ教フ可シ、蓋シ唯一ノ眞神ヲ信仰スル者タルヲ以テナリ、然リト雖也其教義中ニ不足ノ者アリ、醜惡ノ者アルヲ以テ未ダ開化國民ヲ教フルニ足ラズ

第二 波羅門 此教ハ既ニ太古ニ起テ其聖書ハ紀元前一千年ノ古ニ於テ之ヲ書ニ筆シタリト雖也、其教義ハ則チ當時ニ始マル者ニ非ズ、尙其以前ヨリ多年口碑ニ傳フル所ナリ、波羅門ハ一ニ印度教ト稱スト雖也其實ハ印度固有ノ教ニ非ズ、初メ北方ニ一人種アリ、印度ニ下リ來テ土蠻ノ國土ヲ併呑シ漸ク移テ南方ニ居レリ、尋テ又一一人種アリ、北方ヨ

リ下リ來テ之ニ代リ亦南方ニ居レリ、故ニ斯民本來北方ノ人種ニシテ漸ク移テ南ニ居リ遂ニ印度ヲ以テ自國ト爲シタル者ナリ、而シテ北方ノ開化ハ遙ニ印度ノ土人ニ優リ、其教モ亦之ニ勝レタルヲ以テ土人ハ終ニ奴隸ト爲リ、之ヲ併呑シタル北人ハ其國民ヲ別テ三級ト爲シタリ、即チ波羅馬、兵士、及ヒ農民是ナリ、而シテ波羅馬ハ能ク道學ニ通シタルガ故ニ王公侯伯ノ高位ニ登リ、三級ノ人民ハ互ニ級ヲ踰ヘテ交際セス、波羅馬ハ常ニ其道ヲ下級ノ者ニ教フルヲ欲セズ、波羅馬獨リ其教義ヲ解スルヲ以テ甚ダ傲慢ナリト雖也、其教義モ亦本來頗ル善良ナル者數件アリ、即チ神教ノ事、來世ノ事、靈魂不滅ノ事、又來世ニ眞正ノ審判アル事、等ノ如キ

是ナリ、然リト雖其始唯一ノ眞神ヲ信仰シタルニ拘ラズ、後世ニ至リ漸次ニ其善道ヲ棄テ天地萬物皆以テ神ト爲スニ至リ、種々雜多ノ物ヲ以テ神ト爲シ之ヲ信拜スルニ及テ無量無數ノ神祇ヲ生ジタリ、是ヨリ終ニ波羅馬モ亦神ノ部屬ト爲リ、下級ノ人民ハ之ヲ信仰シ波羅馬ノ手水ヲ汲テ之ヲ飲ミ以テ慶ト爲スニ至レリ、此他尙之ニ類スル汚穢ノ禮式少カラス、又人ハ償式ニ由テ神位ニ登ルコトヲ得ル者ト思惟シ、常ニ牛羊ヲ供テ償式ヲ爲サシメ又母ニハ其子ヲ供ヘシメタリ、又神ヲ崇メンガ爲ニ自殺スル者アリ、夫死スレバ婦ハ其屍ト共ニ燒殺サル、ヲ以テ例ト爲シタリ、是故ニ印度ノ高級貴位ナル者ハ甚ダ頑固ニシテ且ツ殘酷ナリ、其下級

ニ在ル者ハ決シテ登級スルコト能ハス、而モ皆ニ今世ノミナラス來世ニ於テモ亦絶テ望ナキ者ナリ、而シテ波羅馬ハ自ラ上級ニ居リ決シテ下民ニ教ヲ爲サス唯已ヲ尊敬セシムルノミ、然リト雖モ波羅門ノ教書中ニ善美ナル生理學アリ、又神ノ存在ト人ノ存在トニ就テハ蓋奧ノ教説アリ、而シテ又其中ニ慙笑ス可キ愚説ヲ混淆シタリ、故ニ近世ノ學士ハ概シテ之ヲ信仰セス、印度人ト雖モ大學ニ入ル者ハ別ニ各自ノ信仰スル所アリテ皆波羅門ヲ廢棄セリ、加之ナラス方今學士或ハ其國教ノ醜惡ナルヲ愧テ之ヲ改良セント欲シ、晚近行ハル、所ノ俗説僞教ヲ廢シ太古ノ聖旨ニ復セント欲シ、先其始祖ノ聖書ヲ閱スルニ太古ノ聖書ニモ亦愚魯ノ

教義アルヲ以テ、復古説モ亦遂ニ行ハレス、太古ノ聖書モ亦併セ廢シテ更ニ萬國ノ新説ヲ蒐集シ、拔粹精撰シテ善美ノ新教ヲ立テント企テタリ、波羅門ノ近況大約是ノ如キヲ至テハ殆ト命脈ナク又進歩ノ望ナキ道ト謂ツ可シ、

第三 佛教 佛教ハ元來波羅門ヨリ出タル道ニシテ、駕太摩即チ釋迦ハ生ナカラ波羅門徒ナリ、故ニ佛教ノ心理學ハ波羅門ノ心理學ト相似タル者ナリ、其道德モ亦互ニ相似タル所アリト雖モ、釋迦ハ古昔ノ波羅門教書ヲ以テ真ノ神言ニ非スト爲シテ之ヲ廢棄シ、又印度ニ奉崇セラレ、衆多ノ神祇ハ真神ニ非スト思惟シタリ、然リ而シテ釋迦モ亦遂ニ造物者即チ惟一ノ真神、及ヒ創世開闢ノ事ニ就テ其教ヲ説

ク所ナシ、蓋シ釋迦ハ是等ノ教ヲ無益視シタル者ノ如シ、且其教説ニハ來世ノ事モ亦分明ナラスト雖モ、再生ノ教ハ之ヲ信仰シタルカ如クニシテ、而モ亦稍誤謬ヲ信シタル者ナリ、釋迦ハ神學ヲ措テ説カス、祈禱禮拜ノ式ヲ教ヘス、又波羅門ノ償式ヲ以テ悉皆無益ノ事ト爲シタリ、且印度國民ノ等級ノ如キハ緊要ノ事ニ非ス、波羅馬ヲ尊敬スルノ理由ナク、同教ノ信徒ハ皆兄弟ナリト教ヘタリ、初メ佛法ノ教義ハ單ニ二件ト爲シタリ、即チ修身慈悲是ナリ、而シテ其修身ノ工夫ハ實ニ簡單ナル考案ヨリ起ル者ナリ、蓋シ其意ニ謂ヘラク凡ソ天下萬民ハ常ニ艱難困苦甚多シト雖モ、其艱難困苦ノ根本ヲ探究スレハ則チ情望ノ二者ニ因ラサルハナシ、若

シ此情ト望トヲ絶ハ則チ艱難困苦ナカル可シ、凡ソ吉ヲ好
 マス凶ヲ恐レサル者ハ幸福ナリ、喜ヲ好ミ憂ヲ恐ル、ハ艱
 難困苦ノ根本ナリ、然ラハ則チ如何ニシテ此情ト望トヲ滅
 絶ス可キ乎、此根本ヲ斷サレハ艱難困苦ヲ免カル可カラス、
 之ヲ斷絶スルノ道他ナシ、夫八識ニ在ルノミ、何ヲカ八識ト
 云フ曰ク眞見識、思識、言識、行識、身識、意識、眞那識、阿賴耶識、是
 ナリ、此八識ハ以テ能ク情望ヲ滅絶ス可シ、夫情望ハ即チ艱
 難困苦ノ根本ナルヲ以テ、凡ソ天下ノ財寶娛樂交際ハ悉ク
 之ヲ放棄スルヲ善トス、凡ソ富貴ナル者ハ先ツ其富貴ヲ棄
 テ隱者ト爲ルヲ要ス、隱者ニ非サレハ彼八識ヲ守ルヲ能ハ
 ス、先ツ隱者ト爲テ而シテ後ニ初メテ能ク八識ヲ守ル可シ、

波羅門
 轉
 得
 八
 義
 徒
 能
 斯
 史
 ス
 ン
 サ
 ル
 ナ
 ラ
 ン

故ニ天下ノ人民漸ク此教化ニ服シテ諸民悉皆隱者ト爲ラ
 ハ、人間ノ情望ハ人類ノ存在ト共ニ滅絶ノ空寂皆無ニ至ラ
 シメント、是釋迦カ其教義ノ考案ヲ立ルノ本原ナリ、又謂ヘ
 ラク慈悲ハ廣大ノ美德ナリ已ヲ棄テ他ヲ助クルハ佛教信
 徒ノ要務ナリ、其慈悲タルヤ畜ニ人間ニ止マラス、禽獸ニ至
 ルマテ亦皆深切ニ愛養セサル可カラスト、釋迦此二件ノ教
 義ヲ説テヨリ佛教漸ク盛大ニ至リ、人類ハ皆兄弟ナリト思
 惟シタルヲ以テ、其信徒等熱心ニ傳道シテ遂ニ印度ノ國教
 ト爲リタルカ故ニ、漸ク波羅門ト軋轢シタリト雖田勝ツト
 能ハス、波羅門遂ニ勝利ヲ得テ佛教徒ヲ印度國外ニ放逐シ
 タリ、是故ニ方今印度ニ於テハ反テ佛教ノ信徒ナク、支那西

此証者、何ヤ波羅門勝利ノ爲リニヤ、此ハ何宗ヲ奉スルヤ、此ハ

藏交趾日本等ニ專ラ行ハル、所ノ教義タルハ讀者諸君ノ
 普ク熟知セラル、所ナリ、此等諸國ニ於テハ佛法ノ二教義
 モ亦善教ト謂ツ可シ、何トナレハ慈悲ハ則チ基督教ノ愛ニ
 似タル者ナレハナリ、然リト雖モ所謂ル慈悲ナル者ノ中ニ
 既ニ誤見アリ、即チ人間ノ如ク禽獸ヲモ亦深切ニ愛養ス可
 シト云フニ至テハ道理ニ適ヘル教ニ非ス、又人ノ情望ハ自
 カラ之ヲ抑制スルハ明カニ人ノ要務ナリト雖モ、亦之ヲ全
 廢スルハ修身ノ道ニ非ス、但神ノ律法ヲ忘レ情慾色慾ヲ放
 縱ニスルカ如キハ則チ固ヨリ惡ナリ、若シ否ラスシテ律法
 ノ範圍内ニ於テ人間自由ニ情望ノ欲スル所ニ從フト得
 ヘシ、情ト云ヒ望ト云フモ亦皆神ノ附與スル所ナルカ故ニ

適宜ニ之ヲ使用スルモ亦眞道ナリ、前ニ既ニ述ルカ如ク釋
 迦ハ神學ヲ放棄シテ神及ヒ世界ノ創始ニ就テハ更ニ教フ
 ル所ナシト雖モ、神ヲ拜スルハ抑モ人心ノ必要ナルカ故ニ、
 佛教徒モ亦人心ノ必要ヲ缺ク不能ハス、漸ク人心ノ自然ニ
 從ヒ釋迦ヲ拜シ諸佛ヲ拜シ靈魂ヲ拜スルニ至リ、遂ニ偶像
 ヲ造リ寺院ヲ建ツルト恰モ波羅門ノ偶像ヲ拜スルト一般
 ナルニ至レリ、而シテ後世佛教ハ處々ニ移リ國々ニ行ハルト
 雖モ、各國佛像ヲ異ニシ禮式ヲ同フセス、是ヨリ佛法ニ漸ク
 惡弊ヲ生シタリ、且釋迦ハ來世ノ事ニ就テ教フル所ナク、其
 說ク所ノ教義及ヒ再生ノ教理モ亦皆誤謬ナリト雖モ、後世
 ニ至テ其信徒ノ誤謬ハ益々甚ク、遂ニ人間再生說及ヒ

極樂往生説ヲ生シタリ、且夫佛教ハ之ヲ今日ニ傳道スヘキ
 教義ニ非ス、又近年ノ僧徒ハ概シテ無氣無力ニシテ其誤謬
 ヲ改正スルノ能力ナシトス、加之ナラス本原釋迦ノ教義ニ
 モ亦不足アリ、謬見アルヲ免カレサルカ故ニ、斷然今世ノ教
 トナルコト能ハサル者ナリ、

第四 儒教 儒道ハ讀者諸君ノ最モ能ク知ラル、所ナル
 ヲ以テ、茲ニ其由來ヲ述ルハ贅言ニ屬スト雖、聊カ所見ア
 リテ二三ノ事跡ヲ掲ケント欲ス、太古ノ儒教ニハ上帝ト稱
 スル一神ヲ拜スルノ教アリ、所謂ル上帝ナル者ハ即チ造物
 者ナリト録シタレ、而モ庶民ハ之ヲ拜スヘキ者ニ非スシ
 テ、人間ト上帝トハ甚々遠隔ナル者ナルカ故ニ、又別ニ種々

ノ神アリ靈アリテ諸民之ヲ拜スル事トハ爲レリ、其上帝ハ
 即チ皇帝ノ位ニ在ル者ナルカ故ニ、人民ハ直接ニ之ニ依頼
 スルコト能ハス、其臣下僚屬ノ如キ賤劣ノ神ヲ拜ス可キ者タ
 リ、是ヨリ人間ハ皆造物者タル眞神ヲ忘レ、種々ノ神靈ヲ拜
 スルニ至リ、遂ニ祥瑞ヲ喜ヒ禍孽ヲ忌ムノ風俗ヲ爲シタリ、
 是儒教第一ノ缺瑾ト謂ツ可シ、又儒道ニハ神即チ上帝ニ就
 テ明晰ナル教義ナク、後世亦之ヲ解明スル者ナキヲ以テ徒
 ニ禍福妖兆ニ惑溺セラレ、ニ至レリ、故ニ支那人ハ之ヲ他
 國ノ人民ニ比スレハ幽靈變化ノ類ヲ懼ル、コト最モ甚ダシ、
 萬國ノ歴史ヲ通觀スルニ神學ハ人民必要ノ學ニシテ決シ
 テ缺ク可カラサル者ナリ、然リ而ノ孔子ノ語中ニ嘗テ神學

ノ明教ナシ、苟モ此教ナキ者ハ未タ以テ完全ノ宗教ト爲ス
可カラズ、僅ニ道德ノ學問ト謂フ可キハ、蓋シ人間相互ノ
義務ヲ教フルノ學ナリ、若シ道德學ノ一科ヲ以テ之ヲ視レ
ハ實ニ善美ノ道德ナリ、其極ヤ孔子嘗テ曾子ニ忠恕ノ道ヲ
教フル語ニ已カ欲セサル所人ニ施スコ勿レト曰フニ至レ
リ、又老子ハ之ヨリモ尙優レル者アリ、其教ニ怨ニ報ルニ德
ヲ以テスヘシト云ヘリ、之ヲ外ニシテハ異端ノ教義中未タ
皆テ是ノ如ク善美ナル道德アルヲ見ス、然レ其道德中ニ尙
未タ足サル者アリ、何ソヤ即チ未タ男女同等ナルヲ能ハス
女ハ常ニ男ノ下位ニ在ルト是ナリ、又子ハ親ヲ拜スルヲア
リ、基督教ニモ親ヲ敬フ可シトノ教ハ固ヨリ之ヲ載メリト

雖レ神ノ外ニハ拜ス可キ者ナシトス、支那ニ於テハ親ヲ拜
スルノ教アルガ爲ニ一種ノ弊害ヲ生シタリ即チ其靈ヲ恐
レ其嫉妒ヲ避ケンカ爲ニ親ヲ拜スル者多キニ至ルト是レ
ナリ、
凡ソ儒道ハ常ニ太古ヲ稱揚スルノ道ナリ、故ニ古ノ聖世幸
福ノ時ヲ稱シ古道ヲ以テ目的トスルカ爲ニ、支那ハ實ニ進
歩セサルノ國ナリ、其進歩セサルカ爲ニ國民漸ク弊風惡俗
ヲ生シ益々醜惡ニ流レタリ、
吾人此ニ於テ異端ノ諸道ヲ論駁スルノ意ニ非ス、又素ヨリ
之ヲ誹謗スルノ意ニ非サルナリ、彼教義ニモ幾分ノ善事ア
ルハ予喜テ之ヲ見ル者ナリ、然リト雖レ世ノ智識アル者ノ

中ニ是等ノ諸道ヲ以テ世ノ拯救ナリト思フ者アリヤ否ヤ、若シ果シテ然ラハ來世ノ事ニ就テ、大ニ喜フ可キ望ナキ者ノ如シ、或說ニ曰ク是等ノ諸宗教、及ヒ哲學ハ拯救ナシト雖モ、文化、開物、進化ニ由テ拯救アリト、或ハ曰ク拯救ハ不用ナリ、目今ノ勢、社會ハ日ニ月ニ漸ク進歩シテ終ニ金世トナル可シト、然リト雖モ此等ノ說ハ歴史ニ就テ之ヲ徵ス可シ、昔雅典ノ金世トハペリクリースノ時ナリ、其文明開化ハ實ニ珍事ニシ、哲學士、詩人、歴史家、政治家、建築家、美術家等ノ如キ皆各其技藝ニ有名ナル者多ク一處ニ集リタルハ古今其例ナク、且ツ當時ノ教育盛ニシ平民ニ至ルマテ能ク技術ノ妙味ヲ解

シタリ而モ雅典ノ歴史ヲ見ルニ其盛世ト雖モ道德ハ既ニ腐敗シテ改ム可カラサルニ至レリ、ペリクリースノ没後ニ至テハ雅典政府ノ勢モ亦衰ヘテ地ニ落タリ羅馬帝國モ亦之ニ同シク、文明開化ノ盛ナル時ハ道德腐敗シテ國勢破壊シタル時ナリ、之ニ反シテ其半開貧乏ナル時ハ國民強勢ニシテ能ク事業ヲ爲シタル時ナリ、富貴ト權利トヲ得テ反テ國衰ヘ道德腐敗シタリ、又今露西亞ノ虛無黨ハ學問ニ由テ生シタル黨派ナリ、而シテ其目的ヲ問ヘハ萬事ヲ破壊スルニ在リト云フ、文明開化ニ由テ拯救ヲ成スヲ能ハスト云フ所以ノ理由ハ既ニ明白ナラシ、若シ只文明開化ニ依ラハ人ノ善惡ハ共ニ增長スル者ナリ、人情惡ナレハ其情慾ヲ満足セシ

ムルニ必用ナル事物、益々多ヲ加ヘ、人情益々惡ヲ増ス可シ、且ツ夫學問ハ人情行爲ヲ修治ス可キ者ニ非ス、物質學ハ如何ニ深ク之ヲ學ブニ、是ニ由テ義人善人ヲ生ス可キニ非ス、故ニ道德ト學問トハ全ク其目的ヲ異ニスル者ナリ、而モ道德盛ナレハ、文明開化ニシテ學校モ亦最モ美ナリト雖モ、宗教道德ナクノ開化ヲ進ムレハ、猶惡人ノ手ニ特殊ノ利器ヲ付スルカコトシ、實ニ恐ル可キノ至ト謂フ可シ、又進化ニ由テ拯救アリトスル者アリト雖モ、是亦甚ク難論ナリ、支那印度ノ情態ヲ視レハ、年々退歩スル者ノ如シ、又博ク萬國ヲ視ルニ、宗教ナキ國ニ於テハ殊ニ道德ノ進化ナキ者ノ如シ、例ヘハ人ノ腦力ノ如キモ、雅典ノ盛ナク時ヨリ今日ニ至ルニ至テ

更ニ進化シタル所ナキカ如シ、又道德ニ於テモ大ニ進化シタリト言ヒ難シ、世間國衰ヘ道德腐敗シタル者反テ多キカ如シ、優勝劣敗ノ説ニ由レハ道德ニ於テモ罪人漸ク衰テ義人益々勝ヲ制ス可キカ如シト雖モ、吾輩罪人ヨリ之ヲ視レハ甚ク喜フ可キ説ニ非ス、若シ進化ニ由テ終ニ拯救アリト云ハハ、吾輩今人ハ大ニ關係ナキ者ノ如シ、果シテ拯救アルノ時ハ幾萬億年ノ後ナラン乎、若シ萬億年ノ後ヲ以テ金世ニ至ルノ期ト爲サン乎、期ニ先テ星學家ノ説ノ如ク、地球一變シテ人類生存スルコト能ハサルニ至ルモ亦未ダ知ル可カラス、而シテ只進化ニ由テ拯救アリト云フハ拯救ナシト云フモ更ニ異ナル所ナキナリ、

是ノ如ク論シ來レハ、凡ソ人類タル者ハ、詩人、歴史家、哲學士
 ソ證明スルカ如ク、實ニ拯救ヲ要スル者ナリ、斯ノ如ク拯救
 ヲ要スルニ、基督教ヲ外ニソハ、天下何國ニモ拯救ノ在ル所
 ヲ見ス、哲學ニ於テモ他ノ宗教ニ於テモ、理學ニ於テモ、文化
 ニ於テモ、進化ニ於テモ、一モ拯救アリト云フコト能ハス、又吾
 人一己ノ心ヲ願ルニ、我經驗ニ於テモ、亦大ニ拯救ヲ要スル
 者ノ如シ、既ニ自カラ拯救ヲ要スルコトヲ感シ、己ノ爲メ社會
 ノ爲ニ拯救ノ必要ナルヲ思ハ、直ニ之ヲ神ニ依頼スルノ
 心ヲ發ス可シ、此天地萬物ヲ造リ給ヘル獨一ノ眞神ハ、永久
 人類ヲ此非道ナル情態ニ舍テ給フコトアル可キ乎、人類既ニ
 愛心アリ仁恤アリ、神ニシテ焉ソ慈悲ナカル可ケンヤ、吾人

ト雖モ他人ノ困究ヲ見レハ、之レヲ救ハンカ爲ニ應分ノ業
 務ヲ爲スコアリ、神モ亦是ノ如ク人ヲ拯ハンカ爲ニ御手ヲ
 出シ給フコトナカラン乎、若シ能ク人性ヲ察スレハ、神ハ既ニ
 其榮光ト其性質ヲ顯ハシ給ヘリト云フ、是ノ如クニシテ尙
 道理ニ合ハサル乎、未タ信ス可カラサル乎、否神ハ人ヲ舍テ
 救ハス、之ヲ如何トモスルコトナシト云フコト甚タ信シ難キ
 説ナリ、而モ尙之ヲ信セス、之ヲ認メサルヲ可トスル者アル
 カ如シト雖モ、神其愛子ヲ以テ其性質ヲ顯ハシ、人類拯救ノ
 爲ニ啓示ヲ賜フト云フ者ハ、最モ深重ナル道理ニ合ヘル説
 ト謂ツ可キナリ、然レハ則チ神ノ性質ト人ノ必要トヲ察シ、
 又神ヨリ拯救ト啓示アルヲ認知セハ直ニ之ヲ信仰スルコト

ヲ得ヘキ者ナリ

○第四章 基督教ノ結果

夫基督教ノ成遂タル改良ヲ視ル者ハ、之ニ依テ基督教ハ實ニ世ノ拯救ナルヲ考ヘサル可カラス、聖書ニ曰ク基督教ハ世ノ光ナリト、是果シテ實乎、虚乎、若シ果シテ實ナリトセハ具眼者ハ必ス之ヲ見ル可ヘキナリ、但此光ヲ見サル者ハ只盲人ノミナリ、基督教ハ世ノ光ナレハ吾人若シ思慮アレハ必ス之ヲ知ル可キナリ、又別ニ譬ヲ考フルニ基督教ハ此諸宗教ヲ指シテ曰ク、其果ニ由テ知ル可シ、執カ茨ヨリ葡萄ヲ取り、薊ヨリ無花果ヲ取ルヲサセン、凡ソ、善樹ハ善果ヲ結ヒ、惡樹ハ惡果ヲ結ヘリ、是故ニ其果ニ由テ之ヲ知ル可シト、若シ永ク宗教ノ結果ヲ見レハ必ス此言ノ宜ナルヲ知ルヘシ、而モ若

シ之ヲ隘處ニ短時ニ此結果ヲ見タラシニハ或ハ誤ナキヲ保ス可カラスト雖也基督ノ教ハ一千八百年間廣處ニ果ヲ結ヒタレハ是ニ由テ其樹ヲ知ル可キナリ、
 第一 若シ只皮相ノ考ヲ以テ之ヲ觀レハ基督教ハ光アル處、即チ文明開化國ノ教タル者ノ如シ、日本人ト雖也執カ回教、波羅門教、佛教、偶像教ノ行ハル、處ヲ摸範トシテ是等ノ諸國ノ風教ヲ我ニ輸入セント欲スル者アラシヤ、執カ歐米諸國ヲ以テ暗國ト爲シ、亞細亞阿弗利加ヲ以テ明國ナリト云フ者アラシヤ、之ニ反シテ日本ノ論者ハ西洋ノ光ヲ寫シテ、又亞細亞ノ光トナラシトスル者ナリ、西洋諸國ハ悉ク基督教國タルハ固リナリ、又一々其諸國ヲ察スルモ亦一大

事ナリ、其諸國ノ中ニ就テ是班牙以太利、埃地利、魯西亞及ヒ南米諸國ノ如キハ固ヨリ日本人ノ取テ以テ摸範ト爲ル所ニ非ス、日本人佛朗西ヲ以テ摸範トセサルニ非スト雖也、是陸軍訓練及ヒ法律ノミナリ、然レハ則チ日本ノ摸範トスル所ハ歐米各國ニ非シテ、其中僅ニ英米獨ノ三國ニ過キス、日本ハ蓋シ此三國ノ風教ヲ取ラントスル者ナラン、而シテ基督教ハ特ニ此三國ニ於テ大ニ他ニ異ナル所アルナリ、何トナレハ前ニ掲ケタル諸國ハ基督ノ言ヲ普ク知ル者ニ非ス、只後ノ三國ハ上、天子ヨリ下、庶人ニ至ルマテ悉ク基督ノ言ヲ知ル者ナリ、諸人大抵皆聖書ヲ所持スル者ナリ、是ニ由テ西洋ト東洋トヲ比較スレハ基督教ノ在ル所ハ即チ世ノ光タ

ルヲ知ル可シ、又更ニ一步ヲ進テ西洋諸國ヲ互ニ比較スレハ諸人基督ノ言ヲ知ル所ハ即チ日本ノ模範トスル所ナリ、然リ而シテ基督ト世ノ光トハ關係アリヤ否ヤ、或ハ關係ナク道理ナクシテ偶然是ノ如クナリタル乎、今之ヲ考ヘサル可カラス、

第二 今之ヲ考フルニ方テ基督教ノ勢ヲ考ヘサル可ラス、基督教ハ固ヨリ魔術ノ如ク變化スル者ニ非ス、而シテ漸ク社會ニ入ル勢ニシテ徐々ニ活動シ、遂ニ社會ヲ益スル者ナリ、神ノ國ハ何ニ比ヘ又々何ニ譬ヘンヤ、一粒ノ芥種ノ如シ、人之ヲ取テ其園ニ播ハ長ク大ナル樹トナリ、天空ノ鳥其枝ニ棲ナリ、又云ケルハ我神ノ國ヲ何ニ譬ヘン、麴酵ノ如シ、婦之ヲ取

テ三斗ノ粉ノ中ニ納セハ、盡ク發出ス、故チリト、是ニ由テ之ヲ觀レハ基督教ハ直ニカヲ以テ社會ヲ潰シ、更ニ新社會ヲ立ル者ニ非ス、或ハ善美ノ法律ヲ立テ或ハ惡弊ヲ防止スル者ニ非ス、只活タル勢ニシテ其勢ヲ社會ニ入ルレハ、中心ヨリ漸ク張大ト爲リ萬事ヲ改良スル者ナリ、又自然ノ道理ノ如ク沈靜ニシテ徐ニ動キ、甚ク遲緩ナリト雖モ、萬世不易ノ確乎タル結果ヲ爲ス者ナリ、基督ハ先ツ一個人ノ心ヲ改ム、一個人ハ社會ノ本ナルヲ以テ一個人正ケレハ、之ヨリ社會ヲ正フスル者ナリ、然リト雖モ基督ノ光アル所ニモ亦固ヨリ不義ナキニ非ス、而モ之カ爲ニ基督ハ不義ニ合フ者ナリト思フコト能ハス、其勢未タ其不義ニ當ラサルノミ、故ニ基督教

ノ勢ヲ考ヘント欲スル者ハ之ヲ歴史ニ徴シ、基督ノ言アル所ハ漸ク基督ノ言ニ合ヒ、其不義ハ漸ク絶テ、道德ニ文明ニ開化ニ漸ク進歩スルヤ否ヲ考ヘサル可カラス、然レモ只基督ノミヲ以テ此進歩ノ原因ナリト爲ス可カラス、又別ニ原因アルハ固ヨリナリ、故ニ一方ニ偏セスシテ、基督ノ其原因タル者幾許ナルヲ考フ可キナリ、

第三 東西兩洋ノ差別ヲ見ルニ婦女ノ情態ヨリ大ナルハナシ、亞細亞ノ婦女ハ遙ニ男子ノ下流ニ在リ、西洋ニ於テハ、男女同等ナリ、東洋ノ婦女ハ教育十分ナラスシテ、社會ニ實際ナキノミナラス、其夫ニ對スル交際モ亦親密ナラス、西洋ノ婦女ハ社會ニ於テモ、室家ニ於テモ、内外共ニ大勢力アル

者ナリ、例ヘハ其子女ノ教育ニ於テモ母タル者ノ權力頗ル盛ナリ、又政治家、歴史家、學士輩ノ言ニ由ルモ、予ハ婦ノ補助ト同心ニ由テ、此ノ如ク勢力名譽ノ位地ニ登レリト曰フ者甚々多キニ居レリ、又高名大家ノ言ニ由ルモ予ハ母ノ教訓ニ由テ我業ヲ得タリト曰フ者尠シトセス、抑々婦女ノ情態漸ク進テ歐米ノ如キ地位ニ至ラサレハ、十分ニ開化スルコト能ハサル可シ、何トナレハ東洋ニ於テハ全國民口ノ半數ヲ舉テ卑賤ノ者ト爲セハ、其失フ所ノ勢力甚大ナリト謂フ可キナリ、只全國ノ人民男女同心協力シテ而シテ後ニ始メテ眞ノ進歩ヲ爲スコヲ得ル者ト見ヘタリ、東西兩洋ノ間ニ斯ノ如キ一大區別アルハ果シテ何ニ因ル乎、西洋ニ於テハ婦

九十
女ノ情態古來今日ノ如クナリシ乎、否決シテ然ラサルナリ、
古昔西洋婦女ノ情態ハ現今ノ東洋ト大同小異ナリ、而シテ
其進歩シタル原因ヲ尋レハ固ヨリ一ニシテ足ラスト雖モ
基督教ヲ以テ第一ノ大原因ト爲サ、ル可カラス、古昔ノ婦
女ハ男子ノ妾ナリ婢ナリ、或ハ遊戯ノ玩具ナリ、例ヘハ古昔
ノ羅馬法律ニ於テモ婦女ハ殆ト權利ナキ者ナリ、其婚嫁ス
ルニ及テハ自己ノ資産ハ悉ク其夫ノ財産ニ屬シ、其子女ハ
全ク我子女ニ非スシテ其夫ノ子女ナリ、母子共ニ夫ノ權下
ニ屬スル者ナリ、故ニ夫タル者ハ其婦ヲ罰シテ生命ヲ奪フ
ニ至ルノ權アリ、而シテ羅馬人ノ思想ニ由レハ婦ヲ娶ルハ
實ニ望マシカラサルコトニシテ帝國ヲ爲ニ務メテ婚姻セ

サルヲ得サルヲト爲シタリ、希臘ノ開明ヲ極メタル時ニ於
テモ婦女ノ情態ハ實ニ家婢ノ如キ者タリ、教育ナク、權利ナ
ク、又夫ニ交親ナキ者タリ、今日ニ至テモ基督教ナキ諸國ヲ
考フレハ、土耳其ノ如キ波斯ノ如キ印度支那ノ如キ婦女ノ
情態ハ大抵前ニ述ル所ク如シ、然リト雖モ希臘ニ於テハ婦
女ノ教育アル者モ稀ニ無キニ非ス、而モ是等多クハ娼妓ナ
リキ、又羅馬帝國ノ盛ナル時ニ方テ其嚴格ナル婚禮ヲ忌避
シタルカ故ニ、到底夫婦ハ別物ナルカ如キ情態ニ至レリ、而
モ其自由ナル婚姻ヲ爲ス者ハ離縁モ亦自由ナリシ、是ニ由
テ婦女ハ皆道德ヲ失ヒ、姦淫ハ平生ノ常事ニシテ實ニ社會
ヲ滅亡ス可キ情況ナリシ、カンスタンチン帝ノ時ニ至テ羅

馬法律ニモ漸ク基督教ノ説ヲ加ヘタリ、ジヨステニヤンノ法律ニ由テ夫ハ其全權ヲ失ヒ、婦ハ其資産ヲ私有スルノ權ヲ得タリ、母タル者モ亦子女ニ對シテ殆ト父權ノ如キ權利ヲ得タリ、十分ノ理由ナクソ離別セラレタル婦ハ自カラ其子女ヲ保有スルヲ得タリ、且離婚ノ法律モ漸ク嚴正ナルニ至レリ、カンスタンチンノ法律ニ由リ買妾及ヒ姦淫ヲ禁シ、十分ノ道理アルニ非サレハ離別スルヲ能ハサルニ至レリ、當時是等ノ法律アリト雖モ、羅馬ノ社會漸ク衰頽スルニ及テハ全ク是等ノ新法ヲ守ルヲナカリシ、斯ノ如ク新陳兩説交代スルノ時ニ方テ獨乙ナル野蠻人アリ、來テ羅馬ヲ滅シタリ、此野蠻ナル獨乙人中ニ在テハ反テ貞節アリ、大ニ羅馬ノ洛逸

ナルニ異ナレリ、又此野蠻中ニ在テ婦女ハ特ニ人ノ尊敬ヲ受クル者ニシテ之ヲ賤ム者ナカリシ、而モ其婦女ニ眞ノ權利ナク男子上權ヲ占タルヲ猶羅馬人ノ如シ、且男子ハ婦女ヲ買フヲアリ、後ニハ其婦ヲ罰スルカ爲ニハ之ヲ賣リ之ヲ殺スノ權アリ、此野蠻人南ニ出テ羅馬ノ文明開化ニ接シテ漸ク婦女ヲ賤シミ貞操ヲ失フニ至レリ、然リト雖モ當時幸ニ基督教ニ逢タルカ故ニ良風全廢ニ至ラス、却テ其時ヨリ漸ク婦女ノ情態ヲ改良シタリ、是ニ由テ之ヲ觀レハ、目下婦女ノ貴重ナル情態ハ古昔獨乙人ノ尊敬シタルト、基督ノ教トニ由來スル者ト見ヘタリ、是ニ於テ基督ノ教義明白ナリ、人ノ尤モ大事ナルハ神ニ對スルヲナリ、之ニ就テハ男女全

ク同等ト見ヘタリ、又婚禮ハ人間娛樂ノ爲ニ非ス、國家必要
ノ爲ニ非ス、神ノ立給ヘル貴重ノ禮式ナリト云フ、又節操ト
ハ終世獨身ヲ謂フニ非ス、只買妾、娼妓、姦淫、總テ是等ノ類ヲ
嚴誡スル者ニシテ男女同シク婚禮ノ約束ヲ守ラサル可カ
ラスト云フナリ、是等ノ教ヲ考フルニ結婚ハ一家ノ基礎ナ
リ、是只規則ニ由ルニ非ス、道德ニ從フニ非ス、基督ハ婦女ヲ
モ亦拯救センカ爲ニ十字架ノ苦ヲ受タルヲ信シ、其拯救
スル所ノ者ヲ賤テ妾婢ト爲シ遊女ト爲スヲ禁シタル教ナ
リ、近世ニ於テモ基督教ノ精神ハ何國ニ至ルモ同シク婦女
ノ情態ヲ改良スルノ結果アル者ナリ、

第四 羅馬帝國ニ於テ子女ニ對スル父母ノ權利ハ頗ル大

ナリ、子女既ニ成長スルモ父母アル者ハ終身全ク奴隸ノ如
ク父母ノ權下ニ在リ、子タル者ハ一己ノ作業ニ由テ財產ヲ
積ムトモ、其財產ハ全ク父ノ財產ニ屬シタリ、又父ハ子ニ其
婦ヲ與ヘ後又無理ニ之ヲ奪フノ權カアリ、又子ヲ罰スルニ
鏈ヲ以テ之ヲ繫キ、國外ニ之ヲ放流シ、或ハ之ヲ殺シ、或ハ之
ヲ賣テ奴隸ト爲スノ權利アリタリ、且又女子ニ於テモ亦之
ト同様ノ處置ヲ爲スノ權利アリタリ、然リト雖トモ父母タ
ル者其女ヲ妓樓ニ賣テ娼妓ト爲スノ權利アリシヤ否ヤ、今
其證據ヲ見ス、若シ虛弱ナル子女ヲ舉クレハ之ヲ殺シ、或ハ
之ヲ棄ルヲ以テ常事ト爲セリ、上等社會ノ中ニモ亦斯ノ如
キ弊風アリ、之ヲ棄ルハ寧ロ之ヲ殺スノ勝レルニ若ストノ

説アリタリ、羅馬ノ有名ナル學士セ子カ言ヘルコトアリ曰
 ク虚弱不具ノ赤子ハ我等之ヲ水ニ沈ム、是レ暴戾ニ似タリ
 ト雖トモ、無益ノ子女ヲ失フハ激怒ニ非スシテ道理ナリ
 ト、基督教ノ羅馬ニ入ルヤ直ニ此惡弊ヲ矯ムルノ勢ヲ示セ
 リ、凡ソ人タル者ハ子女ト雖トモ皆各其權利アルノ考ヲ起
 シタリ、蓋シ人々皆神ノ子ニシテ基督ノ兄弟ナリ、故ニ神基
 督ノ拯救ヲ受ルニ於テハ父子同等ナリ、是等ノ主義ノ行ハ
 ルト共ニ、父母ト雖トモ非道ノ權利ヲ有ツノ理ナク、若シ子
 女ヲ殺ス者ハ他人ヲ殺シタルト同等ノ重罪ニ處ス可キノ
 法律ヲ生シタリ、但道德ニ合ヘル罰ハ之ヲ行フノ權利アリ、
 而モ子女ヲ賣ルコトヲ得ス、棄ルヲ得ス、子女ノ得ル所ノ財産

ハ則チ其私有ト爲スコヲ得ルニ至レリ、是ヨリ漸ク進テ今
 日ノ情勢ト爲リ、父タル者ハ其家ノ專制君主ニ非ス、非道ニ
 家族ヲ使役スルヲ得ス、道理ニ由テ之ヲ治ムルヲ得ルノミ、
 初生ノ孩子ト雖トモ之ヲ棄ルヲ大罪ト爲スノ法律ハ西洋
 諸國ニ有ル所ナリ、
 第五 下等社會ノ民情モ亦基督教ニ由テ大ニ改良シタル
 者アリ、古昔羅馬帝國ニハ奴隸甚々多ク、其情態ハ實ニ艱難
 ヲ極メタリト雖モ之ヲ矜恤スル者ナキカ如シ、或富者ハ一
 家ニ四千一百奴ヲ有テリト云フ、固ヨリ奴隸ハ少シモ權利
 アルコトナシ、奴隸中ニモ亦學者アリ、善良ノ人モ亦多トス、
 蓋シ軍陣ニ捕ヘラル、者ハ悉ク奴隸ナリ、亦貧ナル者ハ衣

食ノ爲ニ自カラ奴隸トナル者アリ、又棄兒ハ悉ク奴隸ト爲リ、或ハ子女ヲ賣テ奴隸ト爲ス者アリ、奴隸ノ使役セララル、ヤ鎖ヲ以テ連繫セラレ隊ヲ結テ苦役ニ服ス、其慘酷甚タシク、其住居食料ノ如キモ甚タ粗惡ニシテ人間ニ似サル者アリ、然リト雖トモ是甚タ驚ク可キニ非ス、其主ノ權利盛ナルカ爲ナリ、例ヘハ嘗テ一奴憤怒シテ其主ヲ殺シタリ、之ヲ羅馬ノ法律ニ照シテ同居ノ奴隸六百人悉ク死刑ニ處セラレタリ、而モ其犯罪ハ只一奴ノ憤怒ニ發シタル一人ノ行爲ニシテ、他ハ之ニ關セサル者ナリト云フ、又一富人主ト爲テ賓客ニ接ス、客未タ人ヲ殺スヲ見ス、主人則チ一奴ヲ殺シテ其觀ニ供シタリト云フ、尙羅馬ノ奴隸ヲ處スルノ慘忍ナルヲ

揚ケント欲スレハ觀闘場ノ事ヲ一言セサル可カラズ、此場ニ於テ奴隸ノ殺サル、者甚タ多シ該撒帝ハ一夜ニ六百四十人ノ奴隸ヲ出シ互ニ戰闘殺戮セシメタリト云フ、又クレジユン帝ハ此觀場ニ一萬人ヲ戰死セシメタリ、基督教ノ羅馬ニ行ハル、ヤ忽チ此等ノ弊害ヲ改革シタリ、基督ハ直接ニ奴隸ヲ禁シタルコトナシト雖モ、其教ハ自然ニ奴隸ヲ廢止セシムル者ナリ、例ヘハ己ノ如ク鄰ヲ愛ス可シトハ第二誡ニ明示スル所ナリ故ニ若シ奴隸ノ所有主ニシテ教會ニ入ラント欲スル者ハ、此教義ニ從フ可キ約束ヲ爲サ、ル可カラズ、又教會ハ神ニ對シテ奴隸モ其主モ同ク神ノ子、基督ノ兄弟ナリ、共ニ基督ノ拯救ヲ要メテ之ヲ受ル者ナルカ故ニ羅

馬人ノ如ク奴隸ヲ虐使スルコト能ハサルハ勿論ナリ、是ニ由テ多數ノ信者ハ各其所有ノ奴隸ヲ解放シタリ、之ヲ解放スル者ハ安息日ニ會堂ニ於テ之ヲ解放スルヲ特ニ善シトシタリ、カンスタンチン帝基督教ノ信者トナリシヨリ、羅馬ノ法律ニモ亦基督教ノ善ナル者ヲ挿入シタリ、是ヨリ羅馬ノ法律ハ漸ク奴隸ノ殘情ヲ改良シタリ、然ト雖トモ羅馬ノ社會ハ本來奴隸制度ニ由テ立テル者ナルヲ以テ、容易ニ之ヲ改革スルコト能ハス、又新タニ羅馬ニ入來レル野蠻人モ亦奴隸ヲ有スル者ナルカ故ニ、基督教ハ之ニ對戦スルコト甚タ久シカリシ、又亞米利加發見ノ後歐洲人ハ阿弗利加ノ野蠻人ヲ掠奪シテ奴隸ト爲シタル者甚タ多カリシ、此新奴隸ハ羅

馬ノ昔ニ比スレハ、虐役甚タシカラスト雖トモ、亦非道ノ使役ト謂ハサル可カラス、熱心ナル信者ハ是モ亦基督教ニ背ク者ナリト爲シタルヲ以テ、英國ノ如キハ奴隸ノ利益頗ル多ニ拘ラス、百年前ニ於テ某信者ハ頻リニ之ヲ駁論シタリ、其議論ハ只基督ノ言ニ由テ立タル者ニシテ、他ニ原因アルニ非ス、且ツ此議論ハ僅ニ數人ノ信者ノ主張シタル者ナリト雖トモ、而モ其道理ニ服シテ英國人民悉ク之ヲ認可シタリ、一千八百六年ニ至テ英國々會ハ阿弗利加蠻民ヲ掠奪スルコトヲ嚴禁シタリ、後又其藩屬國ニ在ル奴隸所有者ニ一億ノ金ヲ出シテ、悉ク其所有ノ奴隸ヲ買上テ之ヲ解放シタリ、米洲聯邦ノ南部ニ於テモ亦奴隸アリ、初ヨリ議論紛々トシ

百二
テ其南部ニ於テモ亦議論甚々盛ナリシト雖モ其利益ト權
利トノ大ナルヲ以テ、南部ハ遂ニ奴隸說ヲ主張シタリ、而モ
其所有主中ニモ親切ノ者尠カラス、其說ニ曰ク阿弗利加蠻
民ハ米國ノ奴隸ト爲ルモ、反テ其營生ヲ改良シタリ、何トナ
レハ所有主ハ之ニ宗教道德ヲ教ヘ、衣食ヲ給スルヲ以テ奴
隸說ハ即チ奴隸ノ利益ナリト、然ト雖モ奴隸モ亦神子ニシ
テ其主ノ兄弟ナリ、何人ト雖モ人ヲ所有スルコト獸畜ノ如
ク、可キノ理ナシトシ、教會ニ於テモ、此議論ハ最モ北部ニ
盛ニシテ、結局南部ヲ以テ反逆ト爲シ、政府遂ニ勝利ヲ得テ
奴隸ヲ解放シタリ、當今歐米諸國ニ於テハ又異說ヲ唱フル
者ナシ、

基督教ハ下等人民ヲ親愛スルコト一ナラス、古人ノ說ニ由
レハ下民ハ上長ノ爲ニ生存スル者ノ如ク、大ニ上ヲ敬ヒ下
ヲ賤シム者ナリ、其上下ヲ對照スレハ法律モ亦甚々不公平
ナリ、下民ハ奴隸ニ非サルモ何國ニ於テモ十分ノ權利ナカ
リシナリ、漸ク近世ニ至テ其說一變シ政府ハ反テ人民ノ爲
ニ立ツ者ニシテ人民ヲ賤シム可キニ非ス、反テ其權利ヲ保
護ス可キ者ト爲レリ、
第六 基督教ノ成遂タル改革ハ、茲ニ一々詳論セスト雖モ、
尙甚々多シトス、古代ノ習慣タルヤ、弱者ヲ賤シミ之ヲ惡ミ、
之ヲ殺シ、或ハ之ヲ棄ルヲ常トス、基督教徒ハ基督ノ愛ト矜
恤トニ感シ、反テ弱者ヲ哀憐救助セサル可カラサル者ト爲

シタリ、故ニ病院、貧院、育兒院、學校ヲ開設シ、其他凡テ貧困艱
 難ノ者ヲ救助スルノ目的ヲ以テ設立シタル會社ハ西洋諸
 國ニ甚多シトス、方今日本ニ於テ設立シタル病院等ノ本原
 ヲ考フルニ其實皆基督教ヨリ出タル者ト見ヘタリ、何トナ
 レハ日本ノ病院ハ西洋ヲ學テ立タル者ニシテ、西洋ノ病院
 ハ本來前ニ述ル所ノ如クナレハナリ、且其矜恤ハ亦囚人ニ
 及ヘリ、昔時囚獄ハ甚々難澁ナリシモハワルノ功ニ由テ大
 ニ之ヲ改良シタル者多シ、前ニハ許多ノ囚徒一室ニ居リ、獄
 裡ハ殆ト罪惡ノ學校ト爲リタリト雖也、近世ニ至テハ諸人
 大ニ勉強シテ囚徒ノ罪ヲ救ハシコトニ盡力セリ、紐育ノ如
 キ大都會ニ於テハ勸モスレハ罪人ト爲ル可キ者多クシテ、

此等ノ住居スル所ノ陋巷隘衢ニハ巡查モ尙且之ニ接近ス
 ルヲ恐ル、ニ至ルト雖也、基督教ノ信男信女ハ會社ヲ結テ
 此等ノ陋巷ニ入り、學校ヲ立テ會堂ヲ開キ、罪人ノ子女ヲ拯
 ヒ其非道ヲ改メ、貧賤ノ子女モ亦教育セサル可カラサルヲ
 論シ、其論漸ク盛ニ行ハレ、至ル處皆學校ヲ開設シ、大ニ社會
 ヲ補益スル所アリタリ、又基督教ノ安息日ハ實ニ人間ノ利
 益ト爲リタリ、ブレト曰ク休ナケレハ徳ナシト宜ナル哉休
 日ナクシテ常ニ勞動スル者ハ遂ニ徳ヲ失フ可シ、希臘ニ於
 テライコルガスハ人民ノ休ノ爲ニ奴隸ヲ置キタリ、而モ基
 督教ハ奴隸ヲ置カスシテ、勞動人民一般ニ休息ヲ得ル者ト
 見ヘタリ、西洋ニ於テハ産業ノ爲ニ勞動スルコト甚シト雖

此亦此安息日アリ、若シ此安息日ナカリセハ西洋人ハ腦力
 體力共ニ盡キテ終ニハ社會ヲ滅ホスニ至ラントス、然ルヲ
 安息日ニ休息シテ道德ト宗教ノ事ヲ考フレハ腦體身體共
 ニ大惠ヲ受ケ、之ニ由テ後益々能ク勞動スルコトヲ得ヘシ、
 故ニ産業ニモ亦損失ナシトス、又近時ノ戰爭ヲ考フルニ亦
 大ニ基督教ノ勢力アリ、戰爭ハ固ヨリ基督教ニ適合スル者
 ニ非スト雖、終ニハ基督教ノ精神勝利ヲ得ルニ至レハ、邦國
 モ亦一個人ノ如ク、中裁ニ由テ爭論ヲ定メ、干戈ニ訴フルコ
 ト無キニ至ラント信スルナリ、基督教ノ言ニ從フコト未タ此
 至ラスト雖、基督教ノ勢力ハ今日ニ於テモ既ニ戰爭ノ中
 ニ及ヒタリ、古昔ノ戰爭ニ於テ勝者ハ其敵ヲ盡殺ニシ、民家

ヲ燒キ無辜ノ民ヲ奴ト爲シ、或ハ之ヲ殺戮シ、負傷者ヲ苦役
 シ婦女ヲ強姦シ、萬事萬物ヲ滅盡スルノ勢ナリ、今ヤ基督教
 國ハ大ニ戰爭ノ體面ヲ變シ、故ナクシテ人民ヲ傷害セス、産
 業ヲ消滅セス、兵隊ニ在ラサル者ヲ虐役セス、凡ソ是等ノ非
 理ナルコトハ悉ク之ヲ禁スルコトニ定メタリ、病院ニハ旗
 章ヲ掲ケテ敵兵ト雖、之ヲ害セシメサルニ至レリ、醫士及
 ヒ看病婦ハ彼我ノ別ナク同様ニ扶助セサル可カラサル者
 ト爲セリ、米國ノ内訌及ヒ普佛ノ戰爭ニ於テハ衆多ノ醫士
 看病人ト會社ヲ結ビ、彼我ノ病者ヲ救助センカ爲ニ戰場ニ
 出張シタリ、普佛戰爭ノ前ニ方テウヰルヘルム帝言ヘルコ
 トアリ、曰我ハ佛人ニ敵スルニ非ラス、佛兵ト戰ハンノミト、

北方諸國ニ在テ飲酒ハ大ニ身體財産ニ害アリ、之ニ就テ亦大ニ基督教ノ勢力アリ、何トナレハ教會ノ作用ニ由テ漸ク飲酒ノ量ヲ節減シタリ、米洲聯邦ノ一二邦ニ於テハ既ニ賣酒ヲ禁シテ全ク賣酒者ナキニ至レリ、是ニ由テ飲酒過多ナル者ハ漸ク跡ヲ絶ツカ如シ、或説ニ曰ク基督教ハ此ノ如ク、他人ヲ矜恤救助スルノ主意ナルカ故ニ、是ニ由テ人々勇氣ヲ失ヒ、後世豪傑ナキニ至ラント、實ニ昔時ノ如ク傲慢尊大氣隨ニシテ、道理ナクシテ忽チ怒リ、猛獸ノ如ク暴戦スル所ノ豪傑ハ漸ク盡ク可シト雖モ、社會ノ爲メ人民ノ爲メ基督教ノ爲メニハ何事モ恐ル、所ナク、身命ヲ犠牲ニ供シテ十分ノ勳功ヲ立ル所ノ豪傑ハ反

テ愈々多カラントス、後來猛士ノ暴勇ヲ減シテ貴重ノ大勇ヲ増ス可キナリ、方今傳道ニ由テフジオ、布哇、阿弗利加及ヒ米洲土蠻ノ如キ、其他諸國ノ野蠻人民ヲ教化シテ漸ク開明ニ導クハ普ク人ノ知ル所ナリ、是等ノ證據十分ナリト雖モ、茲ニ之ヲ引カス、前ニハ人肉ヲ食ヘル蠻民モ基督教ノ勢力ニ由テ、既ニ是ノ如キ惡俗ヲ改メ學校、會堂、病院ヲ建テ、新聞ヲ刊行シ善政ヲ布ク者多シ、又處ニ由テハダグルウカンモ亦傳道師ノ功業ヲ賞揚シタル所アリ、未タ嘗テ書籍ナキ國ニ於テモ、文字ヲ作り文法ヲ定メ、教育ヲ爲シタル者多シトス、又諸國ノ交易ヲ考フルニ、是ニ由テモ亦大ニ利益ヲ爲シタル者アリ、何ト

ナレハ前ニ未開ノ野蠻人民モ、漸ク開ケテ衣服ヲ着シ、家屋ヲ建テ、農業ヲ務メテ以テ交易ヲ爲シタル所多シトス、又半開化國ニ於テモ、印度ノ如ク學校病院ヲ開キテ、婦女ニモ教育ヲ及ホシタルカ如キ種々ノ好結果ヲ得ル者尠カラス、社會ハ基督教ニ由テ好結果ヲ得タルコト是ノ如ク、而シテ一個人ハ固ヨリ社會ノ本ナレハ信者ノ經驗ニ於テモ亦好結果多シトス、信者ハ已ヨリモ神ヲ愛シ已ノ如ク鄰ヲ愛スルノ勢アリ、加之ノミナラス放蕩人ノ心ニモ亦此信仰ノ入りタルヲ以テ自然ニ其惡望ヲ棄テ、之ニ代テ善、義、眞ニ從フニ至ル、一個人ノ心ヲ改ムルヲ甚々多シ、如何トナレハ罪人惡人ト雖モ、誠心ヲ以テ之ヲ信スレバ、忽チ善人トナルコトア

ルナリ、世界中他ニ是ノ如ク人心ヲ改ムルノ勢ナシ、

第七 前ニ論スル所ニ由リ、基督教ヲ考フレハ其改革ノ成績多端ナリ、其結果ニ由テ之ヲ見レハ、其根本モ亦善ナル者ニ非サル可カラス、是ノ如ク論シ來ルト雖モ、人間ノ進歩ハ只基督教ノミニニ惟因ルト云フニ非ス、又教會ハ常ニ正シクシテ皆基督ニ從フ者ナリト云フニ非ス、時ニ教會モ亦世間ニ縁ヲ結テ、惡事ノ侵入シタルコトアリ、又只教會ノ歴史ノミヲ見テ、之ヲ基督ノ眞教ノ歴史ナリト云フコト能ハス、懲戒ハ反テ基督ノ命令ニ背キタルコトアリ、或ハ教會ノ反對論者ニシテ反テ基督ノ精神ヲ顯ハシタル者アリ、然リト雖モ教會ニ於テモ世間ニ於テモ、基督教ノ勢力ハ不義ヲ攻メ

其功業ニ由テ漸ク惡事ヲ滅ホス者ナリ、而モ未タ全勝ヲ得タルニアラス、社會ハ尙種々ノ改革ヲ要スル者ナリ、基督敎漸ク盛ニシテ、基督ノ言漸ク勝ヲ占ムレハ、惡事モ亦隨テ漸ク盡クルノ形勢ナリ、基督降世以來一千八百年間改革ノ成蹟ヲ考フレハ、前ニ論シタルカ如ク多端ナリト雖モ、既ニ開化シタル國ニ於テモ、半開化國ニ於テモ、基督ノ勢力ハ漸ク増加シテ、遺留ノ不義ヲ潰滅センカ爲ニ活動スル者ナリ、既ニ第三章ニ論シタルカ如ク、他ニ救世主アルコトナク、社會ニ於テモ一個人ニ於テモ、耶穌基督ハ眞ノ救主ナルコト明瞭ナル可キナリ、

○第五章 神ニ就テ基督ノ教義

基督ハ神ヲ知ルコトニ就テモ亦世ノ光ナリ、神ニ就テ考ヲ爲スハ人間ノ最大要事タルハ疑ヲ容ル可キニ非ス、夫宗教ナル者ハ前ニ既ニ論シタルカ如ク人間ノ必用ニシテ、宗派ノ善惡ハ神ニ就テ考ニ由テ知ル可キナリ、凡ソ神ニ就テノ考ハ人ノ精神ノ自然ノ作用ヨリ出ル者ナルヲ以テ、人タル者ハ此考ヲ棄ルコトヲ得ス、彼無神論者ハ如何ニ無神論ヲ立ルモ、遂ニ此考ヲ亡ホスコト能ハス、時トシテハ殆ト此考ヲ亡ホシタルカ如キコトアルモ、忽チ又其考ヲ起シテ常ニ生存スル者ナリ、抑モ此考ハ人間萬事ニ就テ尤モ大事ナル考ナリ、道德ニ於テモ學問ニ於テモ皆大ニ關係スル所アリ、若シ此

考惡ナレハ忽チ社會ヲ墮落セシムルノ勢アリ、若シ善ナレハ大ニ社會ヲ進步セシムルノ勢アリ、太古ノ人ノ考ヲ察スルニ多クハ獨一ノ神ヲ信仰シタル者ノ如シト雖モ、其考未タ明確ナラサルヲ以テ漸ク衰へ、數多ノ岐路ニ迷ヒ、誤道ニ入りテ、獨一ノ活神ヲ信仰スルコトヲ失ヒタルナリ、今太古ノ事歴ヲ調査スルコト甚ク難ク、明ニ其考ヲ知ルコト能ハスト雖モ、恐ラクハ左ノ如キ者ナラント思ハレタリ、現今萬國人民ノ調査スル所ヲ考フルニ、其種類々ナリト雖モ、大概是ノ如シ、或ハ珍木奇石ヲ神トシ、其木石ニ殊別ナル靈能アリト思ヒ、之ヲ拜シ之ニ祈リタル者アリ、而モ時トシテ之ニ靈驗ナク反テ不幸ヲ來スカ如キコトアレハ、則

チ其木石ヲ罰シタルコトアリ、是尤モ人間ノ至愚ナル道ト見ヘタリ、又或ハ衆多ノ神ヲ拜シタル者アリ、即チ山川、天體、雷風、或ハ大木、珍寶ヲ神トシ、之ニ靈能アリトシ之ヲ拜シタル者アリ、是尤モ世間普通ノ道ナリ、然リト雖モ其根本ハ學者中ニ在テ、所謂ル萬神論、即チ天地萬物ヲ以テ皆神ト見做シ而シテ、其主位タル中央ノ大勢力ヲ特別ニ禮拜スルヲ可ナラントスル者ナリ、昔シ基督ノ時ニ方テ羅馬ノ形勢如何ヲ察スレハ、則チ道ノ漸ク衰フルヲ解スルコトヲ得ヘシ、羅馬ノ太古ノ教ハ德義ヲ拜ムコトナリ、即チ智、勇、節、義、等ヲ以テ神トシ之ヲ拜ミタリ、後世漸ク是等ノ思想ヲ失ヒ、之ニ代ルニ四方ヨリ入來レル種々雜多ノ無稽愚昧ナル道ヲ以テシ、不義醜

汚ニ流レ無道不徳ニ陥リタルヲ以テ羅馬政府ハ屢々之ヲ
 禁戒シタリ、而モ尙止ヲ得スシテ益々邪道ノ盛ナルニ至レ
 リ、遂ニ學者ハ多ク無神論者ト爲リ、或ハ無神論者ヲサレ
 モ神ノ眞理ハ果シテ何物タルヲ知ルコト能ハス、或ハ有神論
 者アリト雖モ神ハ遙ニ離レテ人ニ關係ナキ者ノ如ク思惟
 シタリ、故ニ學者ハ之ニ満足スルコト能ハス、甚タ不安心ニシ
 テ疑惑ナキコト能ハス、此疑惑ト共ニ學者ノ道德モ亦地ニ墮
 タリ、到底羅馬ニ於テ最モ大勢力アル者ハ只該撒ヲ拜ムノ
 道ノミト爲レリ、又古代ノ印度ニ於テモ亦是ノ如ク、波羅門
 教ハ漸ク醜體ヲ極メ不義ニ陥リ、愚昧ノ道トナルニ及テ、釋
 氏之ニ反對シ無神論ナル佛法ヲ立タリ、然リト雖モ人ハ天

然拜ム所ナキコト能ハサル者ナルヲ以テ、後漸ク佛ヲ拜ムコ
 ヲ始メ、又種々ノ拜ム可キ者ヲ造リタリ、又近世ノ支那ノ如
 キニ於テハ平民ハ種々ノ物ヲ拜ミ、道理ナク組織ナキ道ニ
 從フ者アリ、又學識アル者ハ之ヲ信セスト雖モ、己ノ考ヘタ
 ル天、又ハ上帝ナル者ハ人ヨリ離レテ關係ナキ者ナルカ故
 ニ、援助、拯救、安心ハ之ニ由テ得ルコト能ハス、又若シ疾病又ハ
 危険アルニ及テハ、無識者ノ頼ム所ノ神ヲ頼ムコトアリ、或ハ
 其喜フ所ニ非サルモ、之ヲ忍テ是天命ナリト云ヒ、他ニ爲ス
 可キ無シトシテ之ヲ甘受スルコトアリ、羅馬ニ於テハ時トシ
 テ學士モ亦大ニ祥瑞ヲ喜ヒ吉凶ノ前兆ヲ信セサルノ決心
 ニ止マルコト能ハス、哲學士ハ受造物ニ就テ神ヲ調査シ、是ヨ

リ殊勝ノ明説ヲ出スコ多カリシト雖也、確乎タル定論ハ一
 モ之アルコナシ、故ニ之ヲ以テ人民ヲ神ニ導クヲ能ハサリ
 シナリ、或ハ近世ノ理學者ノ説ヲ考フルニ基督ヲ信セサル
 者ノ中ニ進歩シタル者ヲ見ス或ハカムテノ事實論ノ如ク、
 神ヲ知ルヲ能ハスト云テ、女ヲ拜ムノ道ト爲リ、或ハスベン
 セルノ如ク天地萬物ノ大原因ヲ調査シテ僅ニ只完全ノ勢
 ヲ感シ、而シテ之ニ智アルヤ否ヤ、又之ニ道德アルヤ否ヤヲ
 知ラスト云フ、或ハミルノ説ノ如ク神ニハ智アリト雖也、完
 全ナル勢ナシト云フカ如キ者アリ、昔羅馬希臘ノ學士ニ比
 レテ一步モ進ミタル説ニ非ス、又若此等ノ説盛ニ行ハル、
 ニ至レハ、到底昔時ノ如ク必ス無學者中ニハ種々ノ愚昧不

義ニシテ醜汚ノ道ヲ生スルナラシ、今既ニ諸國ニ於テ是等
 ノ惡道ノ起ル可キ徵候アリ、
 只基督ニ由テ十分ニ神ヲ知ル可キノミ、是一事ニ於テモ亦
 基督ハ實ニ世ノ光ナリ、基督ヲ信スレハ後ニハ神ニ就テ不
 十分ナル所ナカル可シ、神ニ就テ基督ノ教ハ、既ニ猶太教ニ
 モ亦顯ハレタル所ナルハ勿論ナリト雖也、猶太教ハ狹隘ニ
 シテ唯猶太人ノミノ道ナリ、之ニ反シテ基督ハ神ニ就テ一
 定ノ説ヲ萬國ニ顯ハシ給ヘリ、羅馬帝國ノ煩累ナル所ニ此
 教ヲ入テ直ニ其皇帝該撒ノ道ヲ潰滅シ、其他無稽ニシテ醜
 體ナル愚道ヲ人民ノ精神外ニ放逐シ去リテ、以來今日ニ至
 ルマテ、歐洲ニ於テ神ト稱スル者ハ、即チ基督ノ所謂ル神ノ

意味ニ外ナラス、然レハ則チ歐洲ハ基督ニ由テ神ヲ知リタル
 事アリ、又今日ニ至ルマテ神ヲ知ラサル諸國ノ多累ナル所
 ニ此神ヲ入ルレハ、後ニハ必ス亦勝利ヲ得ルコト羅馬ニ於ケ
 ルカ如クナラン、神ニ就テ基督ノ説ク所ヲ考フルニ其諸教
 ニ勝レタルコト論ヲ竣タスノ明ナリ、基督ノ説ク所ヲ要スル
 ニ神ハ完全ナル「ペルソナ」ト見ヘタリ、天地萬物ハ神ニ非ス、
 又神ハ其精神ニ非ス、又只自然、若シクハ天ハ神ナリトモ云
 フ可カラス、神ハ即チ造物主タル「ペルソナ」ナリ、夫レ人モ亦
 「ペルソナ」ニシテ神ハ完全ナル「ペルソナ」ナリ、故ニ神ト人ト
 ハ互ニ交際アリ、祈ルコトアレハ則チ聽クコトアリ、我ニ要用ア
 レハ神ニ救助アリ、然リ而シテ神ハ「ペルソナ」ナリト云フト

雖也、之カ爲ニ神ハ種々ナリト云フト能ハス、人ハ神ノ像ニ
 造ラレタリト云フト雖也、又大ニ神ニ異ナル所アリ、偶像教
 ノ如ク山川ニモ種々ノ神アリト云フカ如キハ、決シテ解ス
 可カラサルコトニシテ、唯一ノ活神ナリト云フハ基督ノ教ノ
 中ニ尤モ大切ナル言ナリ、故ニ神ハ「ペルソナ」ナリト云フト
 雖也、偶像若シクハ画像ヲ以テ之ヲ拜ス可キニ非ス、然レハ
 則チ人ト神ノ異ナル所以ヲ知ル可シ、即チ人ハ限アル者ナ
 レ也、神ハ限ナキ者ナリ、神ハ天地萬物ニ異ナリ、神ハ完全ナ
 ル「ペルソナ」ナリト雖也、天地萬物ニ充滿シ、無限ノ能力ヲ以
 テ之ヲ造リ、又其大能ヲ以テ之ヲ保佑シ給フ者ナリ、是故ニ
 天地萬物ハ學問ニ由テ之ヲ考フルヲ以テ至善ノ稽古ト爲

ス、何トナレハ是即チ神業ヲ調査スル者ナレハナリ、若シ此
 天地萬物ハ唯一ニシテ生活セル眞ノ大原因ヨリ出ル者ト
 スルノ考アレハ、則チ初テ眞ノ學問アル可シ、若シ之ニ反シ
 テ神ハ種々ニシテ或ハ二アリト云ハ、眞ノ學問ヲモ立ツル
 丁能ハス、基督敎ニ於テ天地萬物ヲ制御スル所ノ勢ハ唯一
 ト見ヘタリ、又此能ハサル所ナキ神ハ無始無終ニシテ永遠
 ノ神ナリ、地質天文ノ學ニ於テ、天地ハ太初ヨリ今日ノ形勢
 ヲ爲スニ至ルマテ、幾許ノ時日ヲ要スル歟、其調査ハ甚々難
 カル可シト雖モ、其時日幾許ナルニ拘ラス神ハ其前ニアリ、
 時日ヲ以テ其存在ヲ量ル丁能ハス實ニ永遠無究ナリ、是ノ
 如ク神質ヲ考來レハ、神ハ此ク如キ「スル」ヲナシシテ、完全ナ

ル大能者ナリト云フハ甚々大切ナル教ナリ、然リト雖モ神
 ノ義ト愛トニ就テ基督ノ説ク所ノ教ハ之ヨリモ尙大切ナ
 リトス、是ニ於テ基督ハ實ニ世ノ光ナリ、初メ人タル者ハ其
 宗教ニ由テ大概我心ノ情態ヲ其所謂ル神ニ寫シタリ、故ニ
 其稱シテ神ト曰フ者ハ遂ニ人影ノ如キ者トナリ、因テ神ニ
 モ亦殘酷、不義、醜惡ノ心多キニ至リシナリ、然ルニ基督ノ教
 ニ由テ神ハ全能永遠ナル者ト云ヒ、又之ヲ聖、潔、眞、義ナル者
 ナリト云フハ一層大切ナル教ナリ、神ノ嚴重ナル誠命ハ單
 ニ神ノ質ヲ顯ハス者ナリ、其誠命ヨリモ神ハ尙一層義ニシ
 テ惡ニ對シテ火ノ如ク之ヲ亡ホス者ナリ、此正義ナル神ニ
 對シテ禮式ヲ設ケ、祈禱ヲ爲シ、壯觀ノ宮殿ヲ建テ贖罪ヲ行

フカ如キハ大事ニ非サル可シ、而シテ聖潔ナル心ハ反テ大
 事ナリトス、世間ノ聖人ト雖モ之ヲ神ニ比スレハ尙未タ聖
 ナル者ニ非ス、凡ソ人ニハ罪アルヲ以テ神ノ面ヲ見ルコト能
 ハス、其前ニ出ルコトナシ、然レハ則チ人タル者ハ高慢ニシテ
 己ノ義ヲ思ヒ、神ヲ廢スルコト能ハス、反テ神ノ完全ナル義ヲ
 考ヘ、己ノ穢タル心ヲ省ミテ神ヲ畏レ敬ヒ、之ヲ拜ム可キ者
 ナリ、是ニ由テ之ヲ觀レハ神ノ義、真、等ハ學者ノ企テ及フ可
 キ所ニ非ス、又只道德ノ一部分ニ非ス、自然ノ道理ノミニモ
 非ス、神ノ永遠不易ナル性質ト見ヘタリ、此教ハ諸ノ不義ニ
 對シテ大勢力アル教ナリ、耶和華ナル神ハ常ニ我ヲ見給フ
 ト云ヘリ、暗處ニ在テモ私室ニ在テモ中心ニ在テモ、汚穢ノ

醜望アレハ、則チ是在サ、ル所ナク知ラサ、所ナキ神ニ反
 對スル者ナリ、如何ナル道ニ因ルモ其「ベルツナ」ナル神ノ怒
 ヲ避ル所ナキハ明白ナリ、虚言、憎惡、嫉妬、放蕩ノ如キハ、畜ニ
 平常ノ過失ニ非ス、神ニ對シテ大逆謀反ト見ヘタリ、異教ノ
 社寺ノ周圍ニハ屢々妓樓等ノ在ルコトアリ、神ヲ拜スル者直
 ニ是等ノ所ニ往クモ恬トシテ願ミサル者多シ、基督教ニ於
 テ神ヲ拜スル者ハ畜ニ行爲ニ於テ聖カラサル可カラサル
 ノミナラス、凡ソ婦ヲ見テ色情ヲ起ス者ハ心ノ中既ニ姦淫
 シタルナリ、只心ノ潔キ者ハ神ヲ見ルコト得ヘケレハナリ、
 此教ハ則チ神學ノ基礎ニシテ、且道德ト善社會ノ基礎ト見
 ヘタリ、

是ノ如ク神ノ義ヲ教フルコトアレハ、人タル者ハ己ノ罪アル
 コトヲ感シテ、大ニ神ヲ畏レ、遂ニ之ヲ離レ之ヲ忘レテ之ト關
 係、交際ヲ好マサルニ至ル可シ、然レモ基督ノ教ニ由テ神ハ
 又愛アリ、神ノ能、智、義ノ無限ナルカ如ク、其愛ト矜恤トモ亦
 無限ナリ、他教ニ於テハ神ヲ考フレハ、即チ上帝ナリト云フ
 者多シト雖モ、神ハ萬物ノ父ナリト云フハ只基督教ノミナ
 リ、勿論他ニモ亦神ヲ稱シテ父ナリト云ヒタル者ナキニ非
 スト雖モ、其中ニ快樂ト矜恤ト云フ意味ヲ含マス、只其權威
 ト至尊ナルヲ指シテ云ヒ、或ハ造物主ナルコトヲ指シテ云ヒ
 タルナリ、基督教ニ於テハ則チ否ラス、神ハ萬物ヲ慈愛シ給
 フノ性質アリ、他教ニ於テハ萬物ハ大器械ノ如クニシテ、止

ヲ得ス天命自然ニ從フ者ト見做スガ如シ、基督教ニ於テハ
 草木禽獸ニ至ルマテ一切ノ諸物ヲ救ヒ助ケ給フ者ナリ、爾
 曹天空ノ鳥ヲ見ヨ、稼クコトナク穡ルコトナセズ、倉ニ蓄フルコ
 ナシ、然ルニ爾曹ノ天ノ父ハ之ヲ養ヒ給ヘリ、爾曹之ヨリモ
 大ニ勝ル、者ナラスヤ、爾曹ノ中誰カ能ク思ヒ煩ヒテ其生
 命ヲ寸陰モ延得ンヤ、又何故ニ衣ノコトヲ思ヒ煩フヤ、野ノ百
 合花ハ如何ニシテ長ツカヲ思ヘ、勞メス紡カサルナリ、我爾
 曹ニ告ン所羅門ノ榮華ノ極ノ時タニモ、其裝此花ノ一ニ及
 サリキ、神ハ今日野ニ在テ明日墟ニ投入ラル、草ヲモ如此
 裝ハセ給ヘハ況テ爾曹ヲヤ、嗚呼信仰薄キ者ヨ、人タル者己
 ノ經驗ト智慧トニ由テ之ヲ探索スルコト能ハス、全ク基督ノ

示現ニ由ルナリ、此天地萬物ヲ造リ、之ヲ守リ給フ所ノ皇帝ナル神ニシテ、又萬物ヲ慈愛シ給フトハ實ニ驚ク可キ教ナリ、然レモ又神ノ義ヲ考フレハ、此教ハ更ニ又驚ク可キ者アリ、即チ神ハ罪ト惡ニ對シテ火ノ如ク、其怒ハ最モ畏ル可キ者ナリ、而モ又罪アル人ヲ愛シ給ヒテ我儕ノ心ノ中ニ罪ヲ悔改ノ、少シク之ヲ棄ルノ心アレハ直ニ神ノ赦免ヲ受テ、之ニ交際スルヲ得ルト云フ教ハ世間又無キ所ナリ、加之ナラス基督敎ニ於テ神ハ只此ノ如ク人ヲ赦ス、ノミナラス、又罪人ヲ救ハンカ爲ニ自カラ其身ヲ苦シメ、再ヒ人ニ交際アル道ヲ開キ給フト云フ教ナリ、此事ニ就テ世間異説ナキニ非スト雖モ、基督敎中ニ於テ總テ信者ハ皆之ヲ信仰ス、此信仰

ハ實ニ基督敎ノ本原ト見ヘタリ、基督曰ク我爾曹ニ告ン、爾曹ノ敵ヲ愛シ、爾曹ヲ詛フ者ヲ祝シ、爾曹ヲ憎ム者ヲ善視シ、虐遇追害ル者ノ爲ニ祈禱セヨ、如此スルハ天ニ在ス爾曹ノ父ノ子トナラン爲ナリ、夫天ノ父ハ其日ヲ善者ニモ惡者ニモ照シ、雨ヲ義者ニモ義カラサル者ニモ降ラセ給ヘリ、爾曹已ヲ愛スル者ヲ愛スルハ何ノ報賞カ有ラン、稅吏モ然セサラン乎、安否ヲ兄弟ニノミ問フハ人ヨリ何ノ過レタル事カアラン、稅吏モ然セサラン乎、是故ニ天ニ在ス爾曹ノ父ノ完全カ如ク爾曹モ完全ス可シト是最モ勝レタル事ナリ、神ハ是ノ如ク其敵ヲ愛シテ救ハンカ爲ニ自カラ苦ヲ受タルカ故ニ、我儕ハ罪人ニシテ其大ナル矜恤ヲ受ケ、敵ヲモ亦同シ

ク愛セサル可カラス人タル者ハ固ヨリ神ノ愛ヲ知レ而罪
 ヲ棄ス尙惡ニ從フアレハ神ノ怒ヲ蒙ルハ當然ナリ、而モ
 若シ只神ニ歸リ善ニ歸ラント欲スルノ心アレハ、必ス神助
 ヲ受ク可キ者ナリ、且ツ基督教ニ由レハ信者ハ常ニ神ニ交
 親アル者ナリ、孤兒ノ如ク困苦ヲ告ル所ナキ者ニ非ス、神ヲ
 離ル可カラス、又只己ノ能力、智慧ヲ以テ神ヲ求ム可キ者ニ
 非ス、聖靈神ヨリ出テ十分ニ神ト父子ノ關係ヲ結ヒ、神ト偕
 ニ在ルナリ、
 神ニ就テ基督ノ教ヲ考フレハ、眞ニ人ニ適當ナル教ト見ヘ
 タリ、諸人ノ證言ニ由レハ、人タル者ハ實ニ罪アルヲ疑フ容
 ル可キニ非ス、前ニ既ニ論シタルカ如ク、諸説區々ナリト雖

此、之ヲ歴史ニ視ルモ學者ノ證言ニ聞クモ、又當時ノ社會ノ
 情態ニ徴スルモ、惡行多キヲ知ル可キナリ、又細カニ世間ノ
 諸教ヲ考フルニ、此有罪ナル人類ハ必ス赦免ヲ受ケント欲
 スル者多シトス、且ツ己ノ罪ヲ知り、又義ヲラント欲スレハ、
 之カ爲ニ必ス完全ナル模範ナカル可カラス、神ニ就テ基督
 ノ言ヒ給フ所ハ實ニ適當ナリ、夫神ノ心ハ義ニシテ且ツ眞
 ナリ、是レ人ノ本心ニ徴證シテ適當ナル教ナリ、神ハ義ノ本
 ニシテ義ノ主意ナリ、天地萬物ノ中ニ就テ義ト眞トハ最モ大
 事ナリトス、前ニ述ルカ如ク罪ト謊ト惡トハ神ノ憎ミ給フ
 所ニシテ、只義ト眞トハ其愛シ給フ所ナリ、神ノ徳ヲ大事ト
 スルト是ノ如シ、人タル者我惡ヲ思ヘハ則チ神ニ交際ナク、

神意ニ適フヲ能ハスト自認スルニ至ラン、然リト雖モ基督ノ教ニ由レハ神ハ矜恤ト愛アルカ故ニ、我儕ハ少シク罪ヲ改メ神ニ歸ルノ望アレハ、則チ罪ノ赦ヲ受テ復神ト父子ノ交親ヲ結フコアル可シ、神ノ矜恤ヲ受ルコト是ノ如ク其大ナルヲ以テ、吾人ノ中心ニモ亦神ヲ愛スルノ心ヲ起スナリ、凡ソ人タル者ハ概チ道德ヲ知ルト雖モ、能ク之ヲ修メ得ル者尠シ、而モ神ヲ愛スルノ心ニ由テ之ヲ得ルニ十分ナル望ヲ起シ心ヲ發スナリ、何トナレハ神ヲ愛スル者ハ小兒ノ如ク神意ニ適フ事ヲ爲サント欲スル者ナリ、然レハ則チ不孝ノ行爲、即チ虚偽、不義ヲ爲スヲ欲セサル者ナリ、是自然ニ道德ノ本タル者ナリ、罪ヲ恐レテ之ヲ爲サハル可カラストスル

者ニ非ス、神ノ矜恤ヲ受タルカ故ニ熱心以テ神意ニ合フコトヲ爲サント欲スル者ナリ、
 又人ノ艱難ト困苦ヲ考フルモ亦基督ノ教ハ適當ノ教ナリ、天地萬物一モ其政治ノ外ニ在ル者ナシ、吾人ニ辛苦アリ艱難アリ疾病アリ貧困アリ死滅アリト雖モ、皆無理ニ出タル者ニ非ス、仇敵ヨリ出タル者ニ非ス、神ハ父母ヨリモ矜恤深重ナリト雖モ、反テ此等ノ事アリ、而モ至善ナル神意ト矜恤ヨリ出タル者ナリ、夫父母ノ子女ヲ教育スルヤ、之ニ爲シ難キノ學藝ヲ修メシメ、又無益ノ遊具ヲ弄フヲ許サ、ルカ如シ、神ノ大能ト仁愛トヲ信仰スレハ、後又恐ル可キ所ナシ、神ニ就テ基督ノ教フル所ハ、是ニ由テ遂ニ徳ト眞トハ勝利

ヲ得ルノ考ナリ、人タル者ハ決シテ現今ノ如ク困難ナル情
 況ニ永續ス可キ者ニ非ス、眞ト義トハ神ノ質ナルカ故ニ、僞
 ト惡ヨリモ一層勢力アル者ナリ、社會進步スレハ則チ神恩
 ニ由テ、天國即神國ヲ世間ニ立ツルコアルナリ、故ニ吾人ハ
 落膽ス可キニ非ス、假令未タ結果ヲ見ルコト能ハサルモ、神ヲ
 信シテ終身努力ス可キ者ナリ、
 吾人ハ此教ニ由テ十分ノ勇氣ヲ得ルハ論ヲ竣タス、凡ソ神
 ヲ畏ル、者ハ人ハ畏ル、コトナシトハ、殆ト動カス可カラサ
 ル諺トナレル者ノ如シ、信仰愈々篤ケレハ勇氣愈々盛ナル
 可シ、天災ヲ畏ル可キノ理ナシ、是亦神言ヲ守ル可キ事ナリ、
 死ヲ畏ル、ノ理ナシ、是ニ由テ神ノ所在ニ往キ神ト直接ノ

交際アル可キナリ、我ニハ只義ト眞アレハ諸敵ヲ畏ル、ノ
 理ナシ、神ハ諸惡ヨリモ強大ナル者ナルカ故ナリ、此勇ハ古
 昔ノ英雄豪傑ノ如ク高慢ナル暴勇ニ非ス、即チ己ノ智力ヲ
 恃ムノ勇ニ非ス、反テ己ヲ謙遜シ神ノ義ト愛ト能トヲ十分
 ニ信仰スルノ勇氣ナリ、然レハ則チ實ニ大勝ヲ得ルコト多シ
 ト雖モ、平和ノ勇氣ナリ、道德ノ勇氣ナリ、
 又此教ニ由テ人ノ本ト目的ト終トヲ知レハ、則チ是ニ由テ
 人ノ價值ヲ感スルコト深カル可シ、夫人ハ人タルカ故ニ實ニ
 貴キ者ナリ、人ノ有識無識トヲ問ハズ、貴賤貧富ヲ論セス、同
 シク神ノ子女ニシテ共ニ兄弟姉妹ナリ、其結果ノ如キハ既
 ニ之ヲ前ニ論シタレハ、茲ニ再ヒ之ヲ論スルヲ要セス、

此教ハ學問上ニ於テモ亦大事トスル所ナリ、無價無稽ノ者
ハ天地間ニ一モ之アルコトナシ、凡ソ萬物ハ皆神ノ造リ給フ
所ニシテ、神智ヲ顯ハス者ナルヲ以テ、天地萬物ハ悉ク其理
ヲ究メサル可カラス、故ニ此教ハ大ニ學問ヲ進歩セサル可
カラサル者ナリ、是ヲ以テ學者モ亦基督ヲ信仰シ、其教ニ從
フ者多シトス、

古來時ニ由リ處ニ由テハ、基督ノ教義ヲ知悉セサル者アリ、
或ハ其半ヲ知り、或ハ其幾分ヲ見タル者アリ、例ヘハ只神ノ
權利ト能力トヲ論シテ父ト爲サス、無理非道ナル帝王ノ如
ク教ヘタル者アリ、或ハ只其愛ト恤トヲ論シテ其義ヲ忘レ、
人ノ行爲ハ如何ナルニ妨ナカラントシタル大過ヲ生シタ

ル者アリ、或ハ神ヲ以テ只人ニ似タル者ト爲シテ其無限ノ
質ヲ忘レ、天地萬物トハ全ク懸隔シタル者ト爲スノ議論ア
リ、或ハ人ニ似タルコトヲ忘レテ、只其無限ナルコトヲ論シ、
結局神ハ智ナク自知ナク矜恤ナク義ナキ者ト爲シタル者
アリ、或ハ神ハ造物主ナリト云フヲ忘レテ學問ト宗教トノ
反對ヲ生シタル者アリ、然リト雖モ是等ノ過失ハ基督ノ教
ニ非スシテ、只其一部分ノミヲ見タルヨリ起レル過失ナリ、
只是等ノ諸部ヲ合スレハ則チ初テ完全ナル教タル可キナ
リ、然レハ則チ神ニ就テノ、教ヲ誤ル者ハ他教ヲ以テ之ヲ訂
正スルノ術ナシ、只、基督ニ歸リ基督ノ神ニ就テ教フル所ヲ
十分ニ調査スルノ外ナレトス、

レナン氏曰ク、サクラチースハ哲學ノ基本ヲ立タルカ如ク、
 耶穌ハ萬世ノ爲ニ宗教ノ基本ヲ立タリト、此言實ニ理アリ
 ト雖此二者ノ行爲ニ於テ至大ノ差違アリトス、サクラチ
 ースノ立ル所ノ基本ニ由リ、諸家之ニ工夫ヲ加ヘ高大ナル
 樓閣ヲ築キ、サクラチースヨリモ尙進歩シタル人多シトス、
 サクラチースノ教ハ只其基本ノミ、經始ノミ、神ニ就テ基督
 ノ教ハ古今未タ嘗テ之ニ優ル者アラサルナリ、又之ヨリモ
 完全ナル教ヲ立ル者ナシ、若シ神ニ就テ十分ナル教ヲ立テ
 ント欲スル者ハ必ス只基督ノ教ヲ研究シテ之ヲ説明ス可
 キノミ、何トナレハ基督ノ教ハ既ニ完全ナル者ナレハナリ、

○第六章 基督完全無缺ノ質

前章既ニ論スル所ニ由リ、今將ニ基督ノ勢力ヲ顯明セント
 ス、其勢力ハ社會ノ進歩ニ於テ無上ノ作用ヲ爲シ、之ヲ更乘
 ニ徴スレハ恆久ニシテ益々増加スル者ト見ヘタリ、又其神
 ニ就テ教フル所ハ正ニ人間ノ必用ニ適當ナル教ナリ、是等
 ノ論點ヲ十分ニ顯彰セント欲スレハ、小冊子ノ能ク盡ス所
 ニ非サルハ論ヲ竣タス、故ニ本章ニ於テハ僅ニ其順序ト主
 意トヲ畧述セント欲スルナリ、今之ヲ論スルニ方テ先ツ其
 勢力ト教義トノ本原ヲ調査セサル可カラス、
 第一 其本原トハ他ニ非ラス唯基督ノミ、若シ基督ノ質ヲ
 知レハ、則チ其教義ハ即チ神教タルヲ知ル可ク、又基督ハ果

シテ何處ヨリ來レルヲ知ル可シ、夫基督ハ猶太國加利利ノ
 那撒列ニ生レ、家貧シクシテ第三等ニ下レル人民ナリ、約三
 十年間其國ニ居テ學校ニ入ラス、一己ノ手ニ頼テ生計ヲ爲
 ス者ナリ、當時猶太ノ形勢ヲ考フレハ、羅馬ノ屬國ニシテ特
 ニ本國ノ疾視スル所タリ、而モ猶太ノ人心尙狹隘ニシテ外
 國交際ヲ好マス、自カラ思ヘラク吾人ハ神民ナリ外國人ハ
 皆神敵ニシテ又我敵ナリト、此思想ニ由リ外交ヲ絶タント
 欲シ、猶太ノ學士及ヒ祭司ハ共ニ謀テ彼有名ナル大墻郭ヲ
 築キタリ、是ヨリ他國人ト共ニ食スルヲ能ハス、他國人ヲ内
 ニ入ル、ヲ能ハス、全ク外交ヲ絶タサル可カラサルニ至リ、
 遂ニ他國人ト風俗ヲ異ニシ、羅馬ニ住ムモ雅異ニ住ムモ、何

國ニ在テモ全ク別種ナル者ト爲リ、其後一千八百年間、今日
 ニ至ルマテ萬國ニ住居スルト雖モ、外人ト婚ヲ交フルヲ無
 キカ故ニ、其面ヲ一見シテ其猶太人タルヲ知ル可シ、或ハ處
 ニ由リ猶太人モ亦神ニ就テ異邦人ヲ教フルヲアリト雖モ、
 其教ヲ十分ニ信仰シテ全ク猶太人トナルコト非サレハ之ヲ
 十分ニ教ヘサル者トス、實ニ無類ノ攘鎖論者ト謂ツ可キナ
 リ、其信スル所ノ舊約全書中ニハ神ニ就テ殊勝ナル教アリ
 ト雖モ、猶太人ハ漸ク狹隘ノ說ヲ立テ、造物者タル神ハ只其
 一國ノ皇帝ナリト思惟シ、其恩ニ由テ猶太人ハ結局勝利ヲ
 得テ悉ク諸國ヲ併吞スルコトアラント想像シ、後ニ神ヨリ
 出ル所ノ基督ナル者アリテ、該撒帝ノ如キ者トナリ、猶太ノ

敵ヲ亡ホシ盡シ、之ニ代テ一大帝國ヲ立ツルコアラント妄
 像シタル者ナリ、又猶太國ノ那撒列ノ形勢ヲ考フレハ、甚々
 名聞惡シキ地ニシテ邊陲ノ寒村ナリ、且他ノ良地方、善社會ニ
 交際妙キ所ナリ、基督ハ此地ニ生レタル木工ノ子ニシテ、又
 此地ニ生レタル者ナリ、而シテ基督ノ質ヲ知ラント欲スレ
 ハ、必ス新約全書ニ就キ馬太、馬可、路加、約翰ノ四福音傳ヲ讀
 マサル可カラス、此四傳ハ共ニ新約全書中ニ在リト雖モ、固
 ヲリ一書ニ非ス、各々別々ニ作リタル者ナリ、而モ其書ヲ通
 讀スルニ、此四書ノ記者四人ハ皆基督ノ質ヲ明言シタル者
 ニ非ス、只基督ノ言行ヲ顯彰シタル者ナリ、尤モ基督ノ矜恤、
 愛、義ヲ顯彰スレモ、而モ之ニ由テ基督ヲ稱譽シタルコトナシ、

又基督ハ其敵ニ殺サル、時ニ臨テ、其殺害者ニ對シテ怒リ惡
 ミ、又ハ之ヲ誹リタルコトナシ、之ヲ要スルニ四傳ハ平穩ニ
 基督ノ言行ヲ顯彰シタルノミ、故ニ基督ノ質ヲ知ラント欲
 スル者ハ、必ス其言行ヲ見サル可カラス、
 基督ノ朋友ハ皆田舎人ニシテ、其尤モナル高弟ハ無學ノ漁
 夫ナリ、三十年間遊蕩ノ田舎ニ入テ更ニ聞ユル所ナク、尋常
 ノ工人ト同等ノ生活ヲ爲シタル者ナリ、歳三十ニシテ諸人
 ニ教ヘ、衆人ノ前ニ出テ三年間ノ教誨ヲ爲シ、萬民ノ救助ヲ
 爲シ、又奇蹟ヲ行ヒタリ、而シテ此業ヲ補翼スルノ方畧ナシ、
 金力ナク權利ナク官位ナク貴友ナク、反テ高貴ニシテ有識
 ナル者ハ其教ヲ嫌ヒ、三年之ヲ虐待シ、遂ニ基督ヲ受ケス、繼

馬ノ裁判官ノ前ニ引出シ、偽證ノ訴ニ由テ終ニ之ヲ十字架ニ釘ケタリ、然リト雖、僅々三年間ニ顯ハレタル質ハ今日ニ至ルマテ衆人ヲ制スル者ナリ、避遠ノ田舎タル那撒列ノ平民ヲ画キタル繪画ハ世間公衆ノ稱譽ヲ博シ、歐洲諸國ノ尤壯ナル建築ハ即チ其十字架ニ例ヒテ模造スル所ナリ、當今最モ文明開化ナル諸國ハ皆之ヲ拜スル者ナリ、又不信者ト雖、大ニ其完全ナル質ヲ賞譽ス、蓋シ人性ノ完全ナルニ惟因ルナリ、近世ノ學問ニ由レハ凡ソ原因ナキ者ハ結果ナシ、且其結果ヲ探究セント欲スレハ環象ヲ調査セサル可カラス、夫基督ハ加利利ノ那撒列ヨリ出テタリ、其環象ニ由リ何ヲ以テ人性ノ完全ナルヲ得タル歟、環象及ヒ歴史ニ出タ

ル原因ハ未ダ以テ之ヲ得ルニ足ラス、是等ノ者ヨリ人性ノ極ヲ出ス可キニ非ス、別ニ原因アルニ非サレハ基督ノ質ヲ知ル可キニ非ス、
 第二 主耶蘇基督ハ人性ノ極ト云フハ、遠隔ナル田舎ノ屬國ニ生レタリト雖トモ、萬國萬世ニ於テ開化不開化ノ各度ノ模範タルカ如ク、シンメテツク人種ヨリ出テ亞細亞ニ生レタレ、歐洲ノアリアン人種ノ禮拜スル所ト爲ル者ナリ、且基督ハ何國ノ人民ヨリ之ヲ視ルモ外國人ノ如クナラス、萬國ニ於テ其内國人タル者ノ如シ、又基督ノ完全ナル事ニ就テハ諸國ヨリ出ル所ノ證據アリ、第七章ヲ參觀ス可シ
 野蠻人民ニ於テハ布哇フジ阿非理加ギリオンランドノ如

キ皆基督ノ教ニ由テ改心シ、後ニハ同心協力ノ基督ヲ愛スル者ト爲レリ、又開化國民ニ於テハ哲學、物理學、ト云ヒ文明開化ト云フモ諸人ヲ導キテ基督ヲ離レシムル者ニ非ス、反テラスソウ、ミル、レナン、ノ如キ不信者ト雖モ基督ノ完全ナルコトハ能ク之ヲ言顯ハシタリ、是ノ如キコトニ就テ基督ハ世間ノ聖人ニ比スレハ其異ナルコト分明ナリ、今其一例ヲ舉レハ、孔子ハ世間ノ聖人中ニ就テ尤モ勢力アル者ノ如シ、而モ孔子ハ支那ノ模範タルニ過キス、其永年ニ保續シ、弘ク世ニ行ハル、ノ勢力ハ只一事ヨリ出ル者ナリ、即チ通常ノ支那人モ其志望ト目的トハ孔子ニ顯ハレタリト思想スルニ在リ、孔子モ亦他ノ支那人ノ如ク太古ノ事跡ノミヲ尊ブ者ナ

リ、特ニ靈ニ就テハ最小ナル者ヲ以テ大事ト爲シ、固陋偏狹ノ見識タルヲ免カレス、又思想外ノ事ニ就テハ全ク凡常ノ支那人ニ異ナラス、而シテ支那國若シ永ク今日ノ情態ニ止ラハ孔子ノ勢力モ亦永續ス可シト雖モ、而モ是ノ如キ者ハ萬國人民ニ勢力アル可キ者ニ非ス、世界中若シ支那ノ如クナラハ孔子ノ勢力モ亦盛ナル可シ、否ラサレハ則チ支那帝國ノ外ニ勢力ヲ取ルコト能ハサル可シ、孔子ハ日本ニ於テモ頗ニ由テ之ヲ觀レハ又特別ナル理由アル者ナリ、今時ノ形勢ヲ察スレハ又永續ス可キ者ニ非ス、又深淵ナル者ニモ非サカシ、支那ト雖モ後世進歩セハ孔子ノ勢力ハ之カ爲ニ墮落ス可シ、支那モ亦若シ日本ノ例ニ倣ヒ近世ノ學問ヲ爲シ、文明開化ノ域ニ進ムニ至ラハ、今日マテ不變不易ノ風習ト共ニ

漸ク微弱ナル可シ、是ニ於テ孔子ハ大ニ基督ト異ナル所アル者ナリ、基督ハ狹隘ナル國土ニ受ラレタル者ニ非ス、一千八百年間何等ノ變遷アルモ進化アルモ常ニ歐洲全土ノ模範タリ、其間政治、學問、文學、國語、習慣、人種ノ如キハ、既ニ幾回ノ變遷アルモ、主耶蘇基督ノ勢力ハ連綿陸續シテ益々廣大ナル者ナリ、

又一例ヲ舉ケンニサクラチースハ概シテ哲學者ノ模範タリ、今世ニ傳フル所ノ主義ハ果シテサクラチースノ説ナル乎、或ハ其徒ブレートノ説ナル乎、今之ヲ辨別シ難シト雖モ、之ヲ併セテ考フレハ實ニ哲學ノ基本ナリ、且サクラチースモ亦僞訴ノ爲ニ殺サレタル者ナリ、然モサクラチースハ哲

學者ノ模範ト謂フ可クシテ、萬民ノ模範ト謂フ可ガラス、其教ハ只學者ト善人ト爲ノミニシテ、其思想ハ常人ニ適當ス可キノ證據ナシ、但特別ナル者ノ爲ニ勢力アリ、今日ニ於テモ僅々數人ノ爲ニ勢力アル可シ、エムルツン氏言ヘルヲアリ、曰ク能クブレートヲ知り得ル者ハ每世約十人ナル可シト、只其名ヲ知ル者多シト雖モ、歐洲ニ在テモ衆人ハ其名聞ヲモ知ラサル者多シトス、是ニ於テサクラチースモ亦基督ト大ニ異ナル者ナリ、基督ノ勢力ハ學者ノ爲ニモ實ニサクラチースニ優リ、而シテ無學者モ亦喜テ其教ヲ受クルナリ、學者ハサクラチースノ教ヲ受ルト雖モ誰カ之ヲ愛シテ、之カ爲ニ死スル者アラン乎、基督ハ其教ノミナラス其質ノ完

全ナルカ故ニ學者無學者ヲ論セス、衆人ノ精神心意本心ハ
 基督ニ對ヒ、其名ノ爲ニハ、虐害、貧困、苦勞、ヲ悦ヒ忍テ、囚獄ニ
 繫カレ死罪ヲ受ルニ至ルマテ苦辛スル者多シ、
 第三 基督ハ人性ノ完全ナル者ニシテ、萬民ノ模範ナリト
 ハ其質ノ廣大ナルヲ謂フナリ、凡ソ宗教上ノ豪傑ナル者ハ、
 其熱心ニ信スル所ハ漸ク狭小ニシテ、僅ニ一事ヲ視ルニ明
 カナルカ故ニ、他ヲ忘レテ之ヲ知ラサルカ如シ、是ヲ以テ只
 其一質ヲ善クシ之ヲ長シテ、他ノ質ハ必ス之ヲ微弱ナラシ
 ム可シ、譬ヘハ一種ノ強力ノ如シ、五體ノ一二肢ヲ能ク習練
 シテ、稀世ノ強力ヲ得タリト雖モ、全身ニ於テハ眞ニ健強ナ
 ルヤ否ヤヲ知ル可カラス、或ハ他肢ニ病患アルモ亦未タ知

ル可カラス、宗教中ニ於テ其例ヲ舉クレバ、サイモン、ストラ
 イテース注ノ如キシント、フンシスノ如キトトマス、エイ、
 ケンピスノ如キ是ナリ、此世界中ヲ考フレハ釋迦ハ實ニ其
 著明ナル者ナリ、何人ト雖モ其傳記ヲ讀ム者ハ皆感服スヘ
 キ者ナリ、釋迦ハ人間ノ苦界ヲ恤レミ、之ヲ救ハンカ爲ニ、其
 位ヲ棄テ其財産ヲ抛テ永ク苦業シ、隱者ト爲リタルハ實ニ
 心切ノ志ナリ、故ニ苦辛アル者ハ其矜恤ニ感シテ、之ニ從フ
 ノ心ヲ發シタル可シ、此廣大ナル矜恤ハ即チ佛法ノ勢力ア
 ル所以ノ本原ナリ、然リト雖モ釋迦ハ此事ニ就テ熱心アル
 ヲ以テ、只管人間ノ苦界ヲ思フニ偏シタル者也、實ニ世間ハ
 苦勞患難多シト雖モ、快樂モ亦尠カラズ、辛苦アルカ爲ニ快

樂ヲ厭フ可キノ理由ナシ、人間社會ノ交際ヲ離レテ隱者ト爲ルハ世ヲ救フノ道ニ非ス、反テ人間社會ノ中ニ居住シ、其善事ニ感シ惡事ヲ改メンカ爲ニ十分ニ勤勞ス可キ者也、是ニ於テ基督ハ釋迦ト全ク異ナル者ナリ、基督モ亦人間ノ苦難ヲ見テ之ヲ恤レミ、之ヲ助ケ給フノ聖慮アリ、諸人ノ爲ニ十字架ノ死刑ヲモ甘受シ給ヘリ、而モ之カ爲ニ社會ヲ離レ、世間ヲ厭ヒ、交際ヲ禁スルコナシ、釋迦ノ如ク快樂喜悅ヲモ亦惡ナリト云フ者ニ非ス、未タ嘗テ社會ヲ離レ隱者ト爲ルヲ教ヘス、反テ十分ニ人生ノ交際アリ、饗應ヲ受タルコアリ、何處ニ於テモ正義ノ快樂ヲ禁シタルコナシ、只人類ヲ助ケテ世間ノ惡ヨリ救ヒ出スノ教旨ナリ、基督ハ門徒ノ爲ニ神

ニ祈ル所アリ、曰ク我爾ニ彼等ヲ世ヨリ取り給ヘト祈ラズ、惟彼等ヲ守テ惡ニ陥ラス勿レト祈ルト、是ヲ以テ其徒弟タル者ハ隱者ト爲リ祭司ト爲ルノ理ナク、各其處ニ安シテ十分ニ神榮ヲ顯彰スルコヲ得ルノ教ナリ、故ニ世ヲ遁レズ大勇ヲ以テ人間社會ニ勞動ス可キ者ナリ、是ニ於テ平佛者ハ至ル處ニ寺院ヲ建タリト雖、人生ノ爲ニ有益ナル病院學校等ノ建設ハ絶テ見ザル所ナリ、基督ハ宗教ニ熱心ナリシガ故ニ、人或ハ其教ノ主意ヲ解セザル者アリ、隱者等ヲ以テ尤潔白ナル者ト誤認シタル者ニ於テハ、恰モ佛法ノ如シト雖、是ノ如キ者ハ眞ニ基督教ヲ解シタル者ニ非ズ、只一方ニ偏僻シタル者ナリ、佛法ハ若シ全ク釋迦ノ教ニ從ヒ、盛ニ行ハルハ、コアラバ、之カ爲ニ社會ハ全ク消滅セザルヲ得ザル

者ナリ、基督教ハ若シ盛ニ行ハルレバ、此社會ハ全然幸福ナル者ト爲ル可キ者ノ如シキニシテ、
 基督教ハ十分ニ未來ノ事ヲ教ヘ給ヘリ、未來ノ事ハ他ニ於テハ十分ニ之ヲ調査スルコト能ハズト雖モ、基督教ニ於テハ甚ク明瞭ナル者ナリ、其教義ト現今吾人ノ生命トノ關係ヲ明示シ、其大切ナル事ヲ熱心ニ勸奨シ給ヘリ、然モ之ガ爲ニ現世ヲ輕視スルコトナク、反テ來世ノ大切ナルガ爲ニ現世モ亦大切ナル者ノ如シ、現世ハ來世ノ本ニシテ、來世ハ只現世ノ繼續ナルノミ、故ニ今日ノ義務今日ノ事業ハ尤大切ノ者ト見ヘタリ、
 又宗教ト道德トニ就テハ更ニ偏頗心ナキ者ナリ、神ヲ愛スルハ人タル者ノ最大義務ナリト屢々説キ給ヘリ、前ニ既ニ

論シタルガ如ク、他ノ宗教ニ勝レテ神事ヲ細密ニ顯ハシ給ヘリ、而モ神ヲ愛スレバ人ヲ憎ムモ可ナラン、人ヲ愛セザルモ可ナラント云フガ如キ教ニ非ズ、神ヲ愛スル者ハ亦必ズ己ノ如ク他ヲ愛ス可シト云フ教ナリ、或宗教ニ於テハ神ヲ禮拜スル事ト、人間行爲ノ正義トハ至ク離レテ別事ナル者アリト雖モ、基督教ニ於テハ則チ然ラズ、神ヲ禮拜スルハ根本ニシテ正義ノ行爲ハ結果ナリ、其根本ナル者ハ必ズ其結果アルナリ、
 基督教ハ其教義ノ完全ナル模範ナリ、利己主義ニ非ズシテ平等公義ナル者ナリ、人或ハ國家ノ爲メ、衆民ノ爲メ、道理ノ爲ニ、其身ヲ棄ル者アリト雖モ、家族朋友ノ間ニ在テハ私事ヲ以テ大切ト爲ス者多シ、基督教ハ則チ然ラズ、諸人ノ爲ニ生命

ヲ棄タル者ナリ、朋友ノ間ニ在テモ己ヲ思ハズシテ苦勞スル者ナリ、終身一己ノ爲ニハ一言一行ヲモ爲サズ、諸人ニ麵包等ヲ施シタルコアリト雖モ一己ノ財產ナシ、人民ハ基督ヲ奉シテ皇帝ノ位ニ昇ラシムルノ意アリト雖モ家モ無カリシ者ナリ、人ノ虐遇ニ報ズルコナク、反テ敵ヲモ惠ム者ナリ、故ニ爾曹ノ敵ヲ愛シミ爾曹ヲ詛フ者ヲ祝シ、爾曹ヲ憎ム者ヲ善視シ、虐遇迫害モノ、爲ニ祈禱セヨ、如此スルハ天ニ在ス爾曹ノ父ノ子タラシ爲ナリト教ヘ給ヘリ、己ノ行爲ハ全ク此教ヲ顯ハス者ナリ、嘗テ敵ヲ憎ムコナク、又驕奢ノ心ナク、而シテ完全ナル謙遜アリ、高慢ナクシテ人間ノ名譽ヲ好マズ、己ヲ尊崇セシムルコナシ、常ニ眞直ニシテ平易ナル語ヲ以テ人ヲ教ヘタル者ナリ、人ヲシテ驚異セシムルカ爲

ニ組織シタル難辭ナク、或ハ能辨者流ノ華美ナル語ヲ以テ教ヘタルコナク、簡易質朴ニシテ貴重ナル言ヲ以テ人ヲ教ヘタリ、而シテ其教義ノ勢力ハ今日ニ至ルマデ保持スル所ナリ、其教義ニ於テハ高位高官ヲ望ムコナク、其眼ヲ以テ之ヲ視レハ人ハ、則チ人ニシテ官民ノ別ナク、有識無識ノ差ナク、人類同等衡平ニ救濟ヲ望ムコトヲ得テ、羅馬ノ方伯ピラトニ對シテモサマリヤノ婦ニ向テモ同様ノ情態ナリ、人ノ位官ニ由リ異ナル言ナク異ナル志ナシ、是ノ如ク謙遜ナル者ナレモ、又大ニ勢力アル者ナリ、而シテ他人ノ説ヲ受ケタル者ニ非ズ、古來ノ口傳ヲ述ブル者ニ非ズ、全ク一己ノ權利ヲ以テ一己ノ説ヲ述ベタル者ナリ、世間未ダ是ノ如キ權利アル言ヲ聞カザルナリ、一己ノ權利ヲ以

猶太ノ教義ト禮式トヲ改メ或ハ之ヲ廢棄シ猶太人モ亦
 其言ヲ聞キ其權利ニ驚愕シ集リタル人々其教ニ駭キア
 リ蓋ハ學者ノ如ナラズ權威ヲ有テル者ノ如ク教ヘ給ヘ
 ナリ
 又基督ヲ執ヘントシテ向フ所ノ官吏モ其教ヲ聞テ之ヲ執
 ヘズシテ曰ク未ダ斯人ノ如ク云ヒシ人アラズト邊陲ニ生
 レタル無學ノ人ト雖モ勇氣アリ勢力アリ以テ尊貴ナル學
 士判官祭司ヲ戒メ教ヘズリ避遠ナル耶撒列ノ人ニシテ大
 都會ナル耶路撒冷ノ殿ヲ清メ人ノ面ヲ畏ルコナク何人
 ノ前ヲモ憚ルコナク只真理ヲ直言シタリ蓋シ能ク真理ヲ
 知り又能ク之ヲ守ルニ由テ生ズル所ノ勇氣ナリ讀者基督
 ノ眞ヲ見ヨ人或ハ眞ヲ以テ大要アル者ニ非ズト爲シ偽ハ

人ノ常情ナリト爲ス者有ト雖モ基督ノ眞ヲ考フルニ眞ハ
 尤モ貴重ナル質ナリ基督ハ固ヨリ偽ヲ言フコナシ祭司ノ
 長ト羅馬ノ方伯トノ前ニ出テモ其身ヲ救ハシガ爲ニ誠ヲ
 言フノ考ナシ心ヲ盡シテ眞ヲ取り眞ハ生命ヨリモ官位ヨ
 リモ財寶ヨリモ尤モ大事ト思ヒ給ヘリ又其行ニ於テモ更
 ニ偽ヲ含ムコナシ義ナル天國ヲ立ルガ爲ニ此世ニ降り給
 ヘリ然レモ猶太人ハ其義ナル天國ノ主意ヲ解セズ猶太ヲ
 以テ羅馬帝國ノ如ク貴キ國ト爲シ基督ニ請テ其皇帝ト爲
 シ奇異ノ怪カヲ恃テ羅馬政府ノ羈絆ヲ脱シ之ニ代テ萬國
 ヲ併呑セント欲シタル者ナリ基督若シ其請ヲ允スコアラ
 バ容易ニ猶太ノ君主タル可キノ理由アリ若シ之ニ反シテ
 國人ノ求ムル所ヲ辭スレバ則チ十字架ノ死罪ヲ受クルハ

固ヨリナリ、然レ基督ハ心ニ快ヨク之ヲ辭シヌリ、基督ハ固ヨリ皇帝ナリト雖レ、義ト愛トヲ以テ帝國ヲ立ル者ナリ、眞ヲ棄テ武器ト怪カトヲ以テ帝國ヲ立ルガ如キハ、固ヨリ基督ノ意ニ適ハザルコナリ、其義ト愛ト十字架ノ死ニ由テ限ナキ眞ノ帝國ヲ立テシト欲スル者ナリ、

次ニ基督ノ信仰ヲ考ヘザル可カラズ、吾人世間ニ住スル者ハ大概眼前ニ見ヘタル者ヲ以テ大事トスル者ナリ、海陸軍ノ武威ノ如キ、銃炮ノ効力ノ如キ、政府ノ權利ノ如キハ、則チ以テ大權威力アル者ト爲ス可シ、羅馬ハ眞ノ帝都ニシテ永遠無究ニ傳フ可キ者ト爲シ、道理、義、眞、等ノ如キハ大ニ勢力アル者トハ思ハザリシナリ、基督ハ則チ否ラス、我若シ地ヨリ擧ラレナバ萬民ヲ引テ我ニ就ラセシト説キ給ヘリ、即チ

十字架ノ死ニ由テ萬民ノ上ニ眞ノ帝國ヲ立給フノ意ナリ、基督ノ目ヨリ之ヲ視レハ道理ト愛ト義トノ如キハ他ニ勝レテ最大ノ勢力アル者ナリ、其信仰ハ實ニ眞ナリ、羅馬ノ帝國ハ其後屢々盛衰アリ興廢アリ、又歐洲中ニ帝國數多アリト雖レ、亦忽チ盛ニシテ忽チ衰フル者ナリ、結局歐洲ノ帝國ハ漸次ニ新陳交代シテ、遂ニ其終局ヲ知ル可カラズ、基督ノ十字架ニ由テ立タル帝國ハ連綿陸續シテ愈々繁盛ナリ、今此第十九世紀ハ萬民ヲ引テ基督ニ就ラシムルノ時ナリ、基督ノ信仰ハ忠義ト勇氣トノ至極ナル者ナリ、眼前ニ徵候ヲ顯ハシタル勢力ヲ見テ、之ニ從フハ易キタル事ナリ、現在強盛ナル帝國ニ忠義ヲ盡スモ亦通常ノ凡民ナリ、軍陣ニ生命ヲ棄ルハ兵ノ常ナリ、然リト雖レ、眼ニ見エザル無形ノ道理

ヲ信シテ、眞義愛ヲ以テ羅馬ノ陸軍ヨリモ大勢力アル者ト爲シ、羅馬ノ帝都ヨリモ永存スル者ト爲シ、其道理ノ爲ニ死刑ヲ甘受スルハ眞ノ勇氣ニシテ眞ノ忠義ノ極度ナリ、是即チ基督ノ勇ナリ、基督ハ人ヲ恐レテ十字架ニ赴キタルコトナシ、十字架ニ由テ勝利ヲ得ルコトヲ深ク信シタル者ナリ、基督ノ心ニ於テ神ヲ信ズルコト最モ堅シ、是只知覺ノミニ由ルニ非ズ、事實ニ由ルナリ、神ハ天地萬物ヲ制御スル者ト信シタルガ故ニ、加利利ノ湖ニ暴風ニ會シテ小舟ノ中ニ寢タリ、門徒大ニ其激浪ニ恐レテ基督ヲ起セバ、則チ曰ク何故ニ斯ク恐ル、ヤ爾曹何ソ信ナキ乎ト、基督ハ人ニ向テモ暴風ニ向テモ更ニ恐ル、所ナシ、蓋シ神ハ我父ナリト信シ心常ニ温良ナレバナリ、

又基督ハ聖ナリ、人ノ善行ニ就テ基督ノ教義ハ世間ノ聖人ノ教ヨリモ貴キ者ナリ、又基督終身ノ間ニ汚言ナク穢行ナク又罪業ナシ、基督ノ言行ニハ一點ノ惡評アルコトナシ、惡評ハ斯ノ如ク完全ナル心思ト言行トニ來ル可キニ非ズ、基督生涯一切ノ關係ニ於テモ亦全ク聖義ナル者ナリ、基督在世中ニ敵アリ、大ニ之ヲ憎テ之ヲ虐遇シ、終ニ死刑ニ處スルニ至ルト雖モ其行ニ就テハ之ヲ不義ナリト云フコトナシ、又基督死後今日ニ至ルマデ、道德學者中ニモ亦一人モ其行ニ惡アリ罪アリト云フ者ナシ、實ニ完全無比ノ善行ナリ、釋迦孔子、サクラテースト雖モ生涯完全ノ聖人ナリト云フコト能ハズ、人生アリテヨリ全ク聖義ナル者ハ只基督アルノミ、基督ハ斯ノ如ク聖ナルガ故ニ、罪惡ヲ憎ムモ亦避ク可カラ

ズ、基督ハ勢ナク志ナキ者ニ非ズ、罪ハ神ニ對スルノ謀反ナ
 リ、又人心中ノ神像ヲ亡ス者ナリ、罪ノ報ハ死ナリト云フコ
 ヲ深ク感シテ、其心ハ罪ニ向テ火ノ如キ者ナリ、是ニ於テ基
 督ハ人ニ異ナル者ナリ、孔子ハ道德ノ學ヲ立ツレド、罪ニ就
 テ大ニ嫌フ所アルヲ見ス、釋迦ハ人ノ苦ヲ恤ミタリト雖モ
 其罪ヲ思フコ甚シカラズ、然ルニ基督ノ考ニ於テハ人ノ罪
 ヲ以テ其苦ヨリモ大事ト爲シタリ、且人ノ苦辛ヲ矜恤ミ給
 フコ尤モ大ナルヲ以テ之ヲ救助センガ爲ニ寢食ノ暇ナキ
 ニ至レド、而モ其最大事トスル所ノ目的ハ人ノ罪ヲ救ハシ
 トスルニ在リ、故ニ子ヨ心安カレ爾ノ罪赦サレタリト曰フ
 ハ、癡癡ノ者ニ起テ床ヲトリ家ニ歸レト曰フヨリモ大事ト
 スルナリ、是ヲ以テ人タル者罪ヲ悔改メズ、續テ罪ヲ犯スコ

意アラバ、基督ハ最モ烈シキ言ヲ以テ之ヲ禁戒シ給ヘリ、而
 モ其何人タルヲ問ハズ、凡ソ是ノ如キ惡ヲ見レバ、恐ル、所
 ナク嚴肅ナル言ヲ以テ之ヲ禁戒シ給ヘリ、曰ク噫爾曹禍ナ
 ル哉偽善ナル學者ト「法利賽」ノ人ヨ、蓋ハ爾曹天國ヲ人ノ前
 ニ閉テ自カラ入ラス、且入ラントスル者ノ入ヲモ許サマレ
 バナリ、噫爾曹禍ナル哉、偽善ナル學者ト「法利賽」ノ人ヨ、蓋ハ
 爾曹娼婦ノ家ヲ呑ミ伴テ長キ祈ヲ爲ス、之ニ由テ爾曹最モ
 重キ罪ヲ受ヘケレバナリト、又曰ク、噫爾曹禍ナル哉、偽善ナ
 ル學者ト「法利賽」ノ人ヨ、蓋ハ爾曹薄荷苗香馬斤ノ十分ノ一
 ヲ取納テ律法ノ最モ重キ義ト仁ト信トヲ爾曹ハ廢ツ、是行
 フ可キ者ナリ、彼モ亦廢ル可カラザル者ナリ、替者ナル相者
 ヲ、爾曹ハ蠅ヲ漉出シテ駱駝ヲ呑ム者ナリ、噫禍ナル哉、偽善

ナル學者ト「法利賽」ノ人ヨ、爾曹杯ト盤ノ外ヲ潔クシテ内ニ
 ハ貪欲ト淫欲トヲ充セリ、替者ナル「法利賽」ノ人ヨ、爾曹先ツ
 杯ト盤ノ内ヲ潔セヨ、然ハ其外モ亦潔マル可シ、噫爾曹禍ナ
 ル哉、偽善ナル學者ト「法利賽」ノ人ヨ、爾曹ハ白ク塗タル墓ニ
 似タリ、外ハ美シク見ユレモ内ハ骸骨ト諸ノ汚穢ニテ充ツ
 此ノ如ク爾曹モ亦外ハ義シキ人ニ見ユレモ内ハ偽善ト不
 法ニテ充ツト、是ノ如ク嚴ニ禁戒スルハ、基督ノ聖キ魂ハ惡
 ヲ忌嫌フヨリ出タル言ニシテ自然ノ道理ナリ、忠義ナル兵
 士ハ謀反人ヲ忌嫌ヒ、清潔ナル女ハ醜汚ノ言行ヲ忌嫌フハ
 自然ノ勢ナリ、若シ之ヲ忌嫌フコナケレバ忠臣ニ非ズ、清婦
 ニ非ザルナリ、又基督ハ罪ヲ忌嫌ヒ給フニ由テ、其正義ナル
 ヲ知ル可キナリ、而シテ嚴酷ナル禁戒ノ言中ニモ亦恤ト愛

トヲ顯ハス者ナリ、醫師ハ尤モ深切ナル者ハ熱心ニ病根ヲ
 斷絶セント欲スル者ナリ、又理由アレバ生命ヲ救ハンガ爲
 ニ、如何ナル苦痛アルヲ顧リミズシテ、脱疽ノ手足ヲ切ルコ
 アリ、主耶穌基督モ亦是ノ如ク、靈魂ヲ滅亡スル所ノ罪ハ之
 ヲ嚴禁シテ以テ其大愛ヲ顯ハシ給フ者ナリ、是レ世人ヲ裁
 判スルノミナラズ之ヲ救ハンガ爲ニ前ニ引タルガ如ク言
 ヒ給ヘルナリ、斯ノ如ク嚴格ナル言ヲ以テ人ヲ戒メ給フ言
 中ニモ亦矜恤ノ深キ言ヲ含メリ、曰ク噫耶路撒冷ヨ耶路撒
 冷ヨ、豫言者ヲ殺シ、爾ニ遣ハサル、者ヲ石ニテ撃ツ者ヨ、母
 鶏ハ雛ヲ翼ノ下ニ集ル如ク、我爾ノ赤子ヲ集メントセシ
 幾次ツヤ、然レ爾曹ハ好マザリキト、故ニ少シク罪ヲ棄ルノ
 志アル者ハ何人ヲ論ゼズ、基督ノ悦テ受ル所ト爲リ其深切

ナル助ヲ得ルヲアラン、最モ非道ナル惡人ト雖也、娼妓ト雖也、盜賊ト雖也、若シ其罪ヲ悔イ之ヲ改ムルノ意アル者ハ、則チ基督ノ恩惠ヲ受ル者ナリ、是等ノ罪人ハ基督ニ從フノ意アリト雖也、力及バザルガ爲ニ、又屢々惡事ヲ爲スヲアリ也、基督ハ耐忍シテ教ヘ助ケ導キ給ヒ、悔改ムル毎ニ其惡事ヲ宥シテ朋友ノ如ク交際シ給フ者ナリ、

嚴シク人ヲ戒ムルト雖也、其禁戒中ニ一點ノ利己主義ヲ含マズ、耶路撒冷ノ人ハ基督ヲ訴テ之ヲ殺スノ意アリ、基督ハ十字架ヲ負テ刑場ニ臨ム時衆ノ民及ビ婦等モ從フ、婦等ハ彼ヲ哭キ哀シメリ、耶穌彼等ヲ顧ミ曰ケルハ、耶路撒冷ノ女子ヨ、我爲ニ哭ク勿レ、惟己レト己ノ子ノ爲ニ哭ケト、又十字架ニ釘ラレテ其苦中ニ己ヲ殺ス者ノ爲ニ神ニ祈リ曰ケル

ハ、父ヨ彼等ヲ赦シ賜ヘ、其爲ス所ヲ知ラザルガ故ナリト、上ニ説ケルガ如ク少シク基督ノ質ヲ考フレバ該撒、摩哈麥孔子、釋迦等ニ比スレハ大ニ異ナル所アルヲ知ル可ク、又前ニ人ノ考ヘテ以テ完全ト爲ス所ニ比スルモ、尙之ヨリ貴キ者ナリ、例ヘハアリストターノ所謂「トーアガトン」即チ全善ナル者、及ビ儒道ニ所謂ル聖人ナル者ヲ見ルモ、共ニ未ダ基督ニ及バザルヲ遠シ、基督ハ大勇ニシテ謙遜ナリ、勢力アリテ己ニ克チ、完全ノ道德アリテ完全ノ信仰アリ、教誡嚴ニシテ矜恤大ナリ、其言ハ全義ニシテ全愛アリ、一千八百年間之ヲ講究スレ也、人未ダ其質ニ於テ不足アルヲ見ズ、

此結果アルガ故ニ必ズ其原因ナカル可カラズ、基督ニ完全ナル質アレバ、必ズ之ニ十分ナル原因ナカル可カラズ、人ニ

異ナル者ナレバ、其異ナルニ由テ神ノ勢力ヲ見ル可シ、教會ノ教ニ由レバ基督ハ神ノ子ナリ、此教ヲ信ズレバ則チ十分ニ其完全ナル質ヲ知ルコトヲ得ヘシ、若シ之ヲ信ゼザレバ他ニ之ヲ説明スルノ道ナシ、然レバ則チ基督ハ何人ナルヤ、之ヲ調査セント欲スレバ必ズ其質ヲ十分ニ講究セザル可カラズ、若シ之ヲ講究スレバ則チ基督ノ完全ナル人性ニ由テ其神性ヲ信仰スルコトヲ得ヘキナリ

○第七章 奇蹟

奇蹟ニ就テハ議論紛々タルガ故ニ必ズ先ヅ其意味ヲ知ラザル可カラス、通常自然ノ勢力ノ外ニ出テ神ノ目的ヲ顯ハス之ヲ奇蹟ト云フ、通常自然ノ道理モ亦神ノ目的ヲ顯ハスト雖モ、之ヲ奇蹟ト云フコト能ハズ、又只不思議ナル事ヲ以テ奇蹟ト爲ス能ハズ、昔種々ノ不思議ヲ以テ奇蹟ト爲シタル者アリト雖モ、世間漸ク學問ノ開明スルニ由テ、通常自然ノ原因ハ既ニ之ヲ知ルヲ以テ其奇蹟ニ非ザルヲ知レリ、然レバ則チ常理ニ由ラズ特別ノ法ヲ以テ神ノ目的ヲ顯ハス者ニ非ザレバ奇蹟ト謂フ可カラス、自然ノ順序ニ依ラズシテ神業ヲ顯ハシ給フ是ヲ奇蹟ト云フ、而モ天法ニ違ヒ天理ニ背テ之ヲ爲シタリト云フニ非ズ、又如何ニシテ神此事業ヲ

爲シ給フト云フニ非ズ、凡ソ人タル者ハ一己ノ自由ナル心ニ從ヒ、自然力ヲ以テ種々ノ事業ヲ爲ス者ナリ、夫自然力ナル者ハ人之ヲ行ルノ意ナクシテ自然ニ直行スル者ナリ、人若シ人智ヲ以テ自然力ヲ用ヒテ、其通常ノ順序ヲ改メ、之ヲ變ジテ別事ヲ成サシムルコトアリ、然レハ則チ何ニ由テ人間ノ所爲ト自然ノ所爲トヲ辨別スルコトヲ得ヘキ乎、人間ノ所爲ハ人事ノ徵候ニ由テ之ヲ知ル可シ、何ヲカ其徵候ト云フ、人ノ意匠ノ顯レ來ルヲ曰フナリ、凡ソ人ノ意匠ノ顯レ來ル者ハ即チ人間ノ所爲タルヲ知ル可シ、夫人ハ自己ノ意匠ニ從テ何程ノ事ヲ爲シ得ル乎、其能力ニ由テ之ヲ知ル可ク、又所謂ル自己ノ所爲ト自然ノ所爲トヲ辨別スルコトヲ得ヘシ、且人智ノ漸ク開進スルニ隨ヒ、其望ム所ノ事ヲ爲シ得

ルノ能力ハ自然ニ増加ス可シ、而モ固ヨリ之カ爲ニ益々自然ノ道理ニ背クニ非ス、反テ益々自然ノ道理ヲ利用シテ以テ己ノ望ヲ達スルコトヲ得ルナリ、例ヘハ野蠻人民ト雖モ幾分か其望ム所ノ事ヲ爲スコトヲ得ヘシ、若シ食物ヲ取ルノ望アレハ則チ之ヲ取ルコトヲ得ヘシ、其之ヲ取ルハ即チ其人ノ望ニ由ル者ナリ、自然ノ道理ヲ以テ之ヲ説明ス可キニ非ス、若シ自然ノ道理ニ由レハ案上ニ置ク所ノ食物ハ其情力ニ由テ常ニ案上ニ在ル可キ者ナリ、野蠻人ノ望ニ由レハ其手ヲ以テ之ヲ揚クルコトアリ、只情力ノ道理ヲ以テスレハ決シテ之ヲ説明スルコト能ハス、若シ之ヲ説明セント欲スル者ハ必ス人ノ望ヲ以テ原因トセサル可カラス、開化人民ハ其發明スル所ノ種々ノ道理ヲ合セテ、遂ニ電信ノ如キ奇器ヲ作

ルコヲ得ヘシト雖也、若シ人間ノ智識ト意匠トヲ外ニシテ
只自然ノ道理ニ由レハ決シテ電信ヲ説明スルコト能ハス、野
蠻人ハ決シテ之ヲ作ルノ能力ナシ、仮令之ヲ聞ク也其妙用
ヲ信スル能ハサル可シ、然レ開化人ノ眼ヲ以テ之ヲ觀レハ
決シテ不思議ノ者ト爲ス可カラス、故ニ人タル者ハ己ノ智
識ト望トヲ以テ珍奇ノ力ヲ作爲スルコトヲ得ヘシ、是ヨリ進
テ神ノ事ヲ考フレハ奇蹟ハ信仰セラレサル事ニ非ス、野蠻
人ト開化人トノ智力ヲ比較スレハ其差違頗ル大ナリト雖
也、又開化人ト神トノ智力ヲ比較スレハ其差違同日ノ論ニ
非サル者ノ如シ、神ノ智ト能トハ完全ナル者ナリ、故ニ人爲
ハ不完全不十分ナリト雖也、神業ハ完全無缺ナリ、而シテ人
間ノ所爲ハ人ノ智ト能トヲ顯ハスカ如ク、神ノ所業ハ亦神

ノ智ト能トヲ顯ハス者ナリ、凡ソ天地萬物ハ常ニ神智ヲ顯
ハス者ナリ、其論ハ載セテ自然神學ニ在リ、又奇蹟ハ特ニ神
智神慮ヲ顯ハス者ナリ、而シテ神ハ是ノ如キ異能ヲ顯ハシ
得ルトハ普ク人ノ信仰スル所ニシテ、尤モ當然ノ事ナリ、何
トナレハ若シ之ヲ信認スルコト能ハストスル者ハ、神ヨリモ
智能多キ者タラサル可カラス、即チ受造物タル人類ハ其望
ニ隨テ諸事ヲ爲スコトヲ得テ、造物主タル神ハ反テ自然ノ道
理ニ從ヒ、神慮ニ隨テ何事ヲモ爲スコト能ハスト云フカ如キ
說ヲ爲ス者ナリ、野蠻人ハ眼病ヲ治スルコト能ハスト雖也、人
智ノ開明ナルニ隨ヒ醫療ヲ以テ眼病ヲ治スルコトヲ得ルナ
リ、既ニ人間ノ智能ヲ以テ之ヲ爲シ得ル者トセハ、神ノ完全
ナル智能ヲ以テスレハ、療治ヲ施サルモ直接ニ眼病ヲ愈

百七十六
スコヲ得ヘシ、然ルニ、之ヲ愈スハ不思議ナリ、道理ニ合ハサルコトナリトスル者ハ、重ニ物質學ヨリ出ル所ノ議論ナリ、學者或ハ物質學ノミヲ研究シテ人ニ自由アリ智力アルヲ忘レ、唯物論ト爲リ天地萬物ハ只器械ノミナリトスル所ノ説ナリ、而シテ其器械タル組織ノ原因ニハ只勢力ノミアリテ、奇蹟ト云フ可キ者ナシト爲ル者ナリ、此人如キ誤謬ヲ正サント欲スレハ畜ニ物質ノミナラス、又人ノ精神ノ組織ヲ研究セサル可カラス、是宗教ト學問ノ反對スルニ非スシテ、學問ニ廣狹ノ反對スル所アルナリ、唯物論ハ神ニ對シテ頗ル威力アルカ如ク、人ノ自由及ヒ能力ニ對シテ亦頗ル威力アル者ナリ、故ニ人ノ智力ト自由トハ愚説ナリト云ハ、亦神ノ奇蹟モ同シク愚説ナリト云ハサル可カラス、到底無神論

百七十七
者ノ考ニ由レハ奇蹟ヲ信仰スルコト能ハス、神ヲ信スル者ハ決シテ奇蹟ヲ無視スルノ議論ヲ立ルコト能ハス、然ト雖モ又一説アリ、神ハ奇蹟ヲ爲スノ能力アリト雖モ、博ク天地萬物ヲ審査スレハ奇蹟ヲ爲スノ徵候ヲ見ス、又學問ノ進歩ニ由テ天地萬物陸續直行スル者ニシテ、其中ニ少シモ神ノ異業ヲ顯ハスコトナシト云フ、此事ニ就テ諸學問ノ證據ハ恰モ皆相同シク、地球ニ於テモ天體ニ於テモ昔時ニ於テモ今時ニ於テモ、學問ヲ以テ奇蹟ヲ見ルコトナシ、又如何ニ博ク學問ヲ爲スモ只自然ノ道理ノ眞直ナルヲ見ルノミニシテ、特別ナル異情アルヲ見サルナリ、故ニ學問上ニ於テハ奇蹟ノ證據ナシ、奇蹟ノ證據ハ僅ニ無學ノ者ノ立ル所ノミナリ、學問ノ證據ニ由レハ天地間ニ神ノ特別ナル異業アル

「ナシ、只或無學者ノ證據ニ於テハ特別ナル異業、即チ奇蹟アリタリ、ヒーム先生ノ有名ナル議論ハミル先生ノ講義ニ由レハ大約斯ノ如シ、是ヨリ以下本章ニ於テハ此事ヲ考究セサル可カラス、

第一 神ハ奇蹟ヲ爲シ給フ者ナルヤ否ヤ、是證據ニ由テ當ニ論定スベキノ問題ナリ、神若シ奇蹟ヲ爲シ給フアレハ、必ス其奇蹟ノ證據アル可キナリ、學者ハ他ノ萬事ヲ調査スルカ如ク、奇蹟モ亦研究セサル可カラス、然ト雖モ奇蹟ヲ調査セント欲スル者ハ、奇蹟ノアル所ニ就テ調査セサル可カラス、天文學者ハ天文學ノ事物ヲ調査セサル可カラス、地質學者ハ地質學ノ事物ヲ調査セサル可カラス、各其道理ノ在ル所ニ就テ調査セサル可カラサルカ如ク、奇蹟ヲ論スル學

者ハ必ス宗教ノ事物ヲ考ヘサル可カラス、天文學ヲ以テ地質學ノ道理ヲ論定スルコト能ハサルカ如ク、物質學ヲ以テ奇蹟ノ有無ヲ論定スルコト能ハス、只基督ノ事蹟ヲ詳細ニ調査シテ以テ奇蹟ノ有無ヲ謂フコトヲ得ヘキノミ、

第二 基督ノ奇蹟ハ全ク萬事ヨリ離レタル者ニ非ス、反テ世間ノ萬事ニ關係アリ、歴史ノ長鏈中ニ在ル一環ノ如キ者ナリ、社會ノ進歩、歴史ノ沿革、皆大概教會ノ諸事ニ關係アル事ナリ、皆ニ關係アルノミナラス、基督ノ奇蹟ヲ除テハ是等ノ諸事ヲ説明スルニ十分ナル原因ナキ者ナリ、是等ノ事ハ茲ニ之ヲ細論スルヲ要セサルヲ以テ、只茲ニ之ヲ一言スルノミニシテ足レリトス、

第三 基督ハ奇蹟ノ奇蹟ナリ、神ハ天地萬物ニ在シ、特ニ基

督ニ由テ不思議ニ榮光ヲ顯ハシ給ヘリ、其教義ハ神ノ眞ヲ
 顯ハシ其完全ナル質ハ神ノ愛ト義トヲ顯ハシ、其奇蹟ニ由
 テ神ノ能力ヲ顯ハシ給ヘリ、故ニ能ク自然力ヲ以テ制御ス
 ル所ノ勢力ヲ顯ハシ給ヘリ、是ニ由テ之ヲ觀レハ若シ奇蹟
 ナケレバ基督ノ示現ハ未ダ十分ナラザルナリ、何トナレバ
 其勢力ヲ顯ハスコトナケレバナリ、奇蹟ハ啻ニ示現ノ證據ノ
 ミニ非ズシテ、又示現ノ一部分ナリ、
 基督ノ奇蹟ハ基督ノ傳記ノ大事ナル部分ナリ、基督降世ヨ
 リ復々天ニ昇ル時ニ至ルマデ、奇蹟ナケレバ基督ノ傳記ナ
 シ、其說教ト演說ニ於テモ奇蹟ニ關スル者多シトス、若シ奇
 蹟ナケレバ基督ノ傳記ハ多言ヲ費スニ足ラザル可シ、基督
 若シ奇蹟ヲ行ハザレバ吾人ハ基督ヲ知ルコト能ハザル可シ、

基督ニシテ奇蹟ナクハ歴史ニ著明ナル人ノ中ニ就テ、基督
 ハ尤モ解シ難ク知リ難キ者ナル可シ、其完全ナル質モ亦無
 キ者ナル可シ、又何故ニ基督ハ斯ノ如ク大勢力ヲ出シタル
 カ其理モ亦知ル可カラザルナリ、是等ノ事ハ啻ニ思想ノミ
 ニ止マラズシテ、曩ニ八十年間輩出シタル有名ノ學士アリ、
 其學識ヲ以テ奇蹟ナキ基督傳ヲ著ハサントシテ頗ル大勢
 カヲ得タリ、此等ノ學士ハ基督ノ言行ト其教義トヲ信シテ、
 其奇蹟ヲ認メザリシ者ナリ、然ルニ此輩幾何ノ心勞ヲ爲ス
 モ幾何ノ工夫ヲ爲スモ、遂ニ望ヲ果スコト能ハズ、不信ナル學
 士モ亦之ヲ信認セザリシナリ、今其一例ヲ舉レバ、不信ナル
 一學士アリ、一個ノ理論ヲ立レバ直ニ他ノ不信ナル學士ア
 リ、前理論ノ不十分ナルコトヲ顯ハシ、之ニ代テ又一個ノ理論ヲ

立テント欲ス、又第三ノ不信ナル學士ハ第二ノ理論ヲ倒シテ、己一個ノ理論ヲ立テント欲シタリ、是ノ如クナレバ奇蹟ナキ基督ハ皆不十分ナリ、其不十分ナル事ヲ調査セント欲スレバ、不信者ノ書ヲ以テ明ニ之ヲ證スルコトヲ得ヘシ、是等ノ理論ハ後章ニ其一二ヲ掲ゲテ少シク論ズル所アラント欲ス、故ニ茲ニハ之ヲ詳論セズト雖モ、是等ノ理論ノ爲ニ反テ基督ノ神性ヲ顯明シタル事ヲ論ゼントス、不信ナル學士ハ是ノ如キ大勢力ト其學問トヲ以テ奇蹟ナキ基督傳ヲ著スハ反テ基督ノ爲ニスルノ結果ヲ顯ハシタリ、其說ニ由レバ基督ハ只猶太ノ教師ノ一人ナリ、虛偽ノ奇蹟ヲ以テ諸人ヲ欺ク者ナリ、特別ニ勝レタル教ナク、完全ノ質モナク、大ナル能力モナキ者ナリト云フ、若シ果シテ其說ノ如クナレバ、

基督教會ト之ヨリ出ル所ノ結果ハ理由ナキ者ト云ザル可カラズ如何ニ分析スルモ基督ノ言行ハ奇蹟ト分離スルコト能ハザル者ナリ、馬太、馬可、路加、三傳ノ中ニハ常ニ奇蹟アリ約翰傳ニハ奇蹟少シ、蓋シ其記スル所ハ大概基督ノ言ニ係ルヲ以テナリ然レモ其言中ニモ奇蹟ヲ説キタルコト妙カラズ、且其載スル所ノ奇蹟ハ尤モ意味深重ナル者ノ如シ、若シ不信者ノ理論眞ナリトセバ、基督教會ハ虛偽ノ上ニ立タル者ナリ、若シ果シテ然リトスルモ、其結果ヲ觀レハ、眞ヨリモ、眞正ノ上ニ立タル物ヨリモ善ナリ、而モ尙コレ虛偽ノ上ニ立タル者タラン乎、豈其然ランヤ、是等ノ說ハ實ニ奇蹟ヨリモ尙一層信シ難キ理論ナリ、之ニ反シテ教會ノ教義ハ甚ダ明亮ナリ、基督ノ完全ナル質ハ神ノ示現ナリ、神ヲ顯彰スル

者ナリ、此貴重ナル教義ハ神ノ教ナリ、隨テ其行爲モ亦神ノ自然力ヲ使用シタル者ニ外ナラザルヲ顯明スル者ナリ、第四 奇蹟ハ基督ノ完全ナル質ニ接續スル者ナリ、前ニ論シタルガ如ク、其奇蹟ヲ論ズレバ則チ其傳記ヲ知ル可ク、又基督ノ質ハ其勢力ヲ奇蹟ニ顯ハシタルヲ觀テ、以テ其質ノ完全ナルヲ知ル可シ、前章ニ於テハ少シク基督ノ質ヲ説明シ其眞ト恤ト義ト愛ト己ニ克ツトトヲ論シタリ、今基督ノ奇蹟ヲ學ベバ、奇蹟モ亦同シク其質ヲ顯ハス者ナリ、故ニ基督ノ質ハ他人ノ質ト異ナルガ如ク、其奇蹟モ亦他ノ歴史ニ記シタル奇蹟ト異ナル者ナリ、茲ニ其異ナル所ヲ見給ヘ、夫摩哈麥ハ日中ニ天地ヲ暗カラシメ、月輪天ヨリ出テ摩哈麥ニ來リ、其右袂ニ入テ直ニ左袂ニ出タリト、此ハ是回々教ノ

可關ニ載セタル奇蹟ナリ、釋迦ハ其通力ヲ顯ハサシガ爲ニ其徒弟ノ眼前ニ於テ飛揚リ飛下リタルコアリ、或ハ木像ヲシテ汗ヲ流サシメ、眼ヲ開閉セシメタルコアリト云フ、其他是ニ類シタル數多ノ奇事ヲ記シタリ、特ニ印度ノ書ヲ讀メバ不思議ニシテ且笑フ可キコ數多アリ、基督ニ就テハ徒ニ是ノ如ク不思議ナル珍事アルコナシ、若シ不思議ノ事アレハ則チ必ズ道理ニ合ヒ、基督ノ質ニ適ヒタル事ナルガ如シ、其教義ハ利己主義ニ非ザルガ如ク、奇蹟モ亦利己主義ニ非ズ己ノ爲ニ奇蹟ヲ爲シタルコナシ、他人ニ食ヲ施シタルコアリト雖、己ノ爲ニ不思議ニ食ヲ作りタルコナシ、又敵ノ手中ニ在テ身ヲ救ハンガ爲ニ奇蹟ヲ爲シタルコナシ、己ノ無事ノ爲メ、己ノ榮利ノ爲メ、己ノ快樂ノ爲ニ、奇蹟ヲ爲シタル

百八十六
コナシ、又基督教ハ敵ヲモ愛セヨト云フ教ナルヲ以テ、其奇蹟ニ於テモ亦之ヲ以テ敵ヲ亡シタルコナシ、其奇蹟ハ憎惡或ハ憤怒ヲ顯ハス者ニ非ズ、門徒ハ基督教ニ頼テ不思議ヲ以テ敵ヲ亡シ給ヘト云フモ、基督教ハ更ニ其心ナシ、又基督教ノ謙遜ト質朴トモ亦奇蹟ノ中ニ顯ハレタリ、完全ナル質ヲ離レテ奇蹟ヲ行ヒタルコナク、皆其質ヨリ出タル者ナリ、衆人ニ食ヲ施シタル時ノ奇蹟ハ之ガ爲ニ初メ五箇ノ麵包ト二尾ノ魚ヲ以テシ、又不思議ニ酒ヲ造リタレト、先ヅ僕等ニ命シテ水ヲ汲シメ給ヒタリ、又死人ヲ甦ラセタルコアレト、人手ヲ以テ先ヅ其墓ヨリ石ヲ移去ヨト命シ、後遂ニ起出タルナリ、基督教ハ是ノ如ク十分ナル勢力アルガ故ニ、不思議ニ是ノ如キ事アルナリ、其奇蹟ハ不思議ナリト雖モ、其質ノ完全ナ

百八十七
ルニ合ヒテ、直ニ自然ノ道理ノ中ニ入ル者ナリ、且基督教ハ神ノ子ナリト雖モ、亦完全ニシテ人ノ子ナリト見ヘタリ、其生ル、ハ不思議ナレト、後ニ常人ノ如ク悲シミ苦シミテ死ヲモ受タル者ナリ、基督教ハ奇蹟ヲナス時ニ於テ其能力ハ不思議ナリト雖モ、其成績ハ則チ自然ナリ、是ノ如ク自然ノ物ヲ以テ奇蹟ヲ行ヒ給ヘリト雖モ、自然ノ道理或ハ人間ノ能力ヲ以テ奇蹟ヲ説明スルコト能ハズ、必ズ人間ノ能力ノ上ニ又別ニ異能アルニ非ザレバ爲ス可カラザル事多シ只手ヲ按テ生來ノ盲目ヲ癒シ、麩包五、魚二ヲ以テ五千人ノ食ニ供シテ餘アリ、其屑十二籠ニ滿チタリ、風モ海モ皆其命令ニ從ヒタル者ナリ、又其言ヲ以テ死人ヲ甦ラシメタルコアリ、一言ヲ以テ之ヲ云ヘハ、一切ノ自然力ヲ使

用ジ之ヲ制御スルノ權利ヲ有テ給ヘルヤ明矣、是只神ノ特
 殊ナル全能ヲ説明スルヲ得ヘキ者ナリ、
 又基督ノ愛ト恤トモ亦奇蹟ノ中ニ明ナリ、其奇蹟ハ只休徵
 ノ爲ニ行ヒタルニ非ズ、又只己ノ神聖ナルヲ顯表セシガ爲
 ニ行ヒタルニ非ズ、而モ奇蹟ハ基督ノ神聖ナルヲ顯彰シタ
 ル明證ナリト雖也、其證ハ則チ奇蹟ノ附屬タルニ過ギズ、米
 國ノ富豪ビーバデ氏ノ施與夥多ナルハ其財産ノ巨大ナル
 ヲ顯サンガ爲ニ行ヒタルニ非ズ、而モ其施金ヲ以テ設立シ
 タル學校、貧院ヲ觀レバビーバデ氏ノ富有ナルコト明ナリ、基
 督モ人ヲ矜恤シテ之ヲ救ハンガ爲ニ奇蹟ヲ行ヒ給ヘルナ
 リ、若シ其神聖ナル矜恤ニ頼ムコトアラバ、則チ其神聖ナル勢
 カヲ以テ之ヲ助ケ給フコトアルベシ、其目的ハ則チ吾人ヲ助

ケ給フニ在リト雖也、人ハ之ヲ觀テ只其不思議ナル勢力ニ
 感ズルノミ、

吾人其性質ト、其奇蹟トノ一致シテ相同ジキヲ顯ハスコヲ
 得ヘシト雖也、茲ニ之ヲ論ズルノ餘暇ナシ、基督ノ教ト其行
 トハ全ク相合フ者ナリ、而シテ奇蹟モ自然ニ其性質ヨリ出
 ル者ナリ、故ニ其教ト行ト奇蹟トヲ併セテ、之ヲ學ベバ則チ
 不足ナル所ナク、一致セザル所ナカル可シ、又如何ニ嚴密ニ
 之ヲ吟味スル也、福音書ニ出タル耶穌ノ傳記ハ實ニ完全ナ
 ル者ト見ヘタリ

ミル氏ノ説ニ由レハ基督ノ質ト其教義ハ事實ナリ、何トナ
 レハ基督ノ門徒ハ是ノ如キ質ト是ノ如キ教義トヲ説出ス
 可キ學力ナケレハナリ、凡ソ無學ノ人ハ多ク奇法ヲ作ルコ

ヲ得ヘシト雖也、基督ノ質ト教義トノ如キニ至テハ學者ノ
 智識ノ遠ク及ハサル所ナリ、完全ナル教義ト完全ナル質ト
 ハ自カラ其事實ヲ顯ハス者ト見ヘタリ、然ト雖也又一説ア
 リ奇蹟ハ無學ノ人ノ過信ヨリ出ル者ナリト云ヘリ、無學ノ
 信者ハ過信ニ由テ種々ノ奇話ヲ作り出シ得ルト云フハ實
 ニ然リ、佛法ニ於テモ回教ニ於テモ、紀元後二三百年来ニ至テ
 ハ基督教ニ於テモ、亦實ニ此類ノ事アリト見ヘタリ、然モ是
 等ノ無學ノ信者ノ作りタル奇話ハ常ニ不可思議ニシテ奇
 モ亦甚シク、遂ニ自カラ其誤謬ニシテ道理ニ合ハサルコトヲ
 顯ハス者ナリ、基督ノ奇蹟ハ之ニ異ナリ、自カラ其原因ヲ顯
 ス者ナリ、前ニ論シタルカ如ク基督ノ完全ナル質ト教義ト
 ニ相同シキ者ナリ、故ニ其無學ナル門徒ハ基督ノ教義ト質

トヲ作り得サル者ナリ、然ラハ則チ聖書ニ載スル所ノ奇蹟
 ヲモ亦作り出スノ學力ナカル可シ、基督ノ教義ト質トハ自
 カラ其事實ヲ顯ハス者タラハ、其奇蹟モ亦自カラ其事實ヲ
 顯ハス者タル可シ、故ニ基督ノ質ト教義ト以テ其神性ヲ見
 ル可キカ如ク、其奇蹟モ亦以テ其神性ヲ知ルコトヲ得ヘシ、
 第五 今一層詳細ニ此証據ヲ調査センカ爲ニ奇蹟中ノ一
 大奇蹟ヲ考定ス可シ、即チ基督ノ復活是ナリ、此奇蹟ハ本論
 ノ爲ニ一大要事ナリ、若シ其證據不十分ト見認ル者ハ、則チ
 他ノ奇蹟ノ證據ハ論スルヲ要セス、之ニ反シテ若シ此奇蹟
 ノ證據十分ナラハ則チ他ノ奇蹟モ亦信スルコト能ハサル事
 ニ非ス、
 第一項 基督ノ死ヨリ復活シタル證據ヲ考フルニ特ニ其